

新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
 (2) 記号
 d...異形鉄筋の呼び名に用いた数値(径) D...部材の成、又は鉄筋内法直径
 @...間隔 r...半径 C...中心線 lo...部分間の内法距離 ho...部材間の内法高さ
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

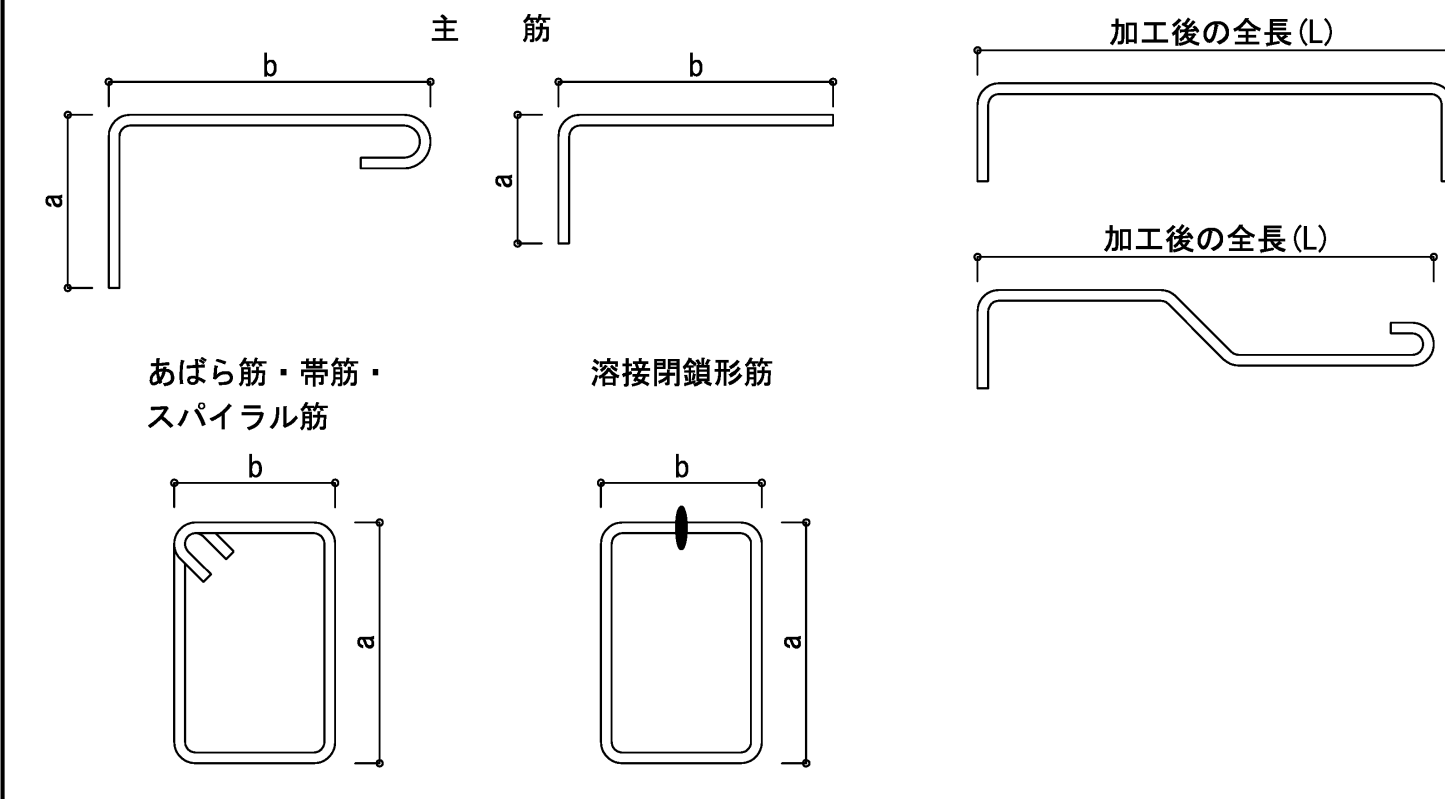
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
	135°		D19~D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	5d以上
	90°	SD490	D29~D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
 (2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
 (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
 (6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差 (mm)

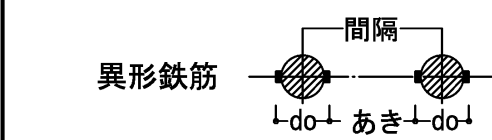
各加工寸法(1)	項目		符号	許容差
	主筋	D25以下 D29以上D41以下		
加工後の全長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	a, b	±15
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	a, b	±20
加工後の全長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	a, b	±5
加工後の全長	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	a, b	±20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

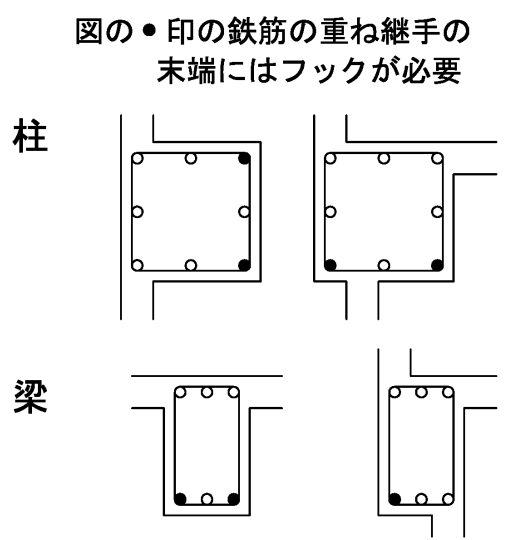
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



(4) 鉄筋のフック

a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

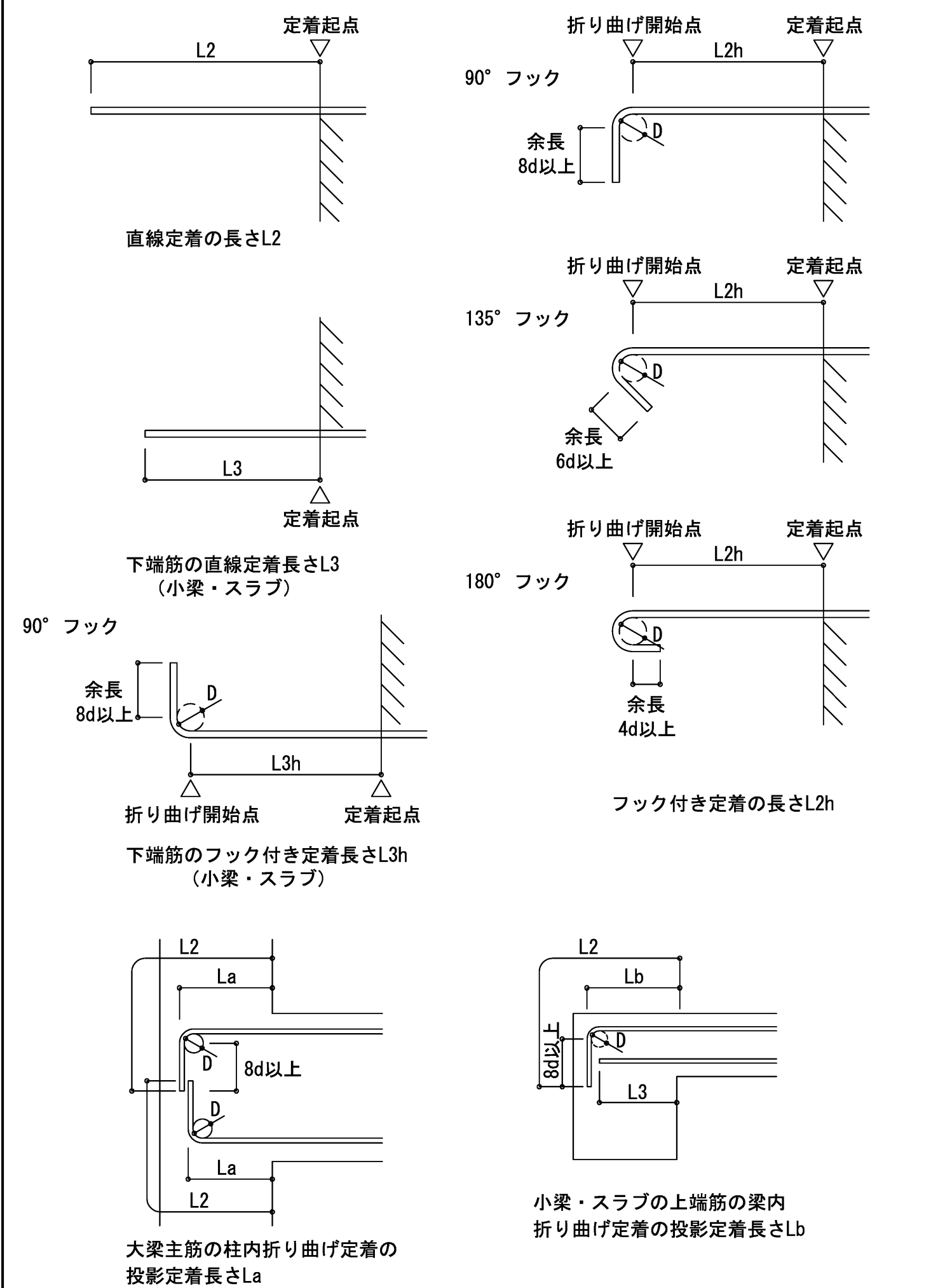
- あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
- 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
- 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所



(5) 定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ						
		一般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La ⁽³⁾	Lb	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	L3 (フックなし)
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d
	21	35d	25d	15d	15d			
	24~27	30d	20d	15d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d
	21	35d	25d	20d	20d			
	24~27	35d	25d	20d	15d			
	30~36	30d	20d	15d	15d			
	39~45	30d	20d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d
	24~27	40d	30d	20d	20d			
	30~36	35d	25d	20d	15d			
	39~45	35d	25d	15d	15d			
	48~60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24~27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30~36	40d	30d	25d	—			
	39~45	40d	30d	20d	—			
	48~60	40d	30d	20d	—			
	48~60	35d	25d	20d	—			

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
 (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
 (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。



(6) 継手

■重ね継手

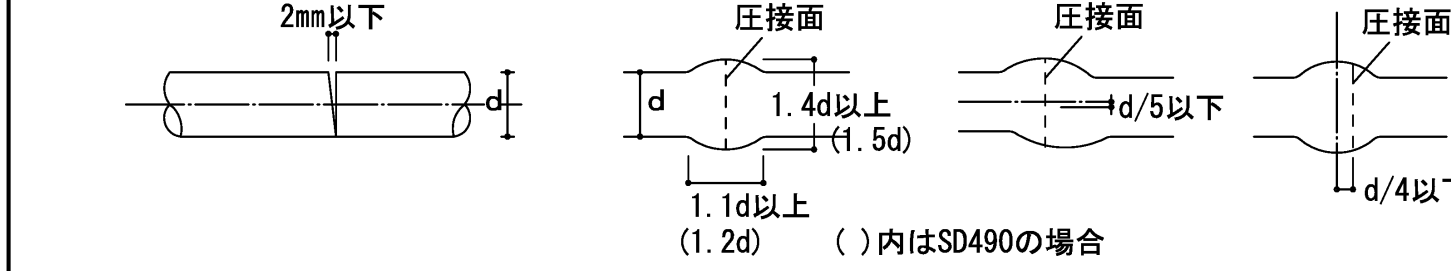
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
SD490	24~27	55d	40d
	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d
	48~60	40d	30d

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
 (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

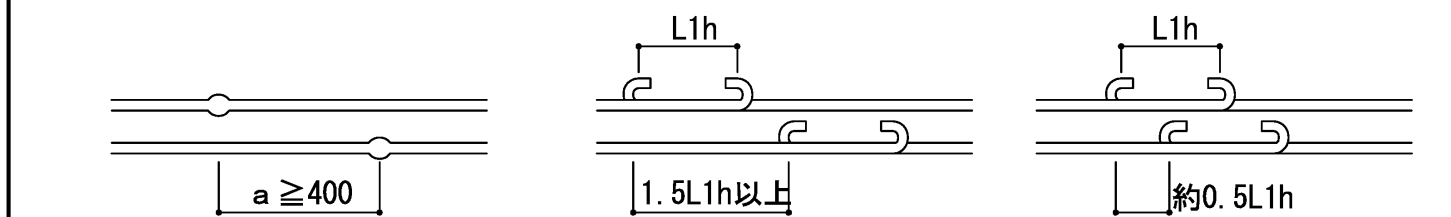
■継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手

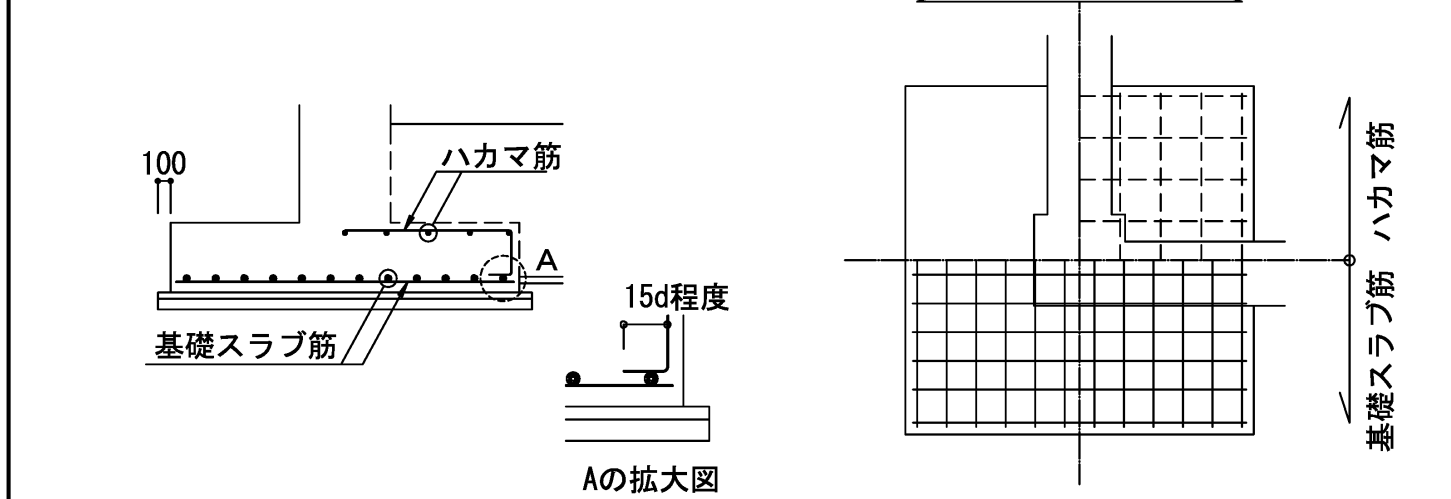


- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

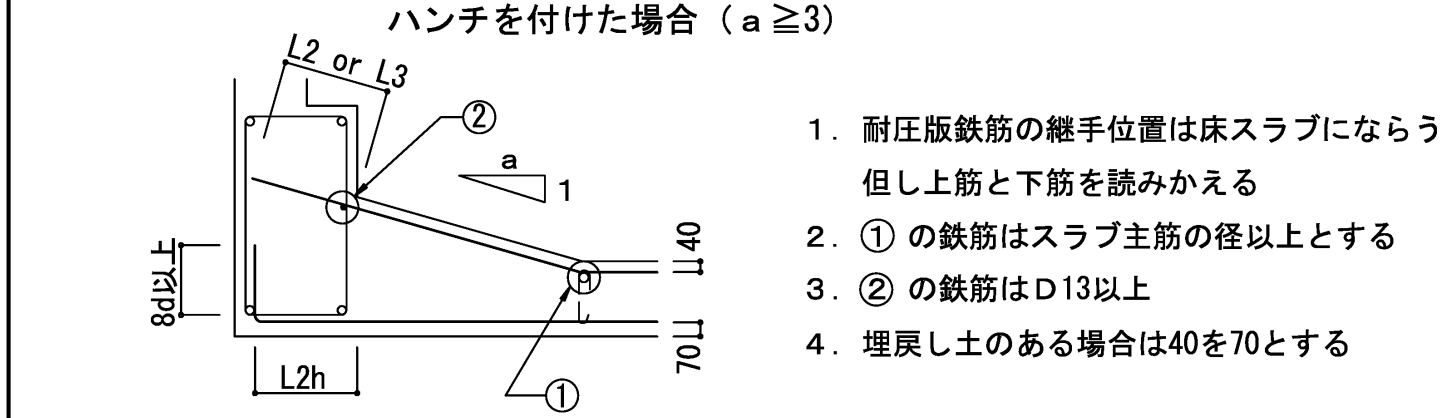
3. 杭・基礎 (配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

①独立基礎

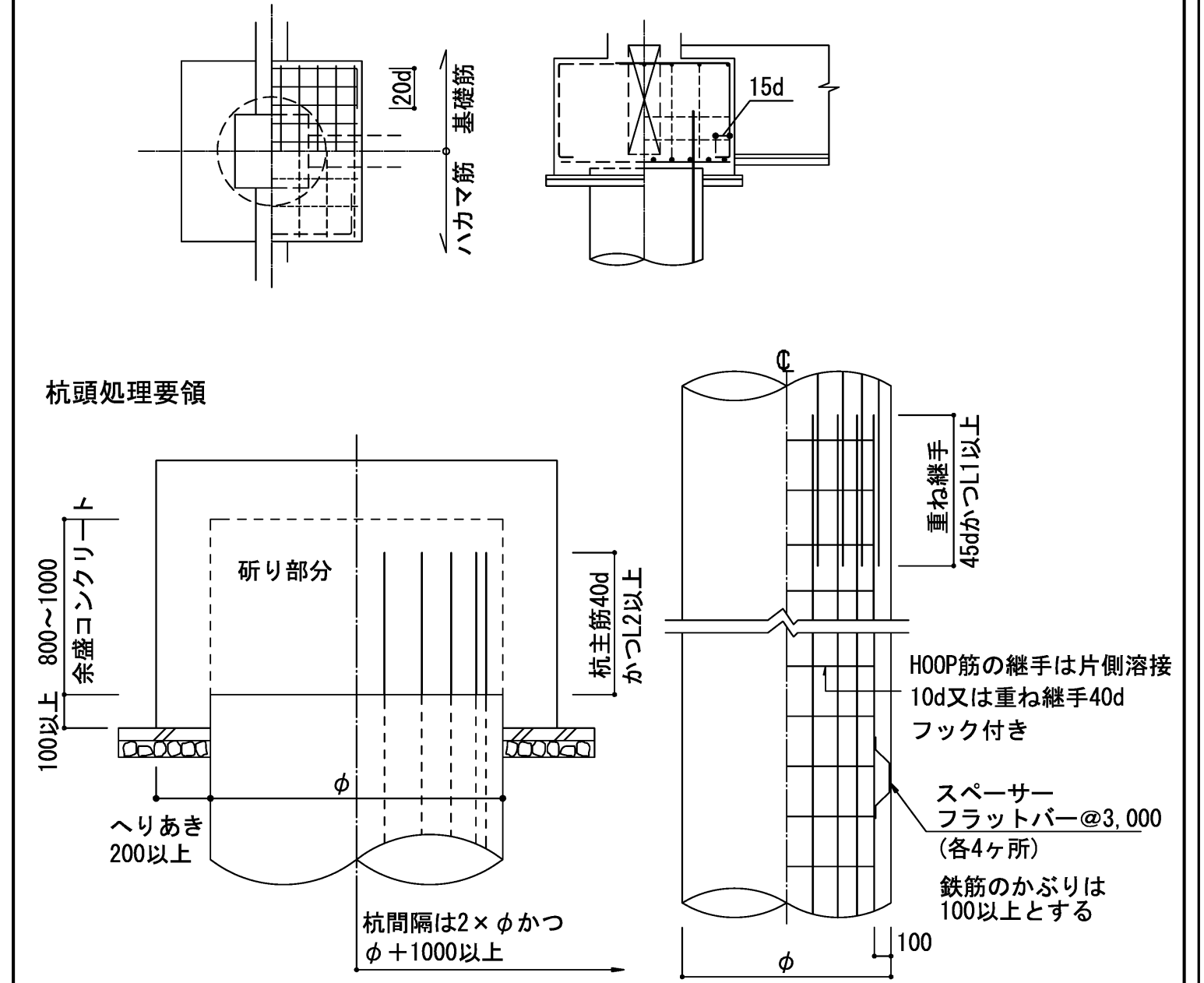


②ベタ基礎

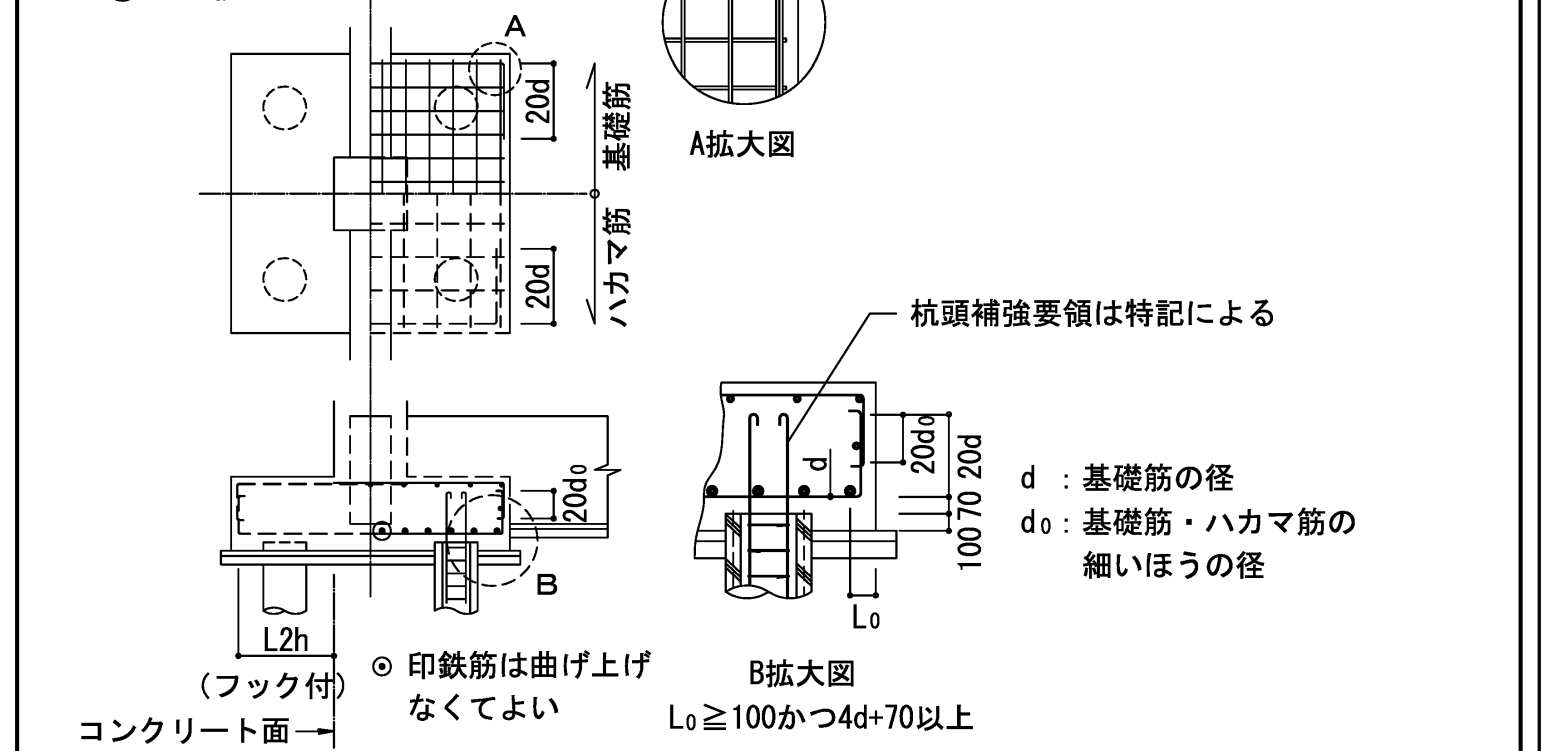


(2) 杭基礎

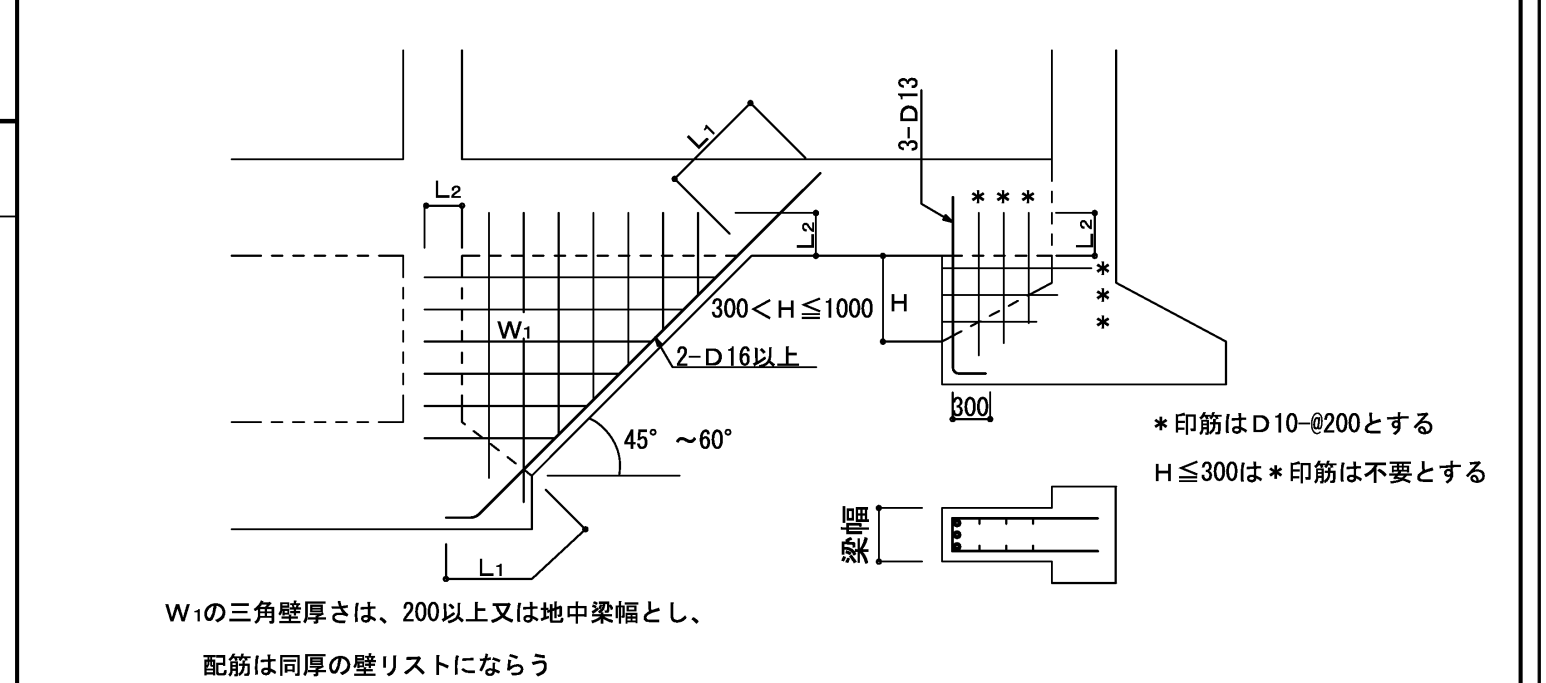
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



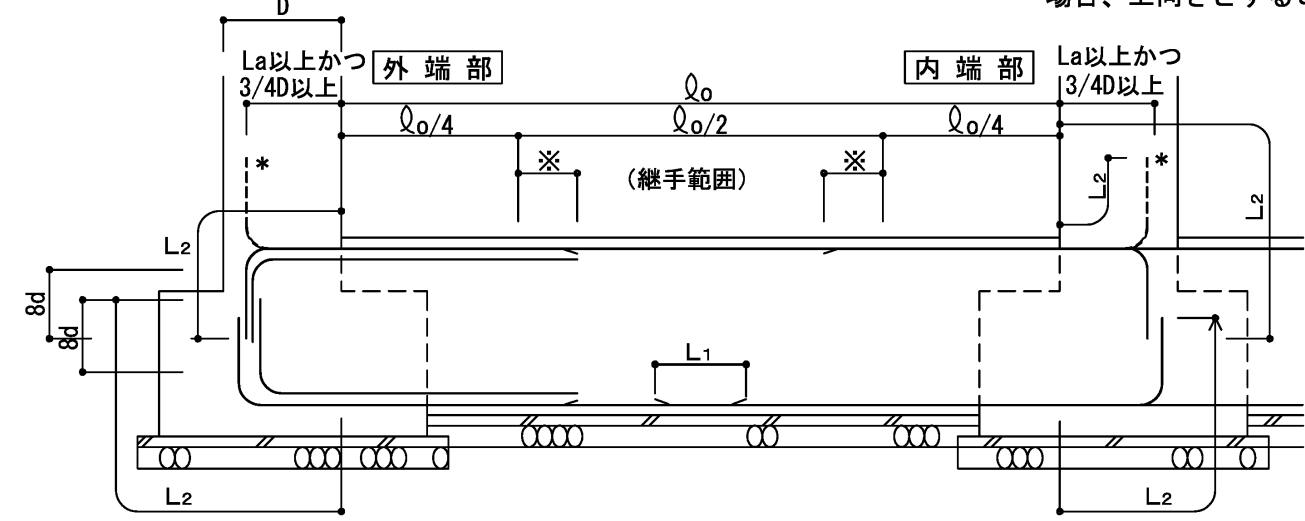
新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

4. 地中梁

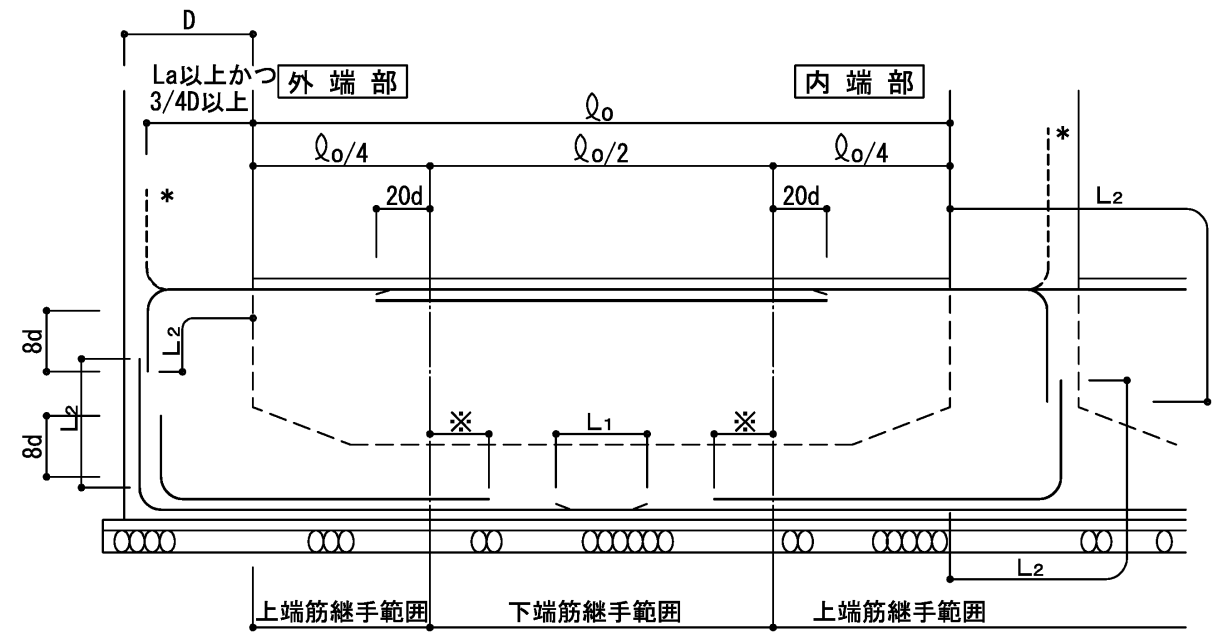
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)

(長期荷重が支配的な場合の継手は6. (2)大梁継手位置とする。)* 上端主筋の定着は、やむをえない場合、上向きとすることができる。



※主筋のカットオフ長さは $l_0/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

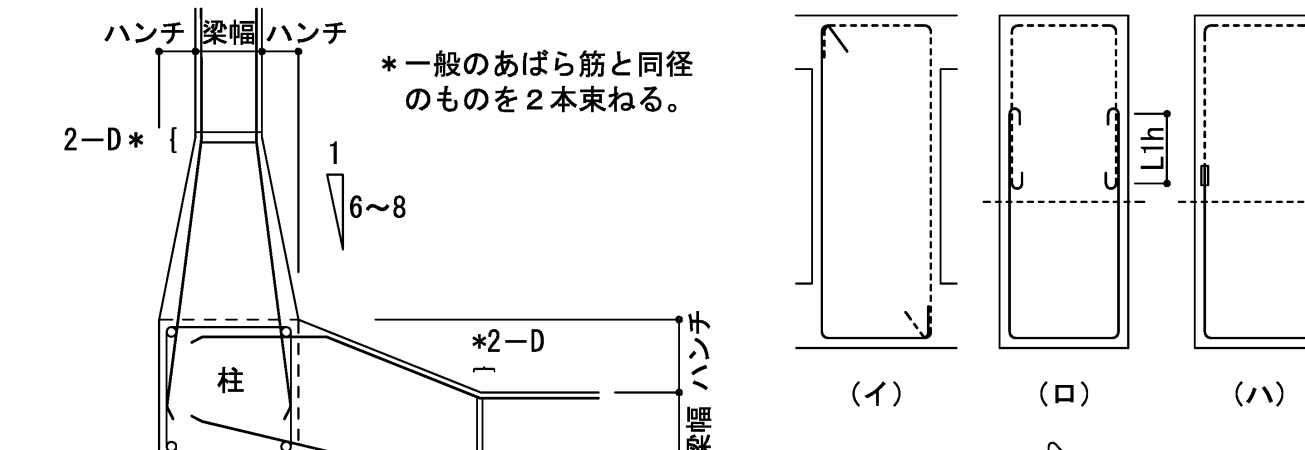
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



※主筋のカットオフ長さは $l_0/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

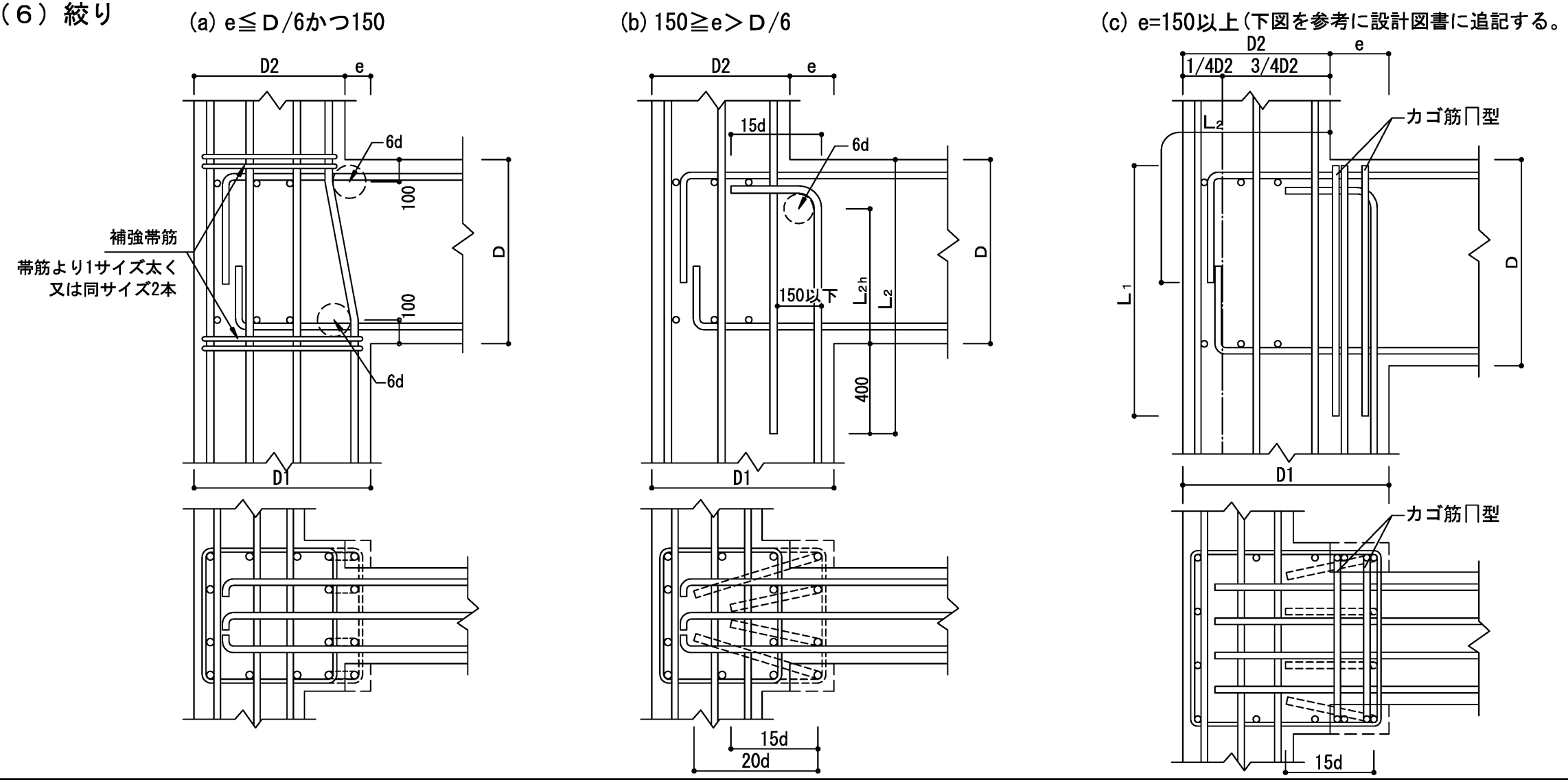
(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

(4) せいの高い梁のあばら筋加工要領



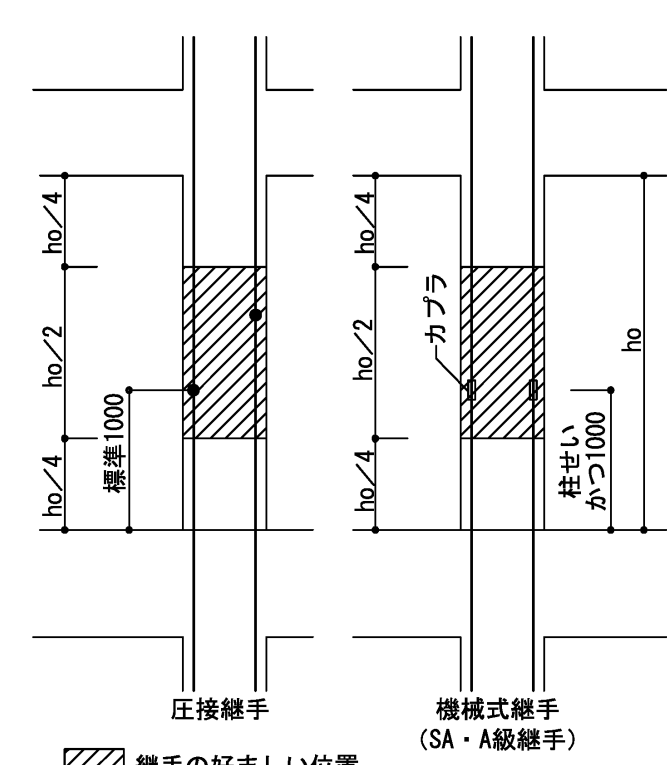
※一般のあばら筋と同径のものを2本束ねる。
 [注] (イ)で、 \square を使用してよいが、 \square は使用してはいけない。
 (ロ)では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

(6) 絞り

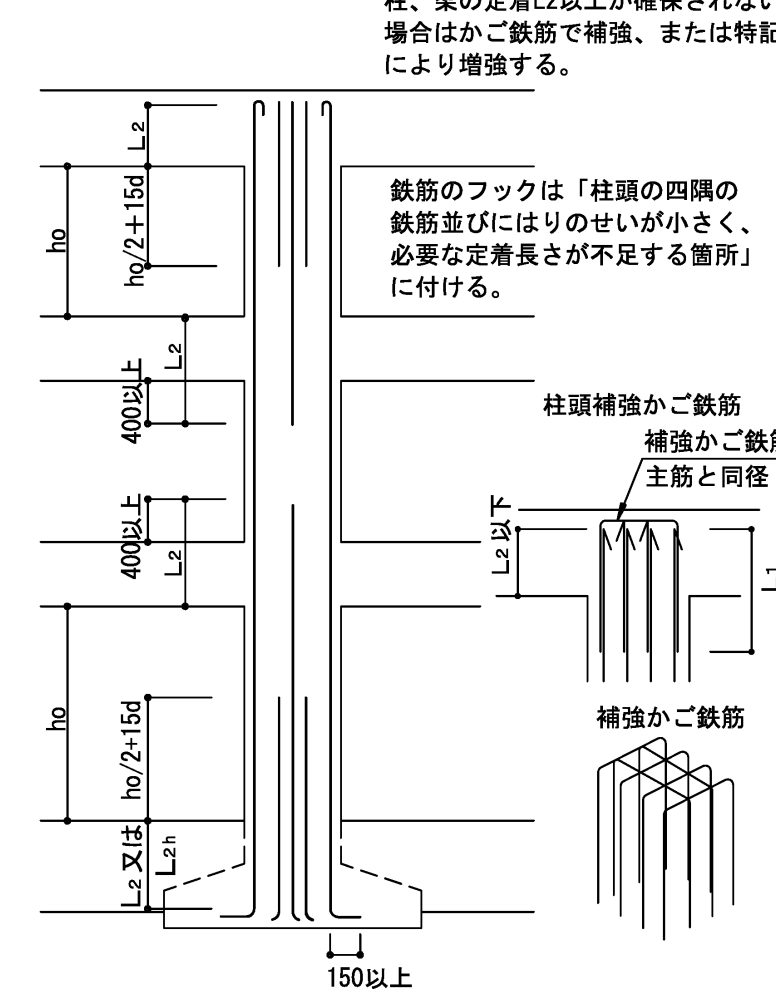


5. 柱

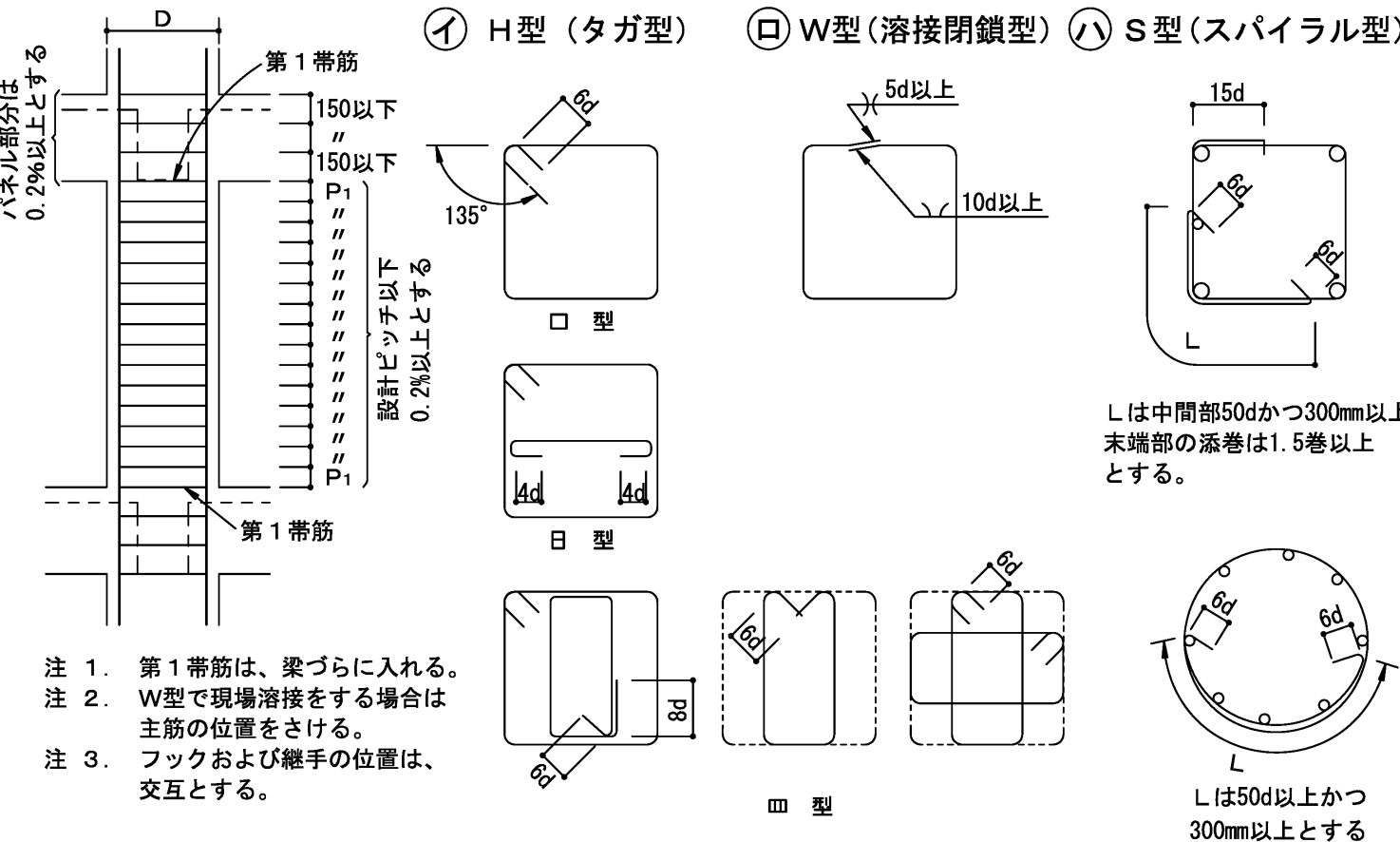
(1) 柱主筋の継手位置



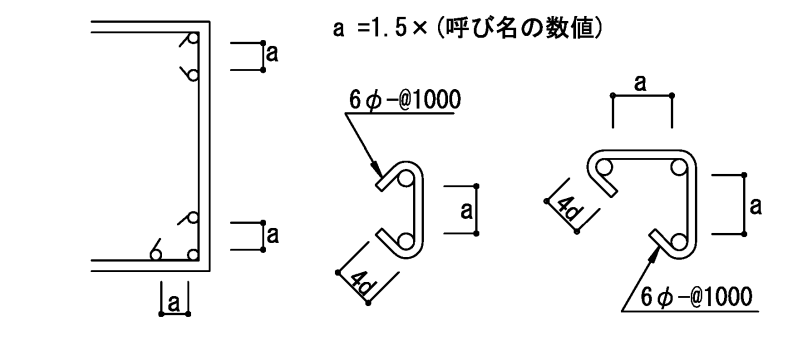
(2) 柱主筋の定着



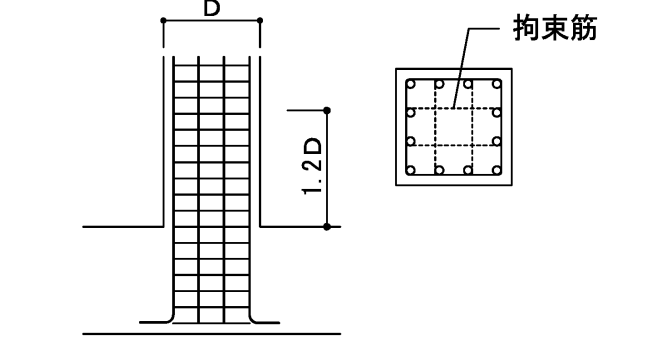
(3) 帯筋



(4) 寄せ筋の保持

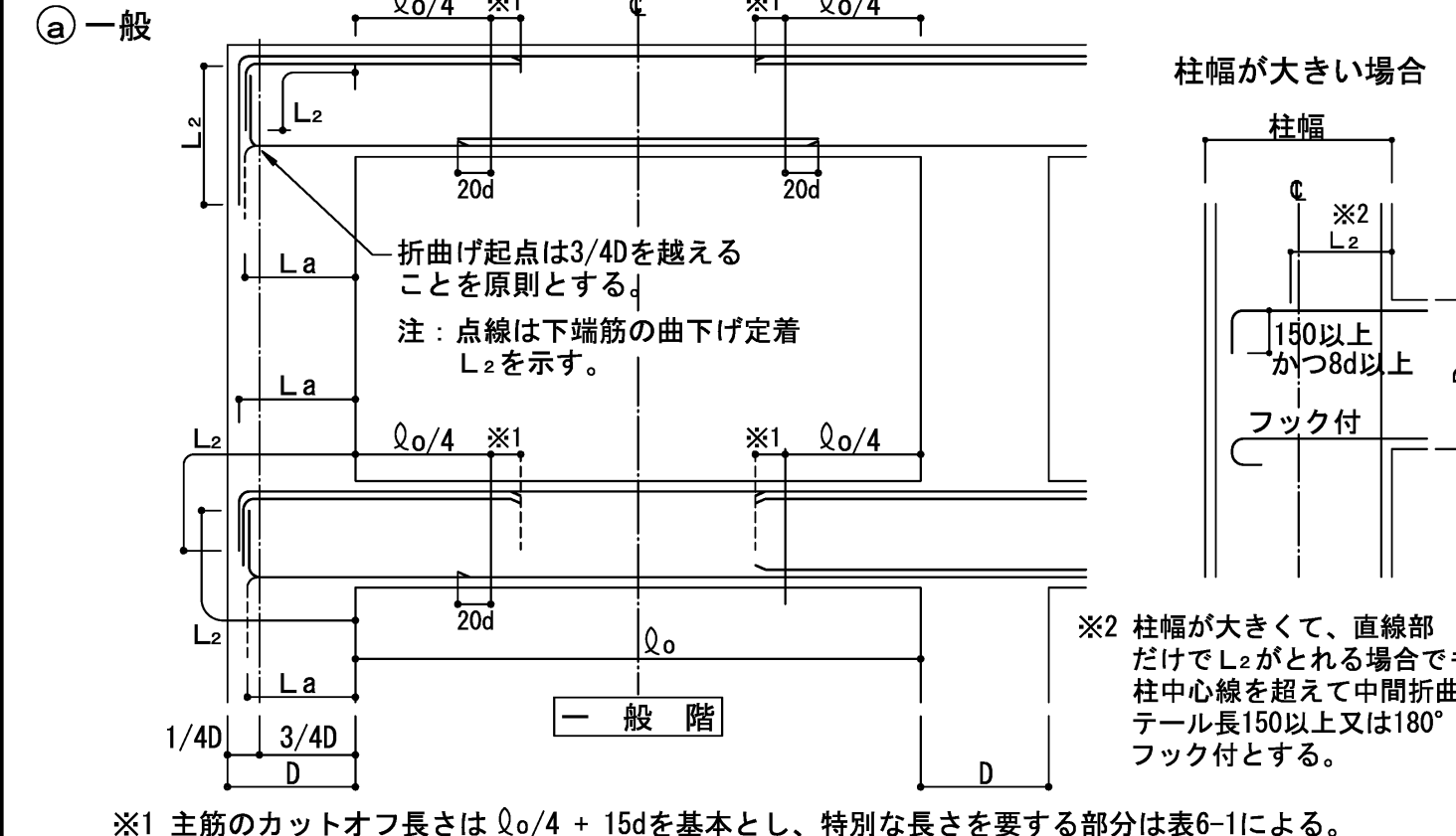


(5) 柱脚部の補強



6. 大梁

(1) 定着



(2) 大梁主筋の継手

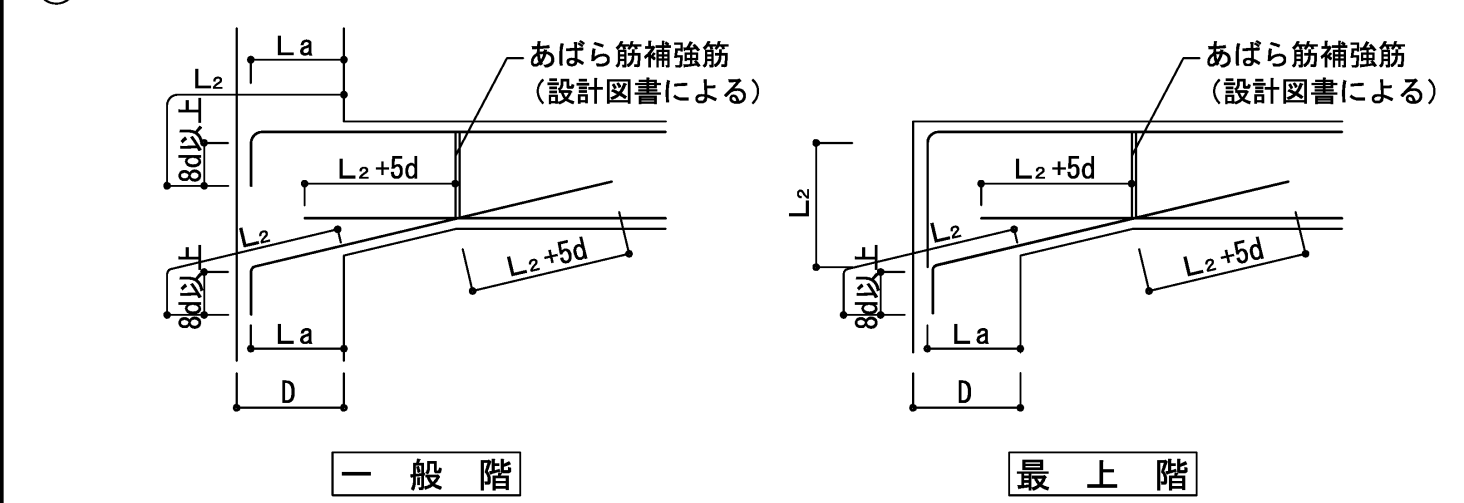
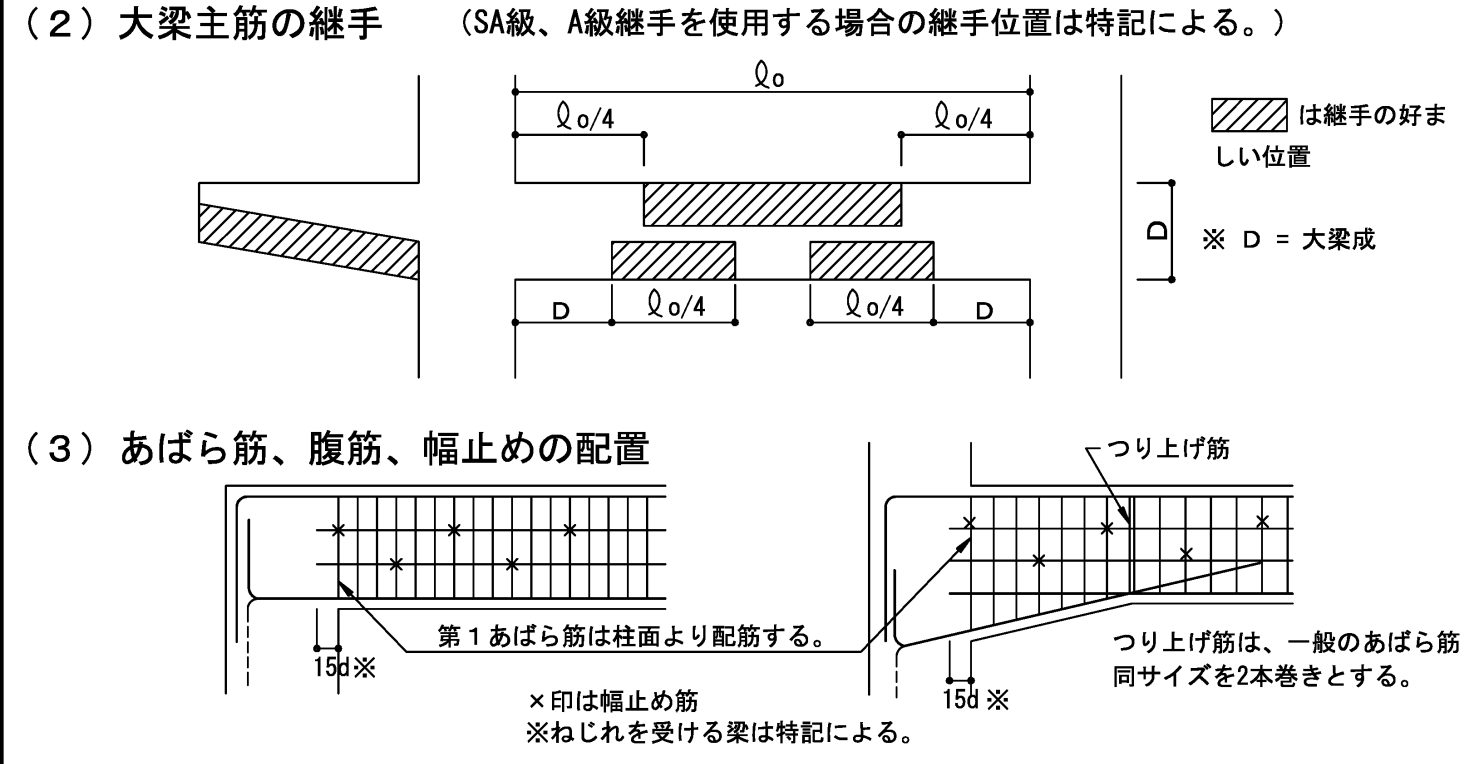


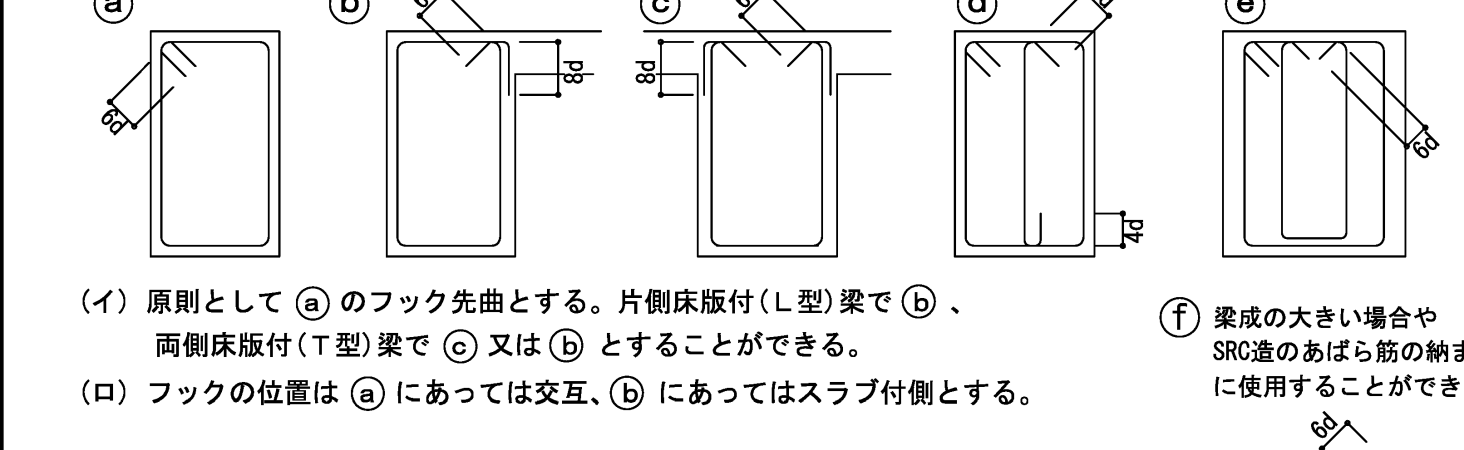
表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)

部材名	$l_0/4$ に加える長さ	部材名	$l_0/4$ に加える長さ

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



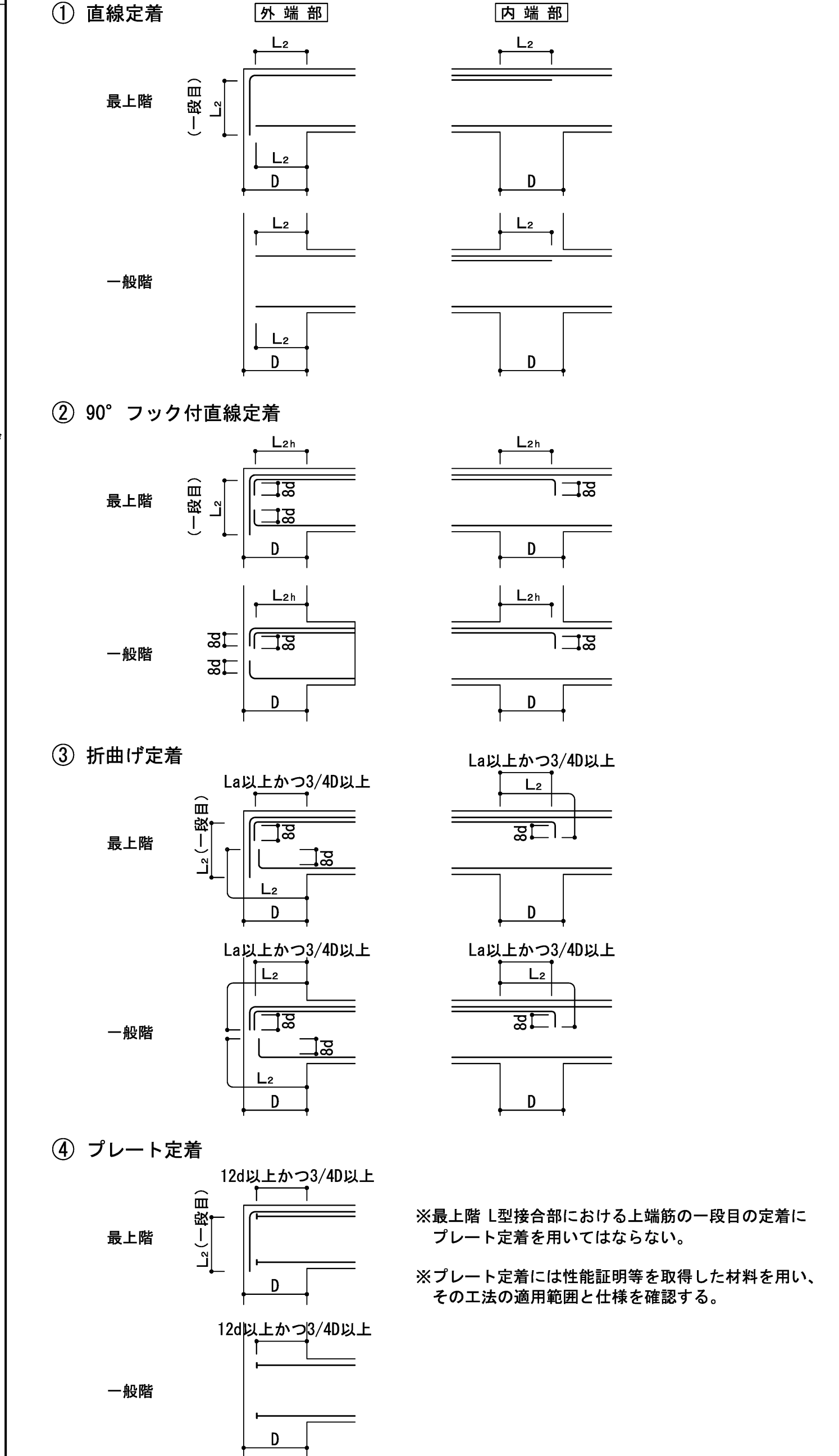
(4) あばら筋の型



(5) 幅止め筋の本数、加工

幅止め筋	D < 600 不要	600 ≤ D < 900 2-D 10 1段	900 ≤ D < 1200 4-D 10 2段	1200 ≤ D D 10 @ 300 以内	1200 以上 D 13 @ 300 以内

(6) 梁主筋の定着



新鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

7. 小梁、片持梁

(1) 定着

① 小梁の定着

② 段差小梁の配筋(連続端の場合)

③ 小梁筋の継手位置

④ 片持梁の定着

(2) 定着および継手

① 一般スラブ(四辺固定)

② 屋根スラブの補強

③ 片持床スラブ定着及び出隅部補強

① 片持床スラブ定着

② 片持スラブ出隅部補強

(3) 床版開口部の補強 (開口の径500以下程度の場合)

床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 300	各2-D13	各2-D13
300 < D ≤ 500	各2-D19	各2-D16

(4) 床版段差

① 全断

(5) 土間コンクリート

① 軽作業の土間

② 間仕切壁との交叉部

(6) 打継ぎ補強(ダマ穴断面について)

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L₁以上
- 無筋部分D10-φ200 長さ800以上

9. 壁

(1) 定着

① 梁に

② 柱に(平面図)

③ 床に(非耐力壁とスラブが取り合う場合)

④ 壁と壁(平面図)

(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

完全スリット

(3) 手摺、パラペット

パラペット

手摺

(4) コンクリートブロック帳壁

(5) 耐震壁端部の納まり

注) h ≤ 25t かつ 3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
 注) hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200 ≤ h ≤ 400
 注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

(6) 連層耐震壁乾燥収縮の補強筋

注) 補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
 EW180~200の場合4-D13@100シングル
 EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10. 柱、梁増打コンクリート補強(増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

(1) 柱

● ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
 ● ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋	
A < 500	3-D16
500 ≤ A < 1000	4-D16

● 150以上の増打ちは図示による。
 ● 増打ち50以下は補強なし。
 ● ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

(2) 梁

● 補強筋は、梁主筋の1段階し径(D16以上)とする。
 ● あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
 ● 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
 ● B ≥ 400の場合は補強筋を3本とする。
 ● 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
 ● ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
 ● 150以上の増打ちは図示による。
 ● 増打ち50以下は補強なし。

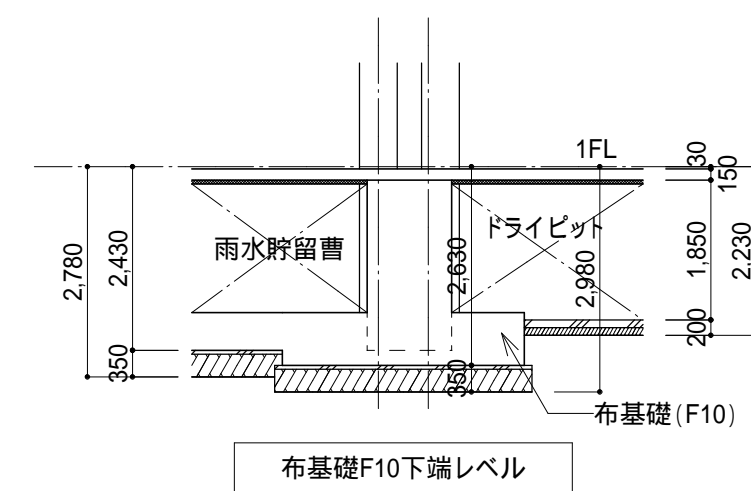
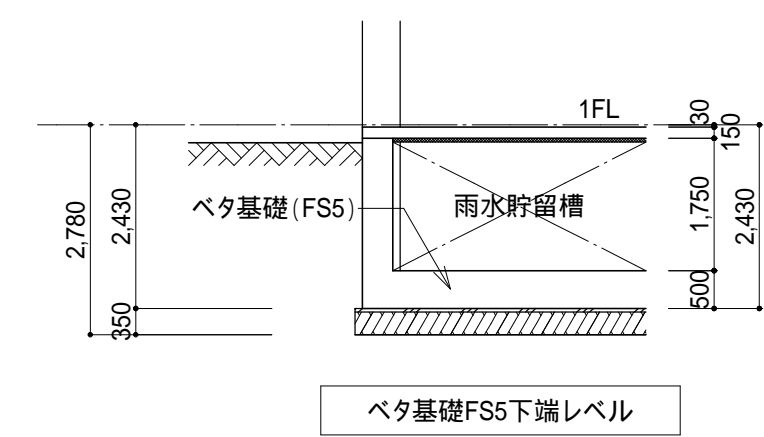
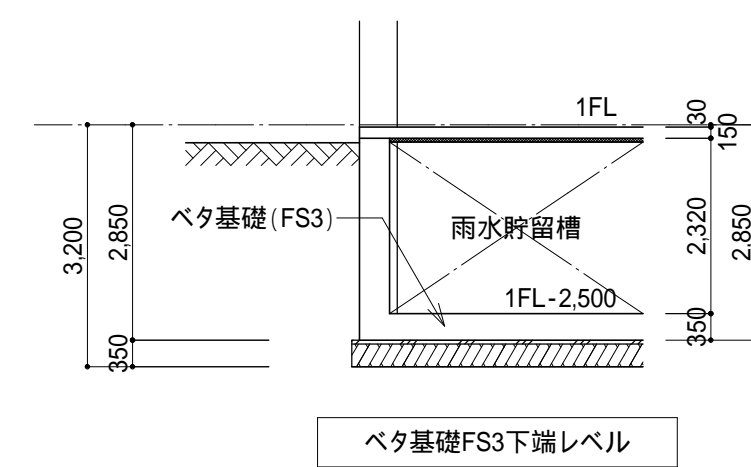
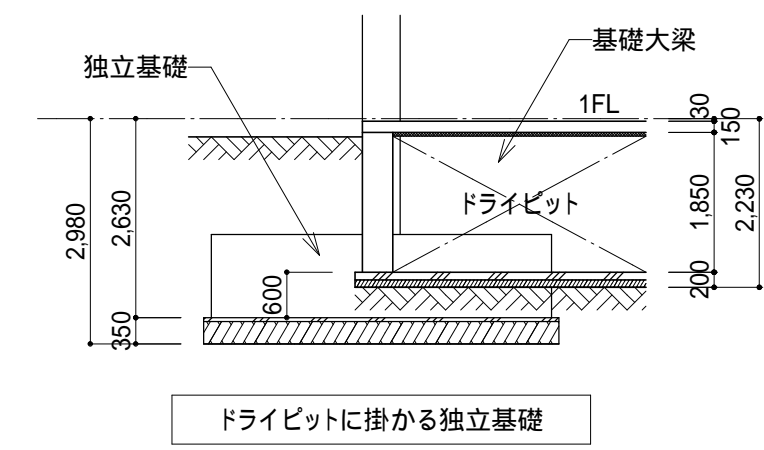
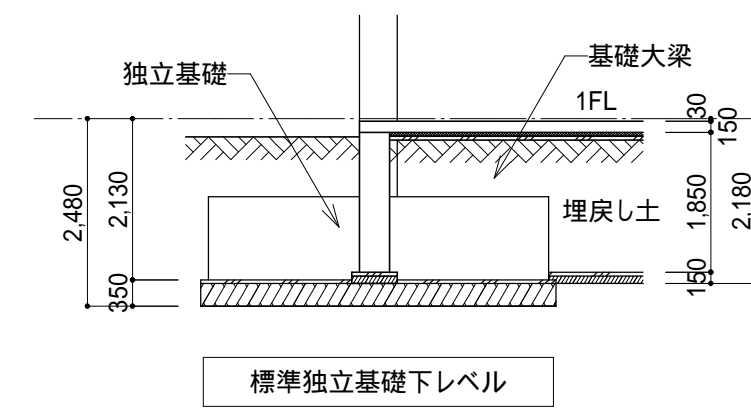
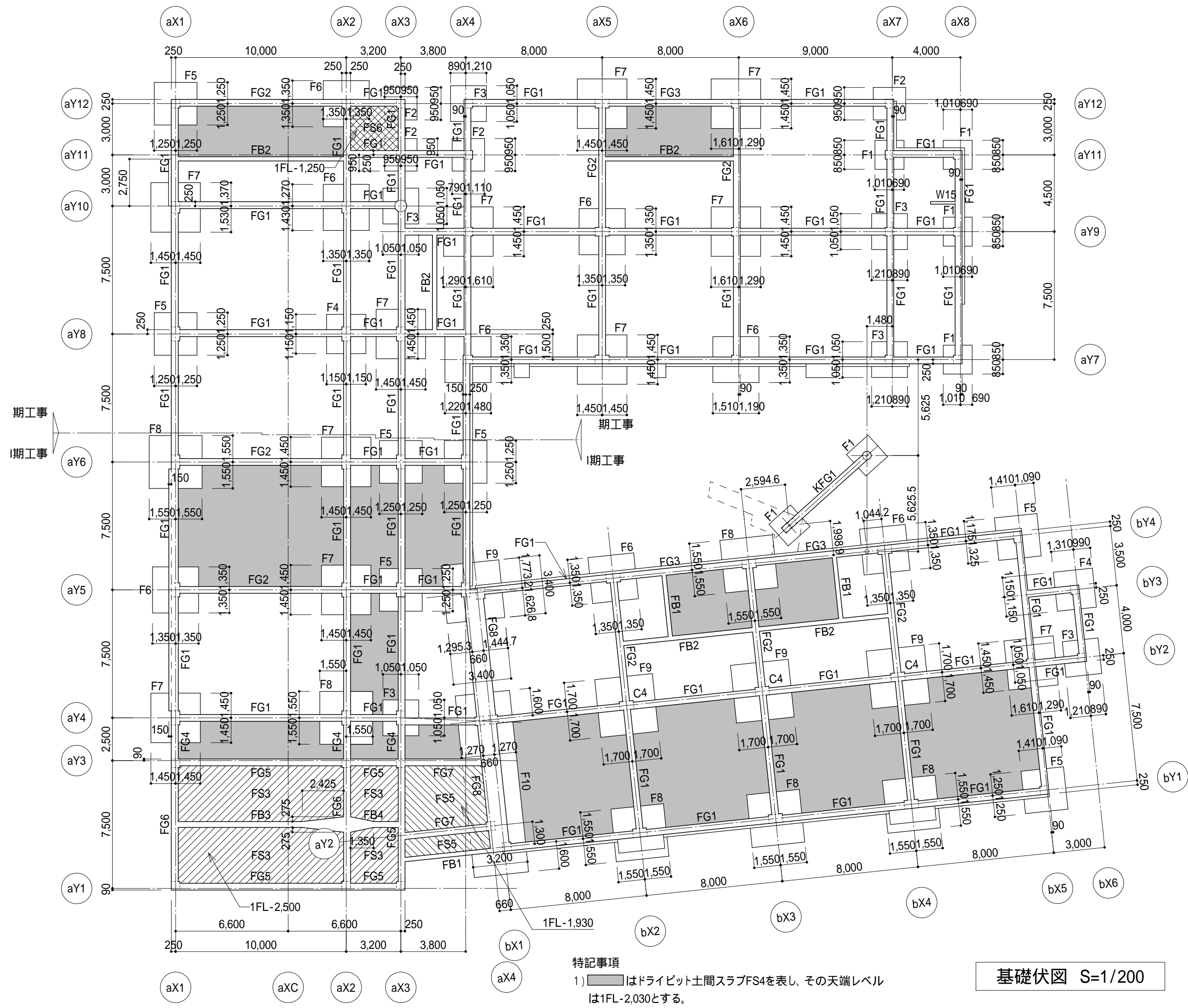
11. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)

(1) 設置可能範囲

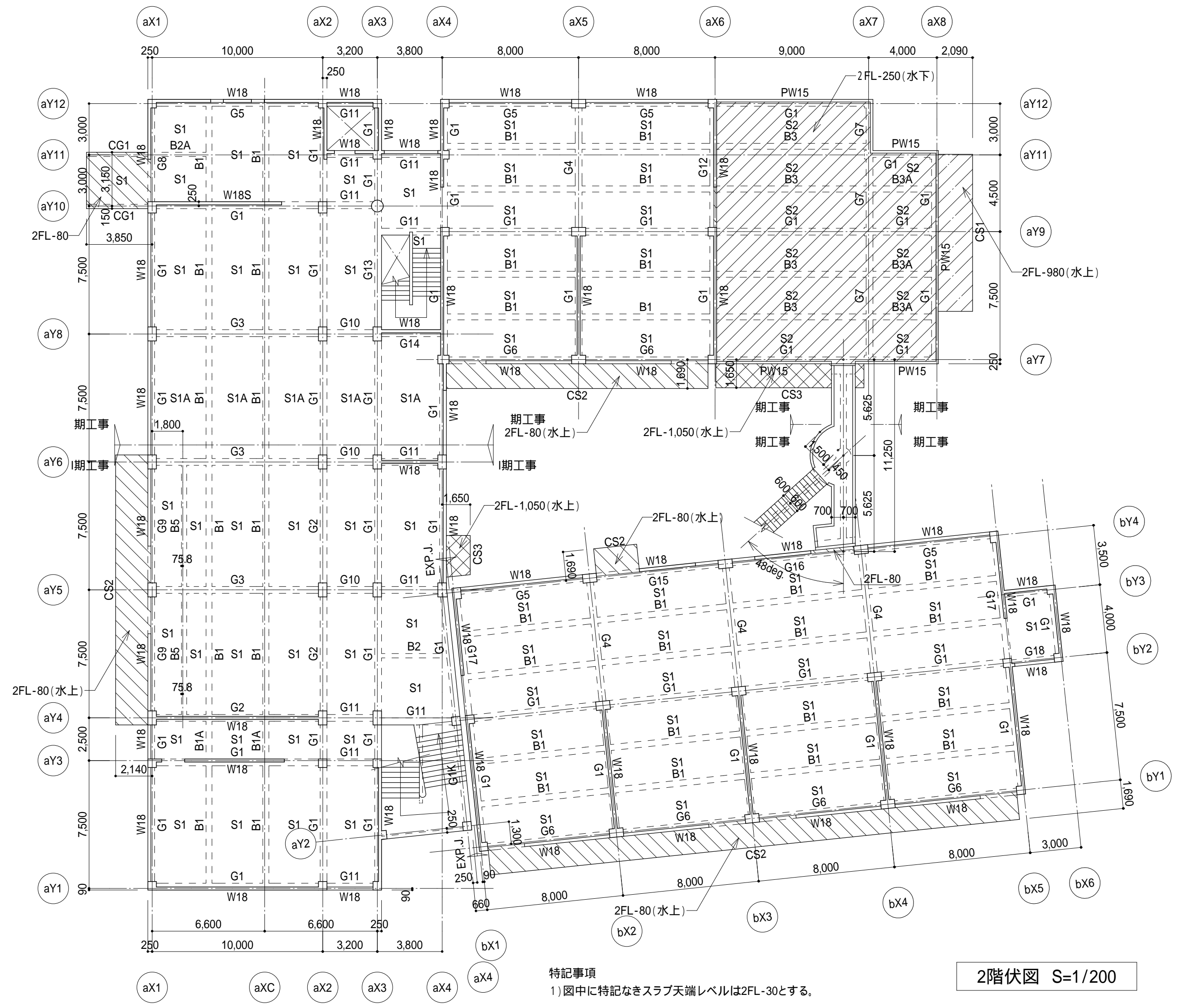
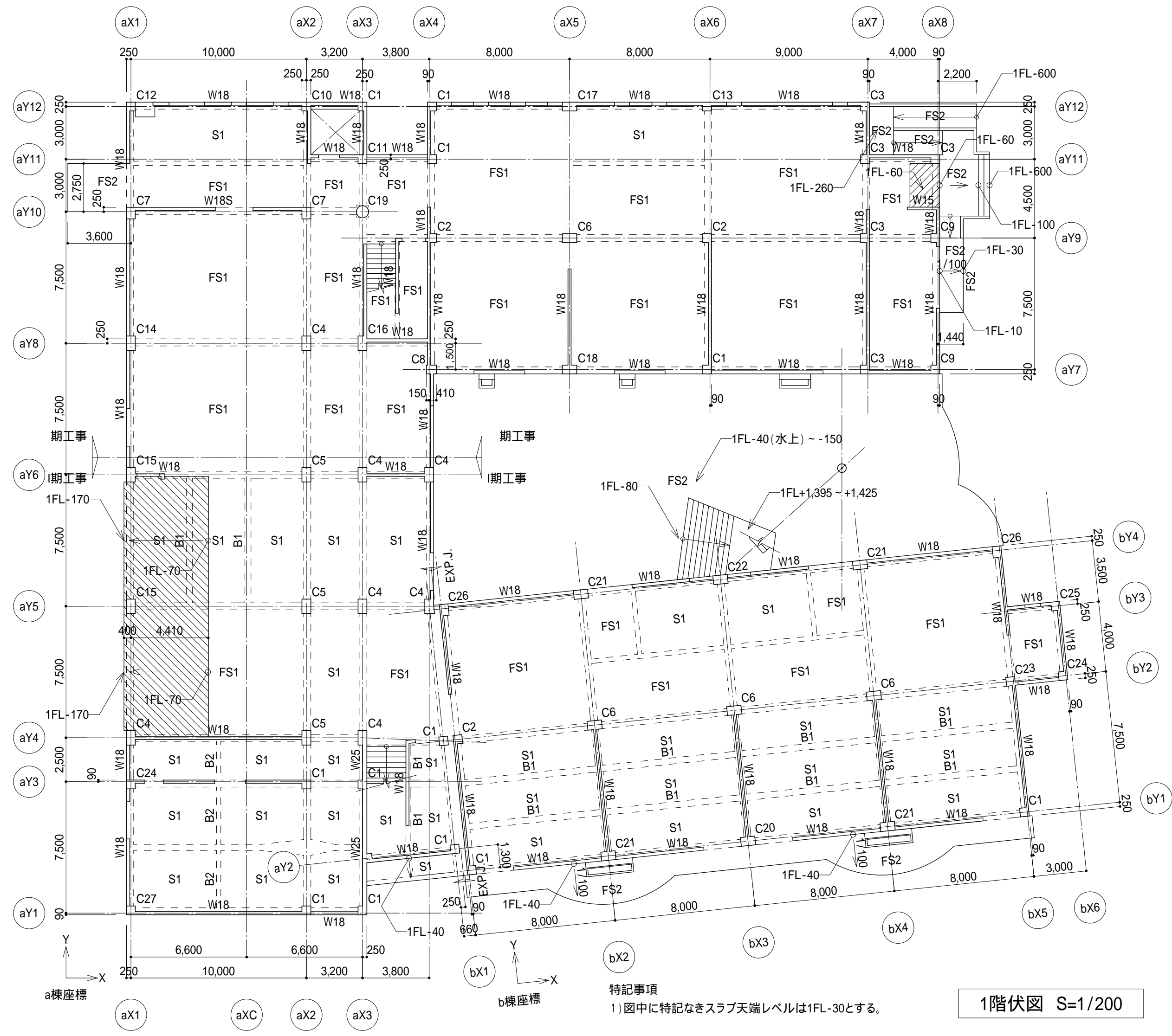
梁端部(スパンL/10以内かつ2D以内)は原則として避ける

(2) 既製品(指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

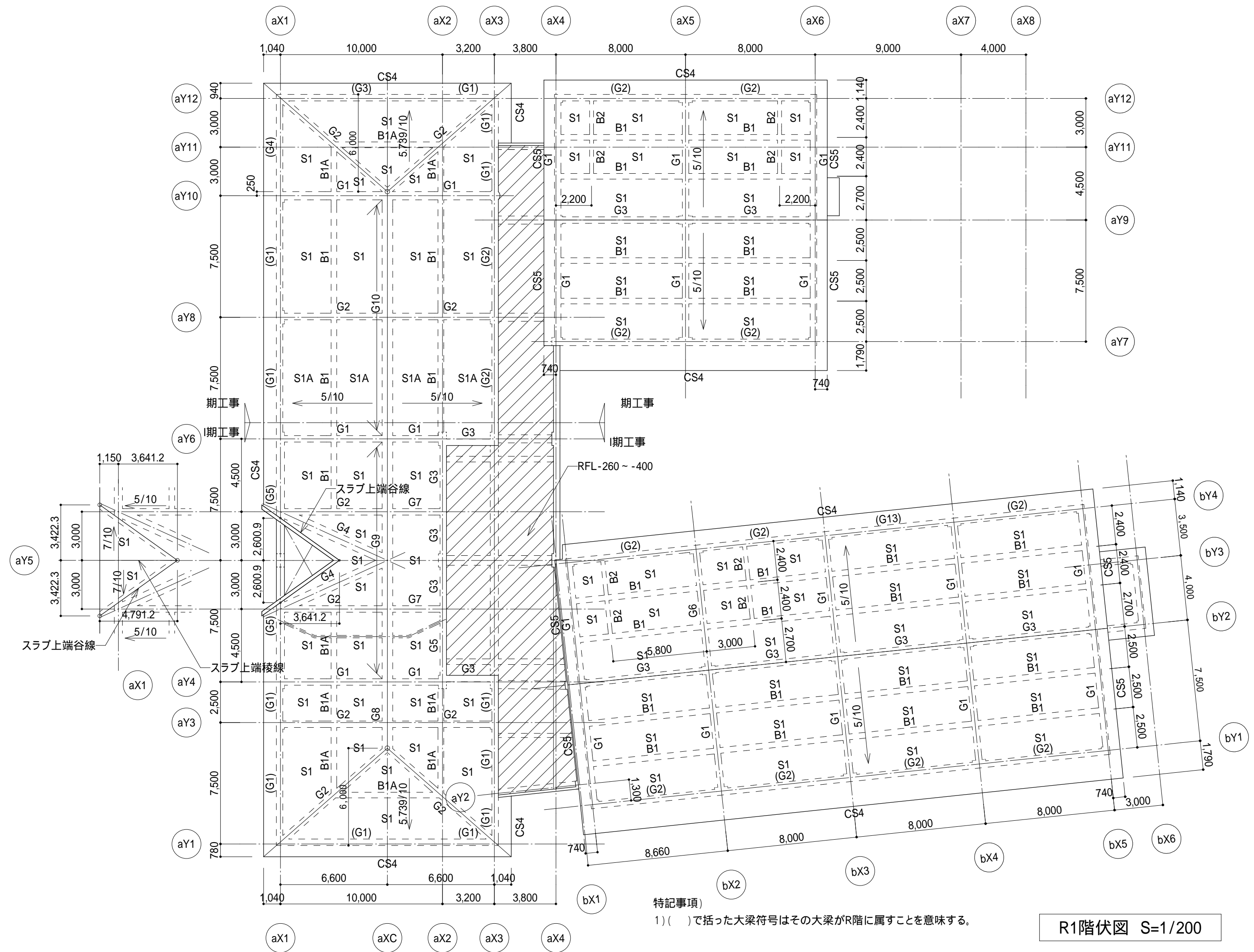
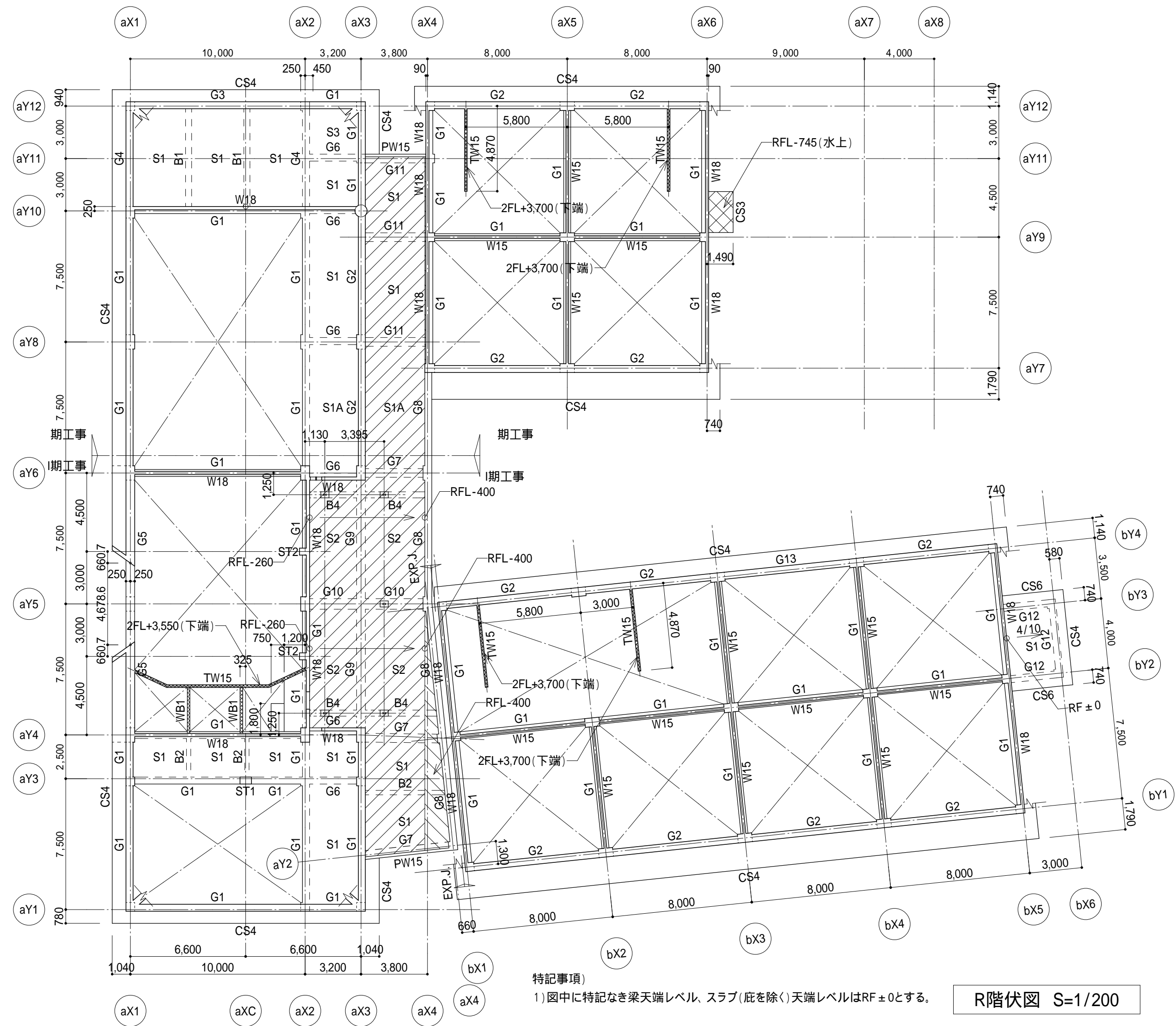
既製品名
 施工前に計算書を提出し、承認を得ること。
 設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

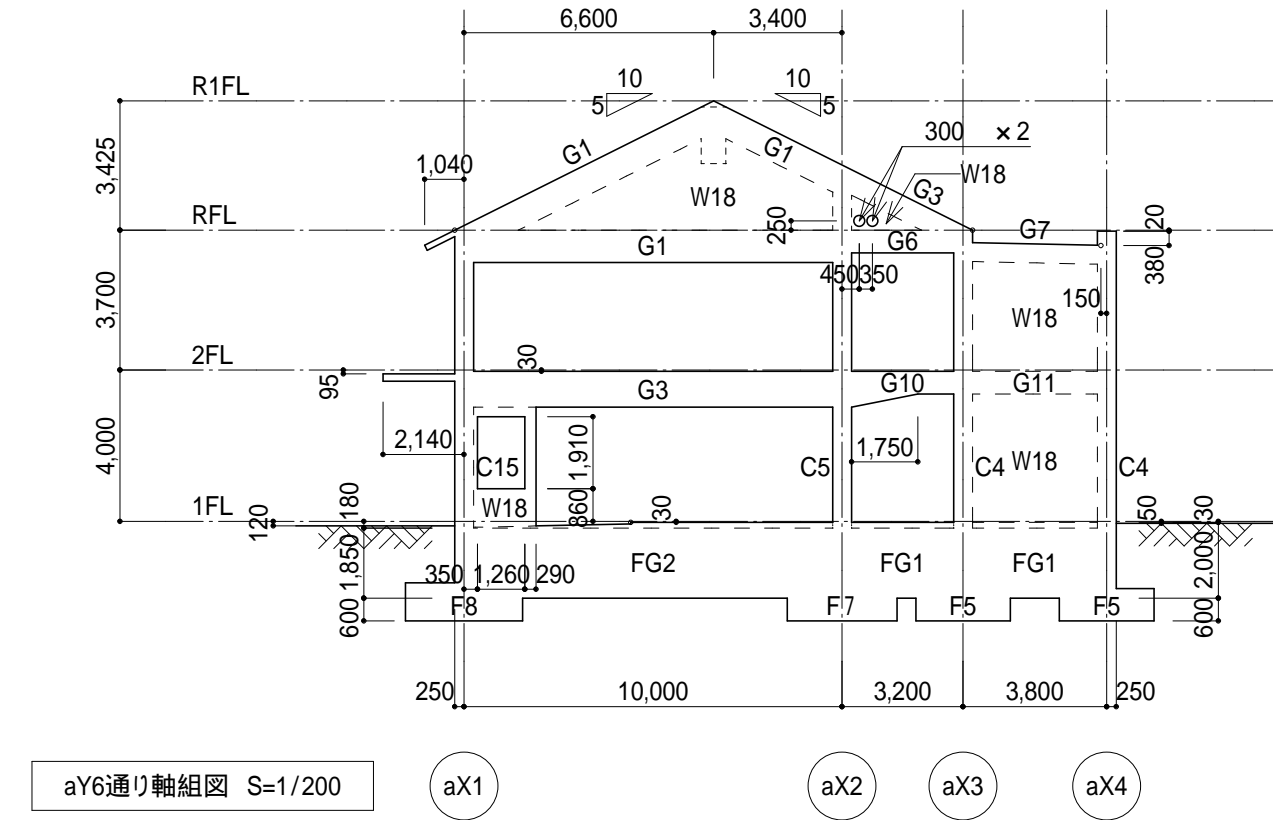
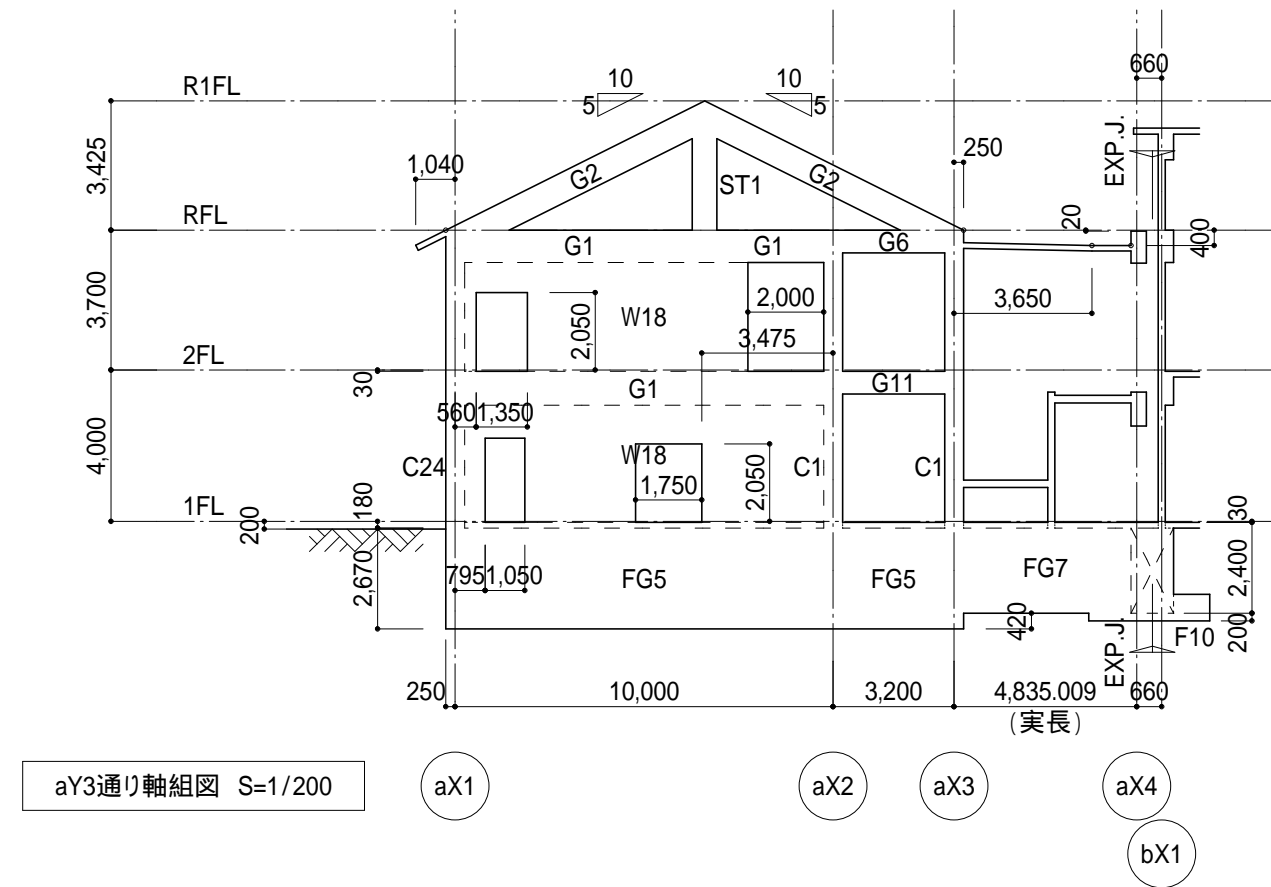
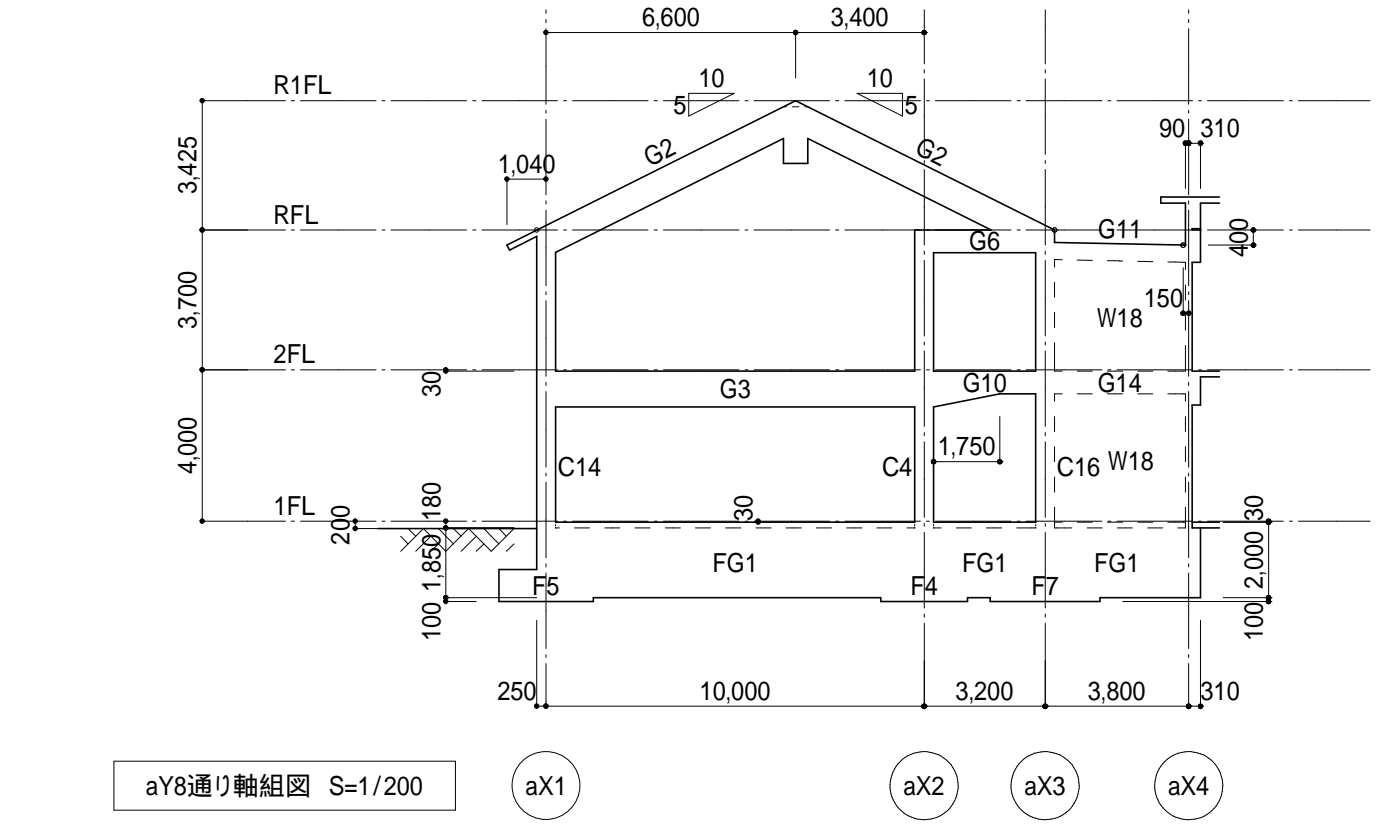
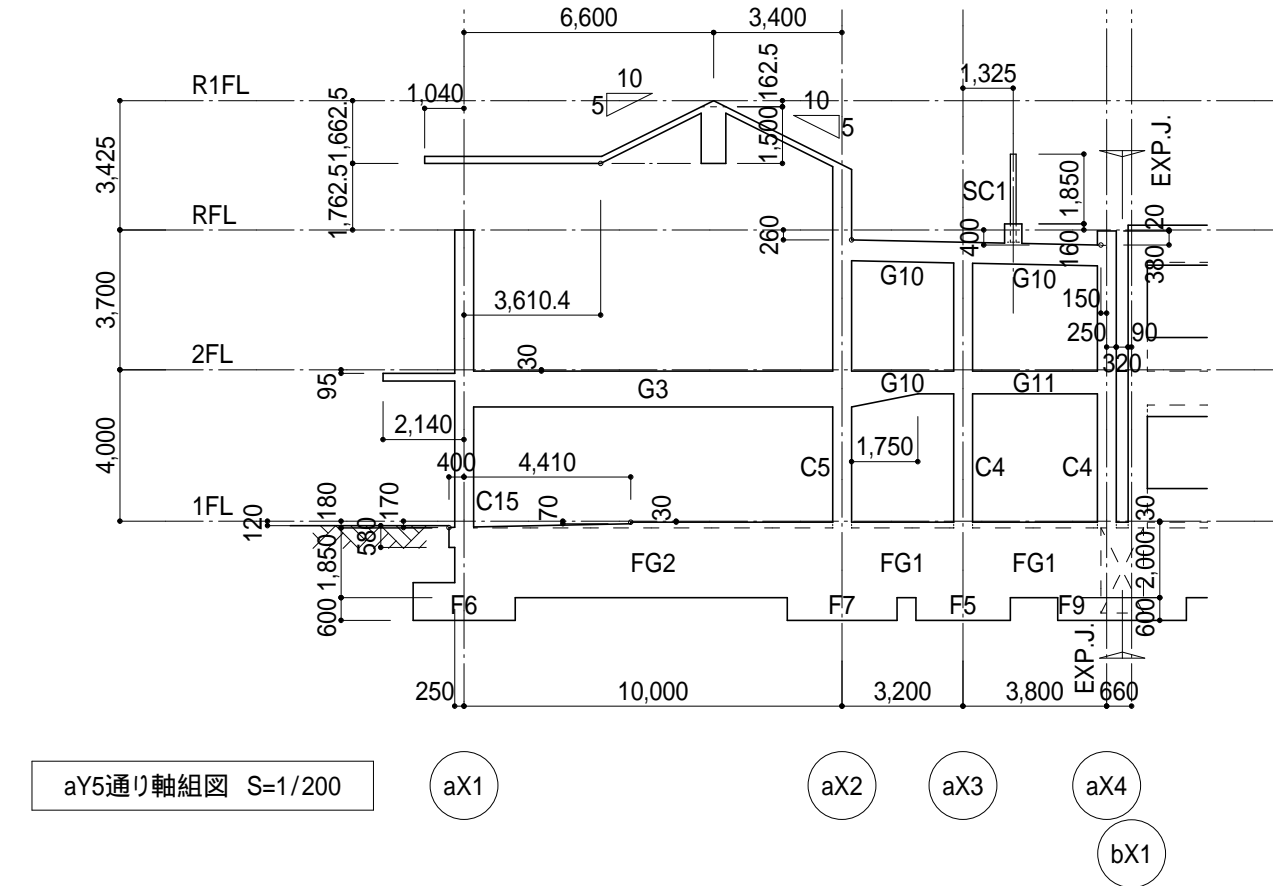
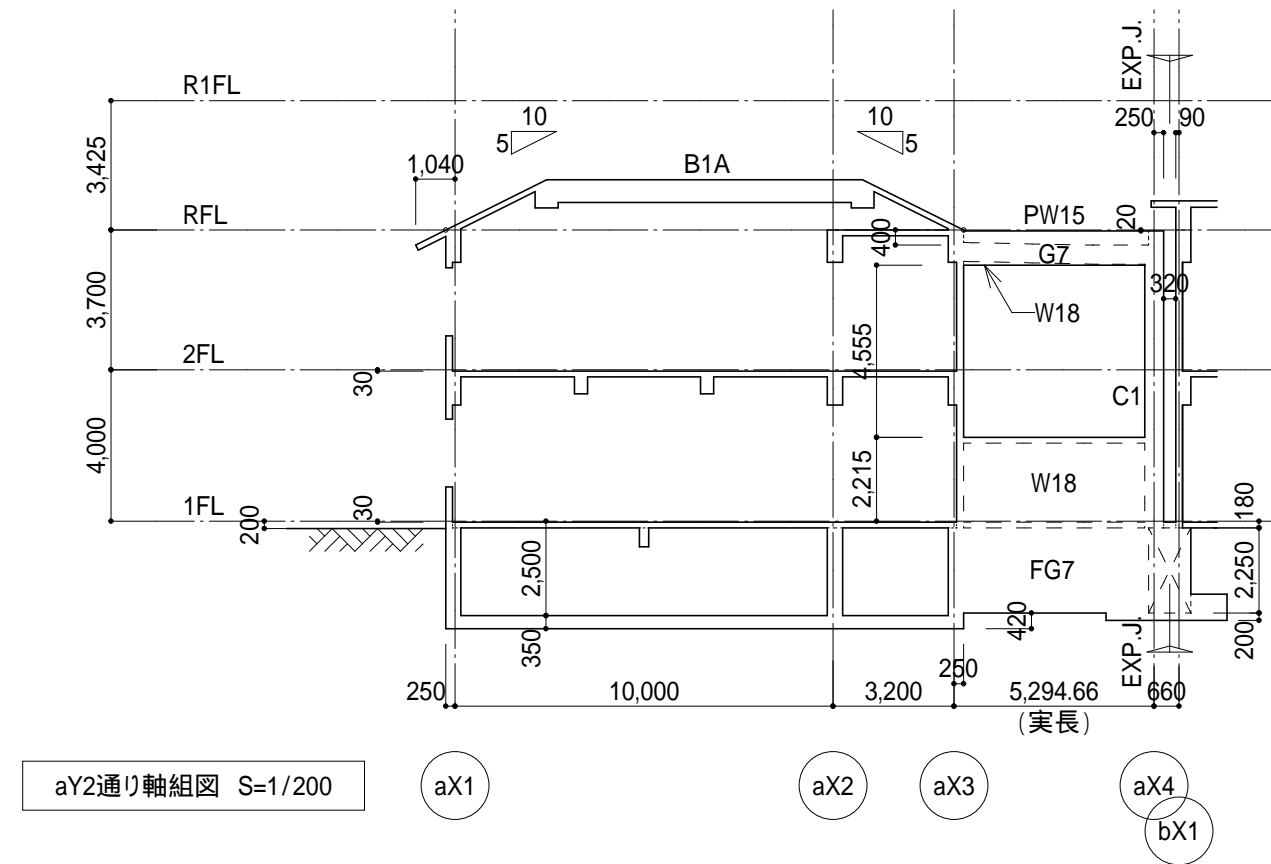
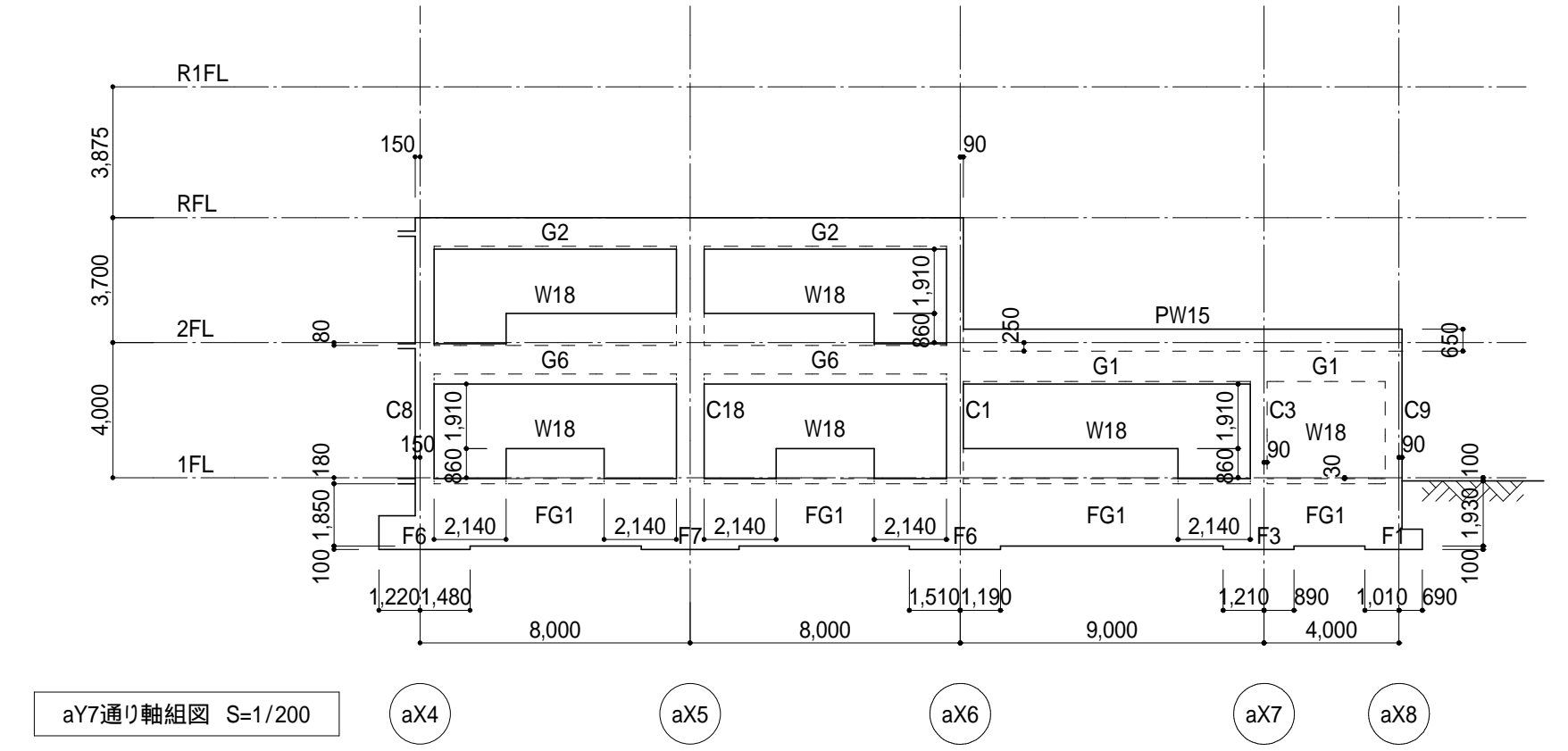
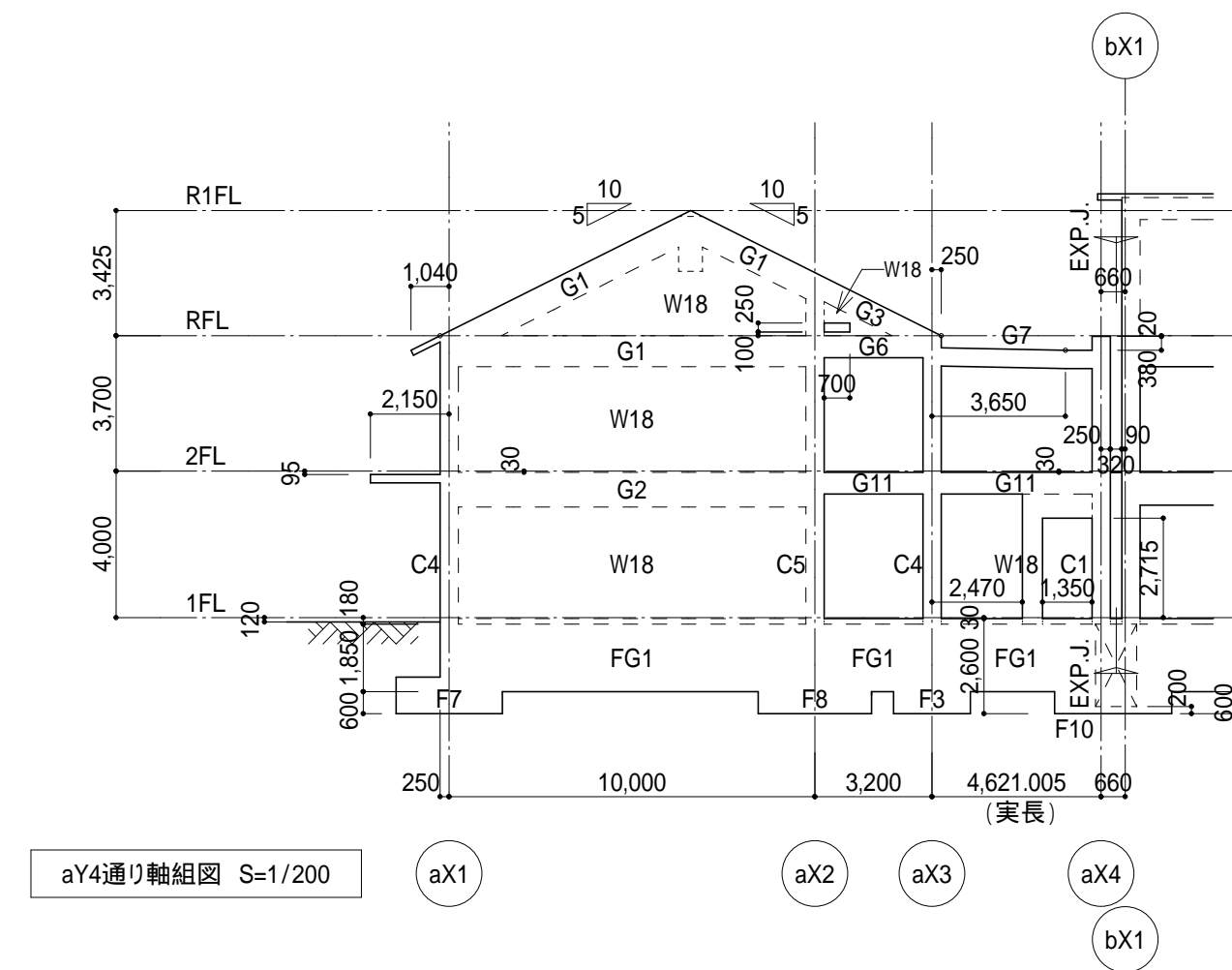
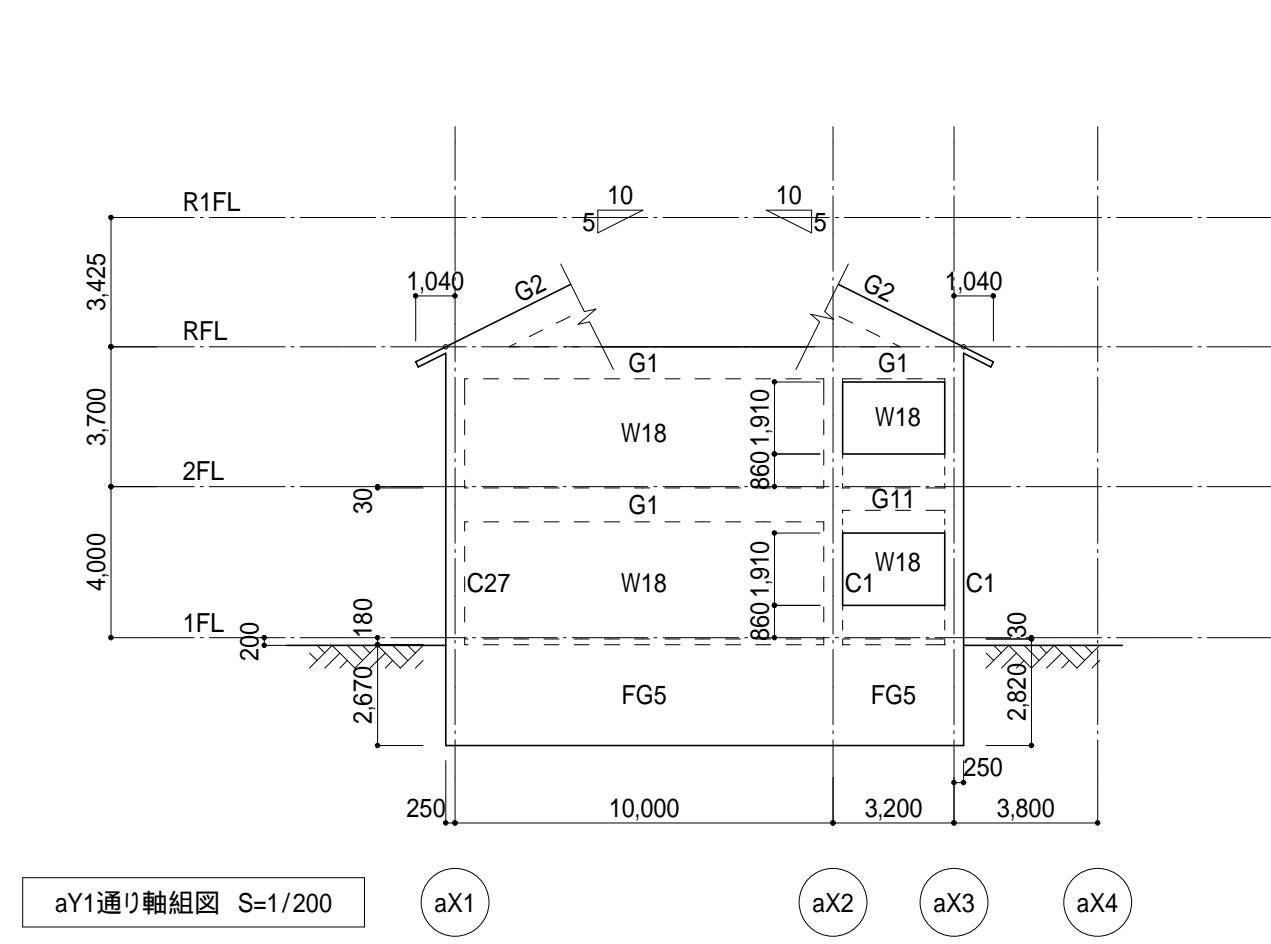


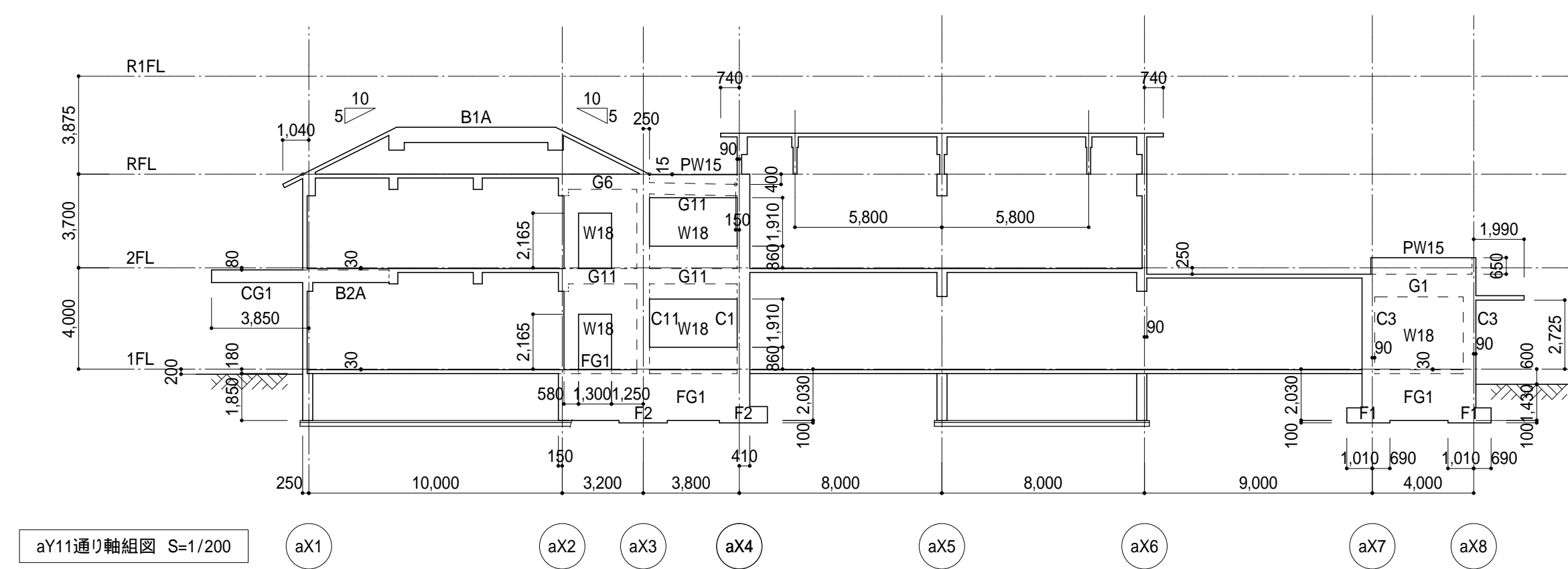
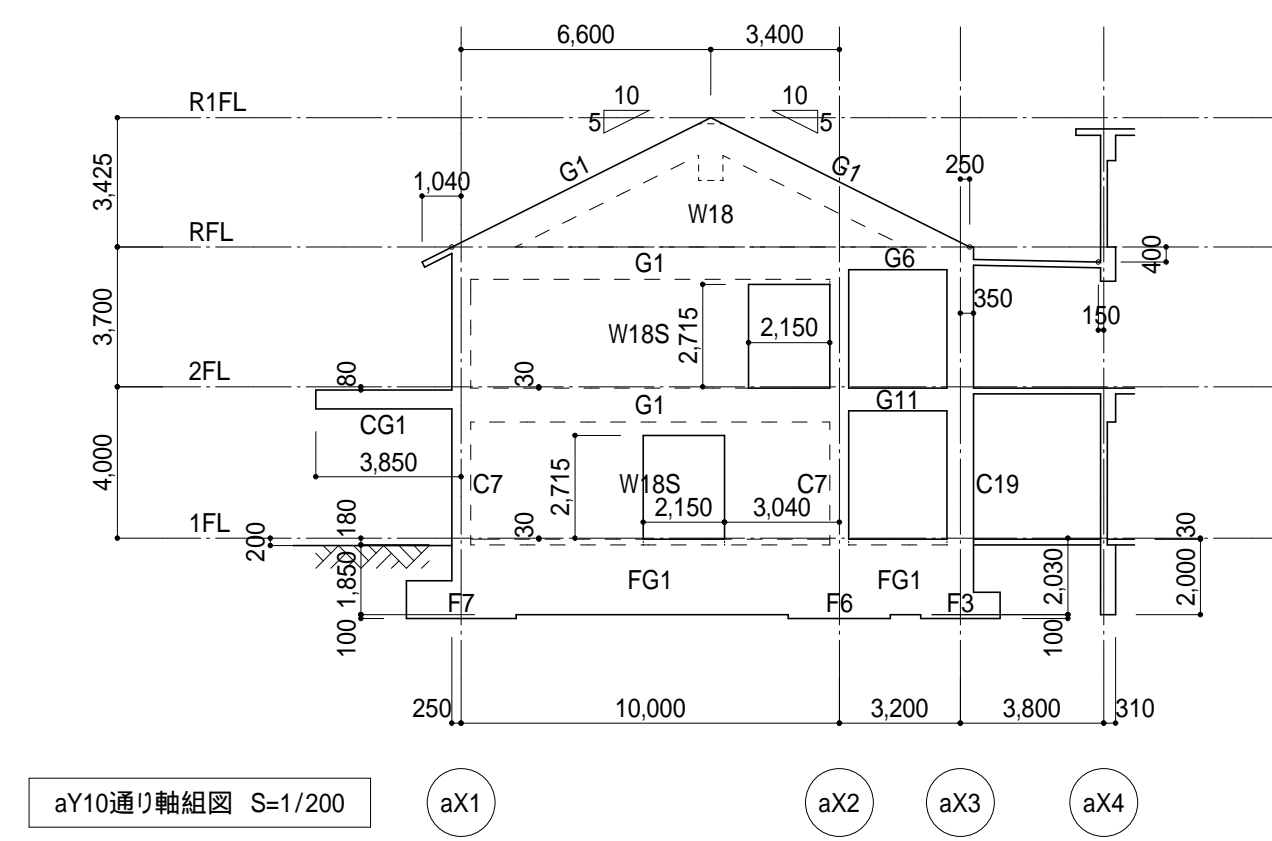
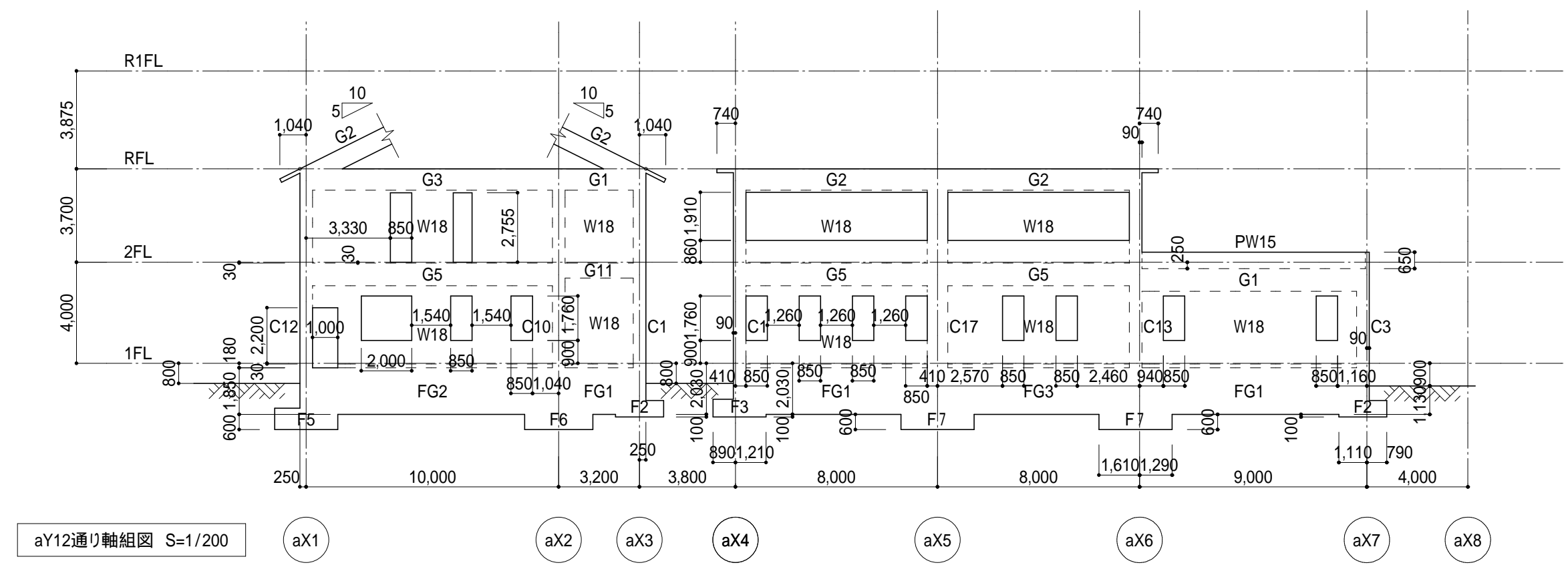
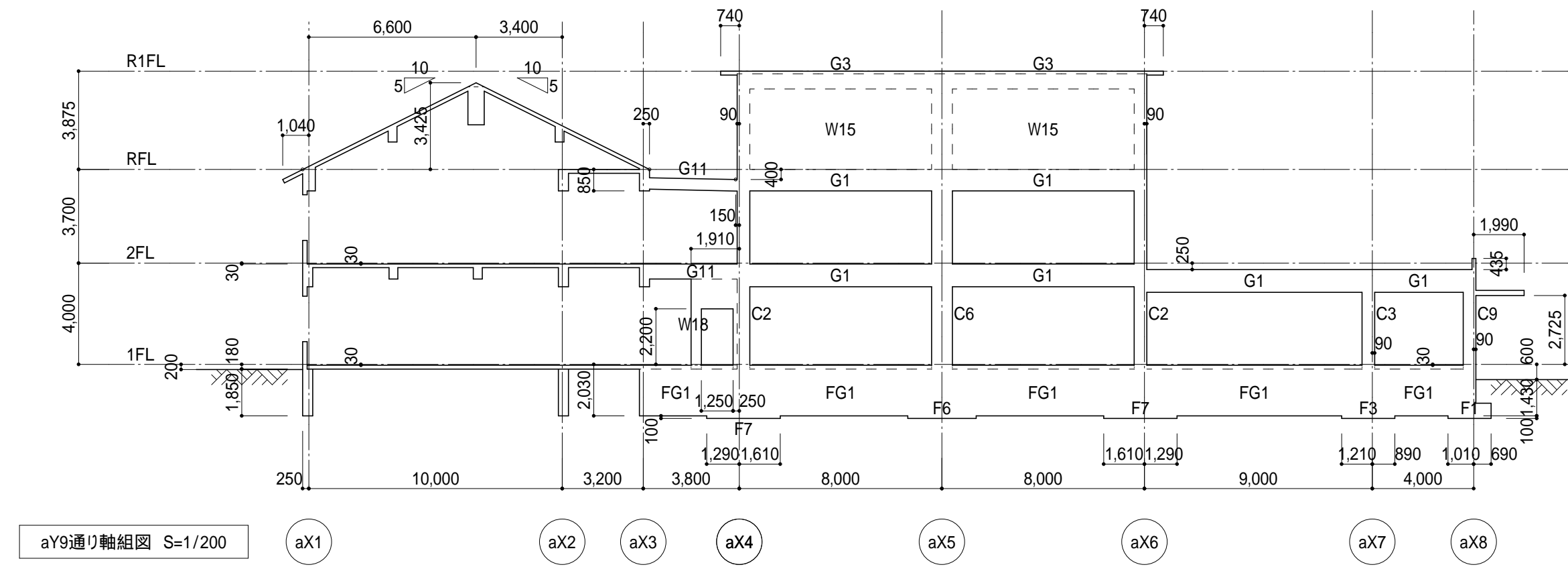
S006	横瀬小学校校舎建築工事		
	基礎伏図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		



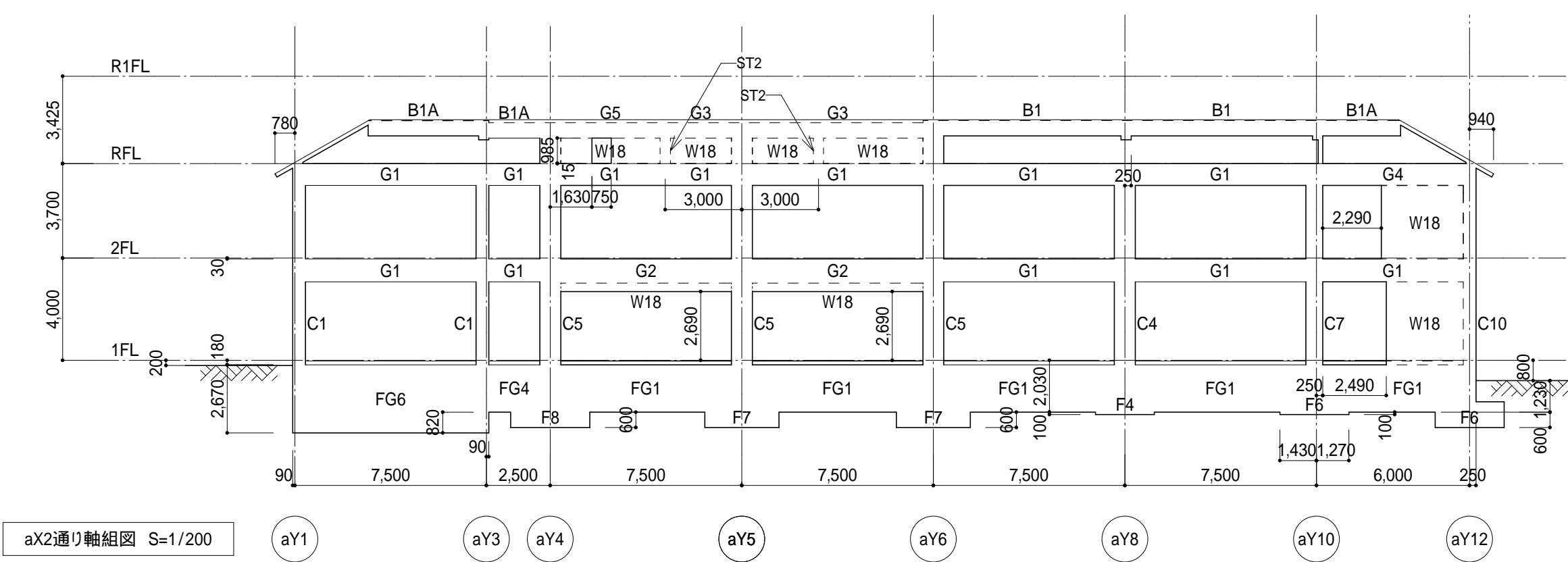
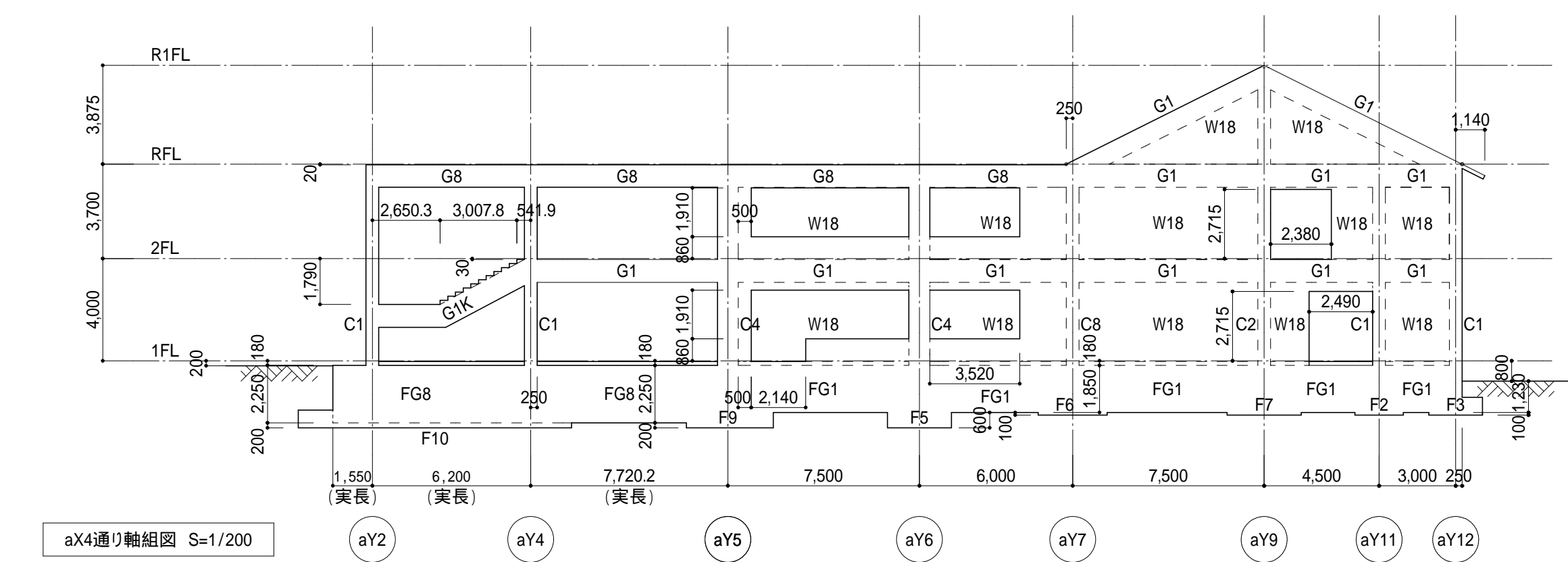
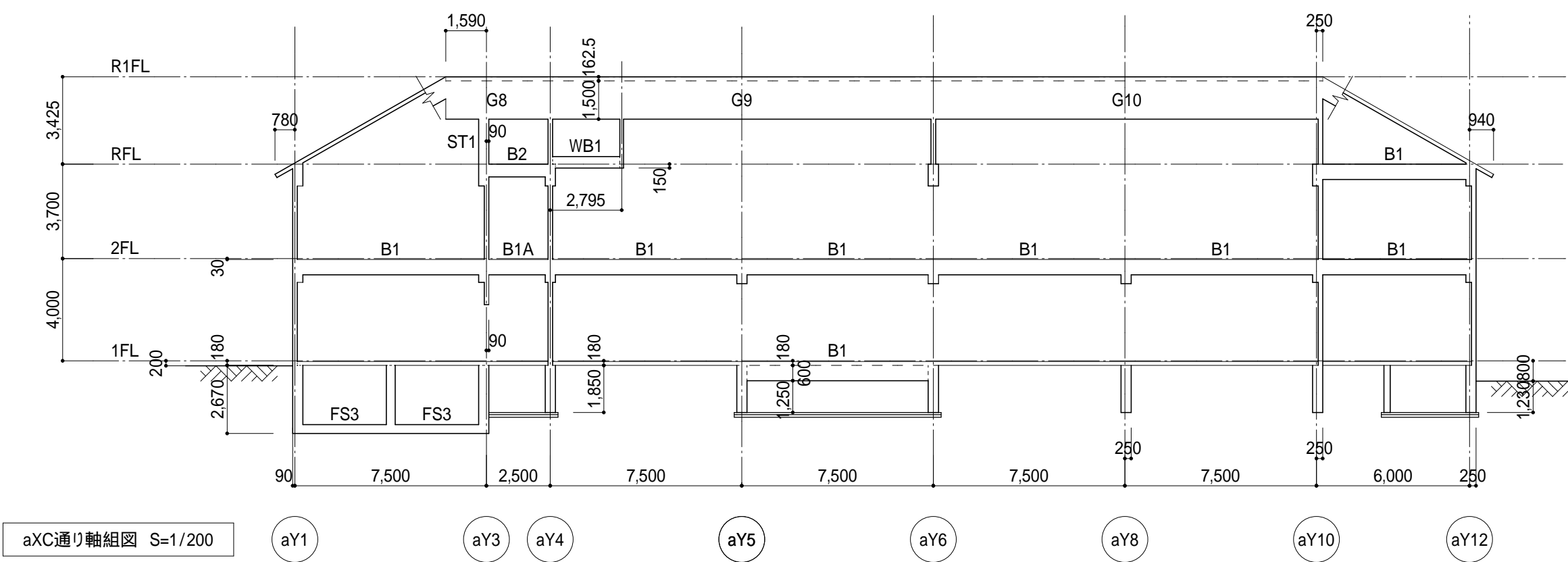
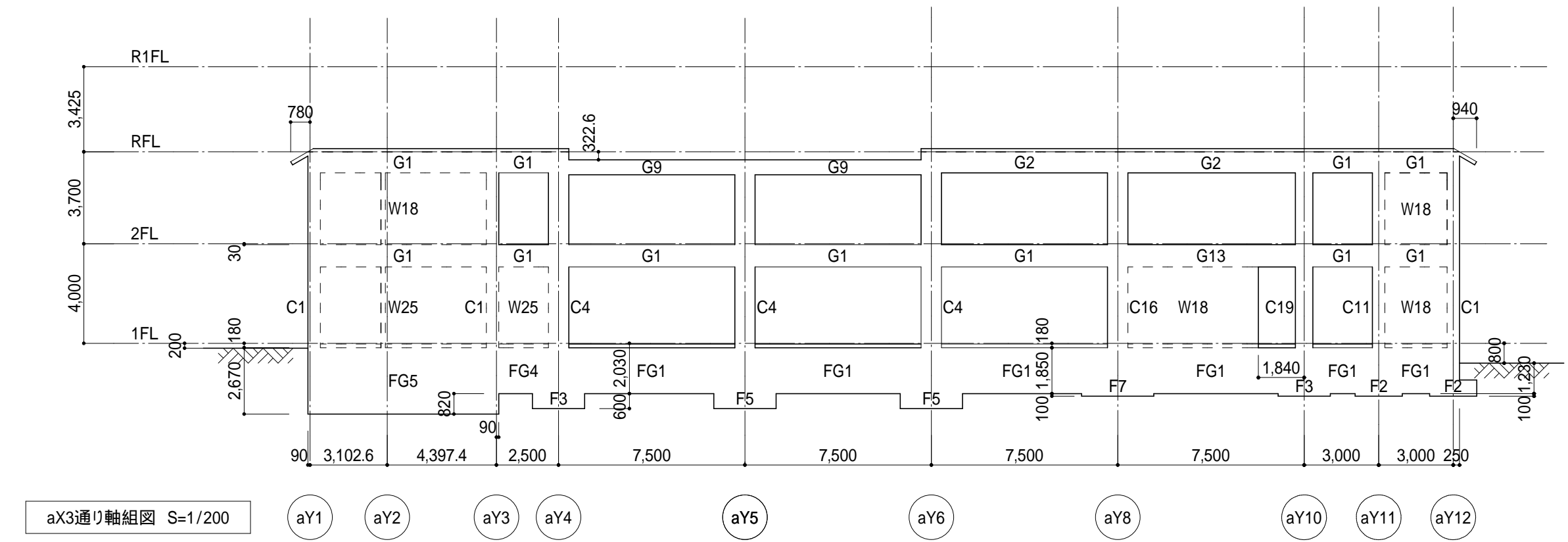
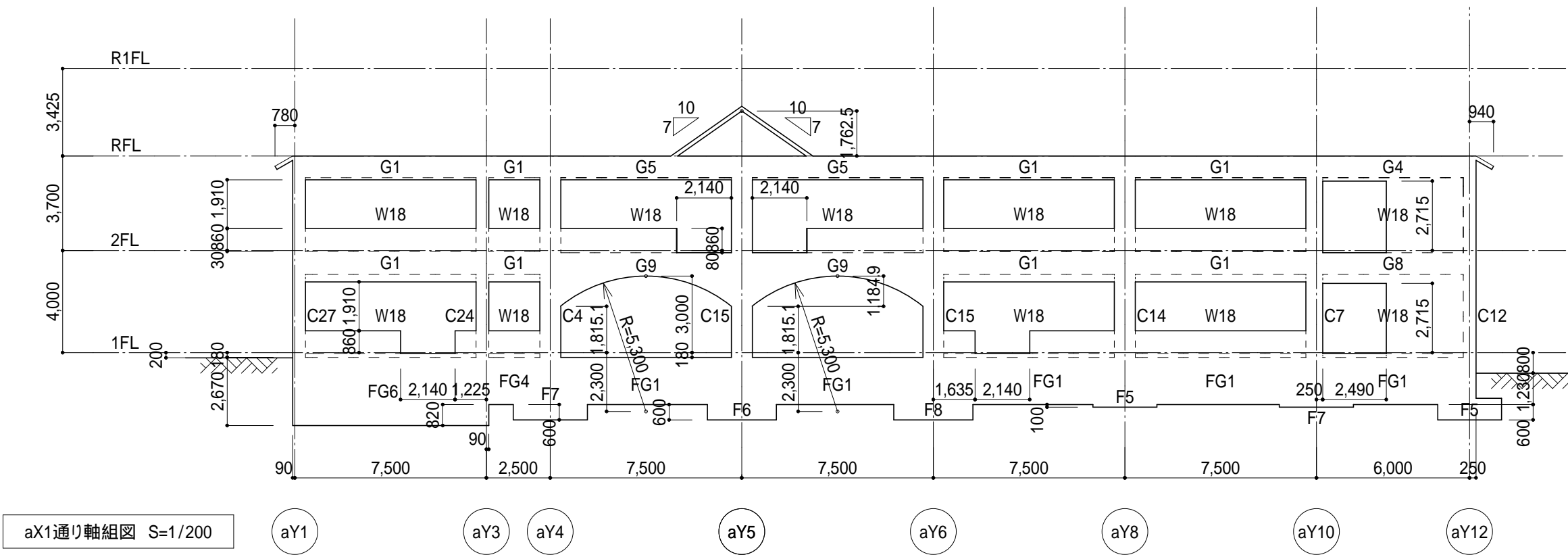
S007	横瀬小学校校舎建築工事		
	1階伏図・2階伏図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		

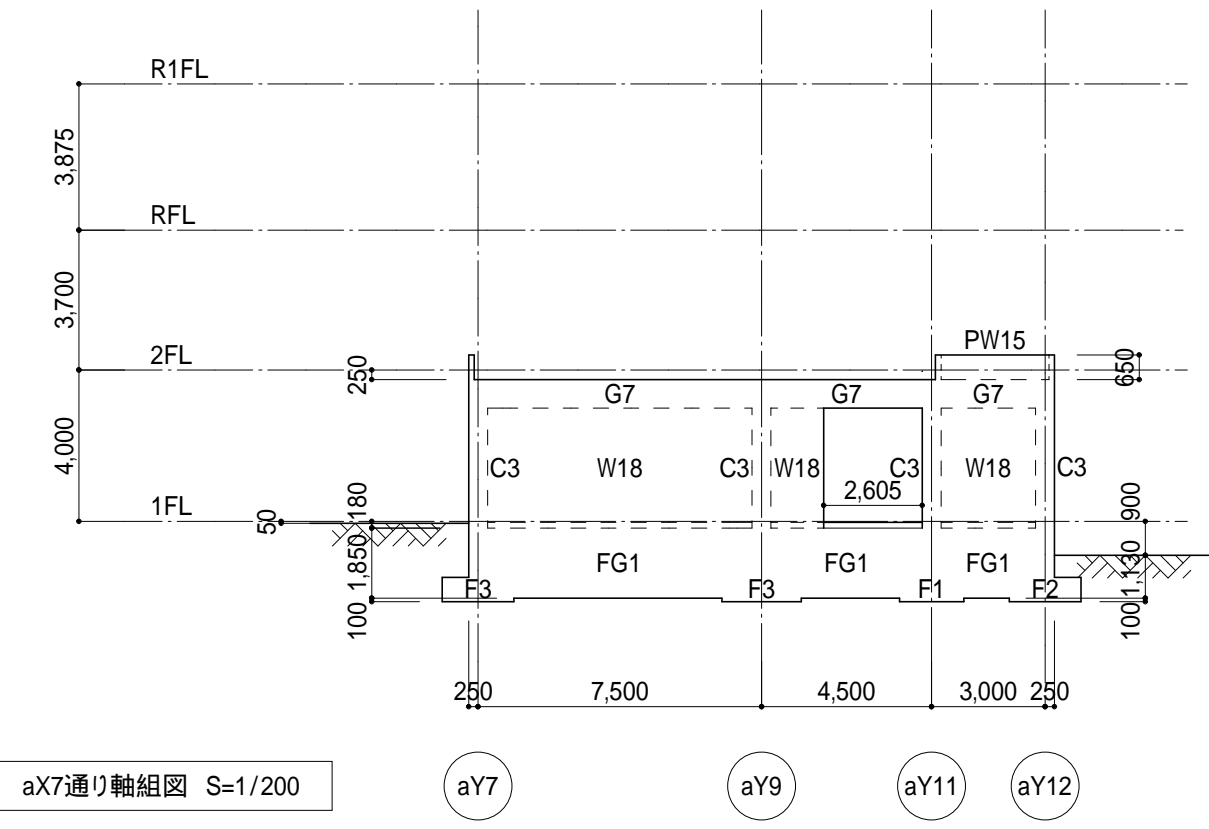
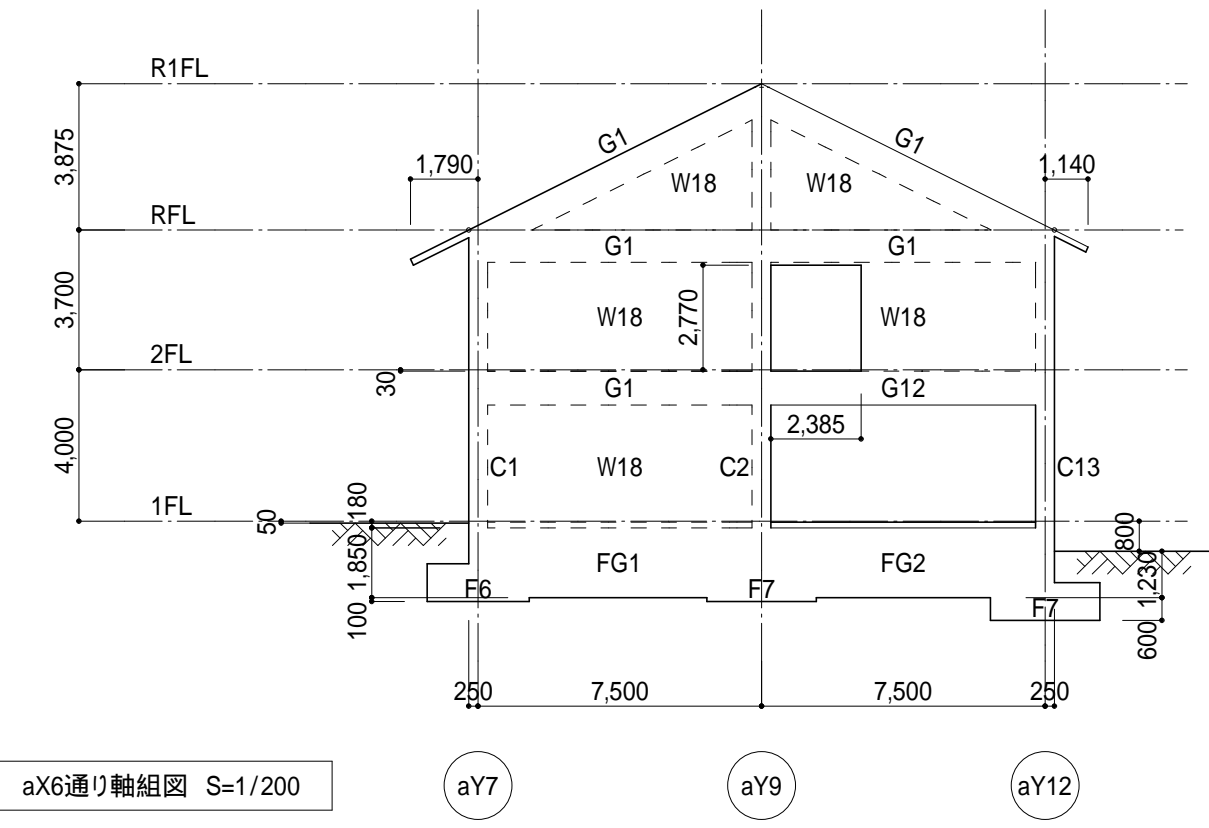
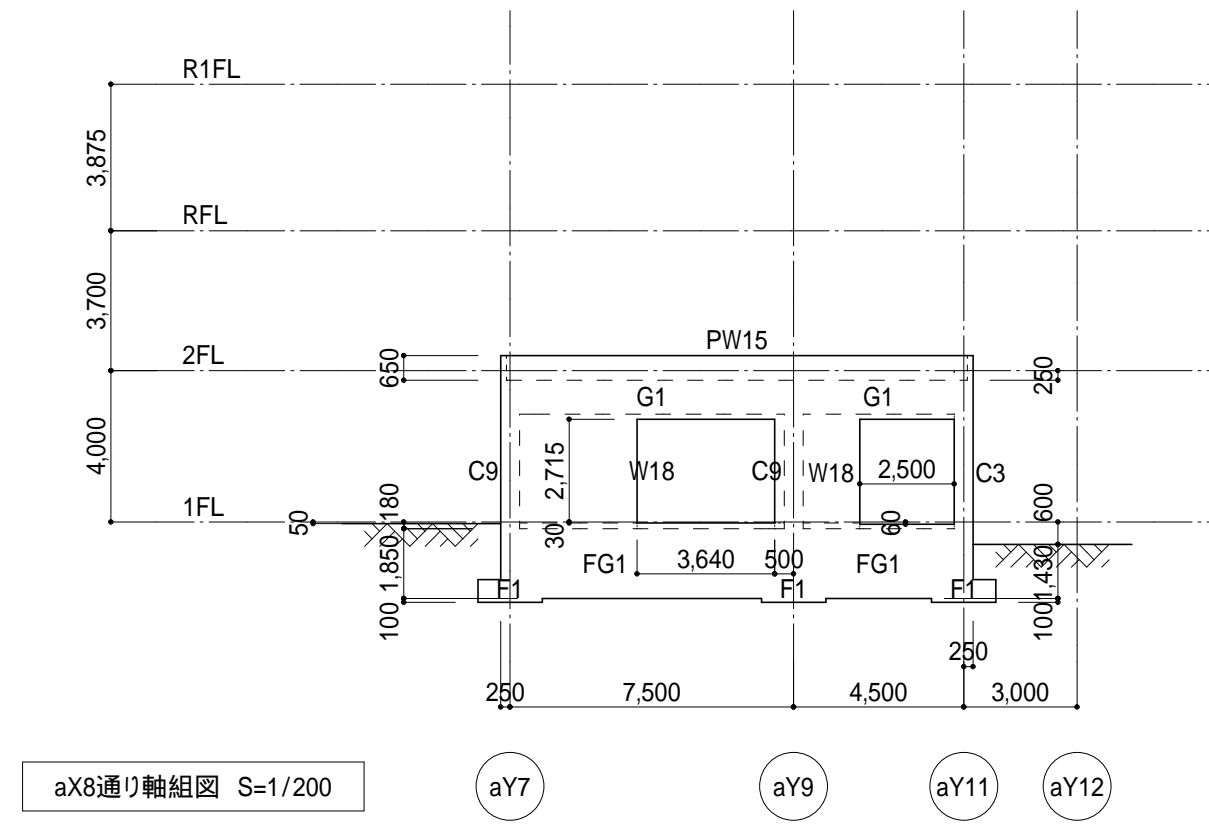
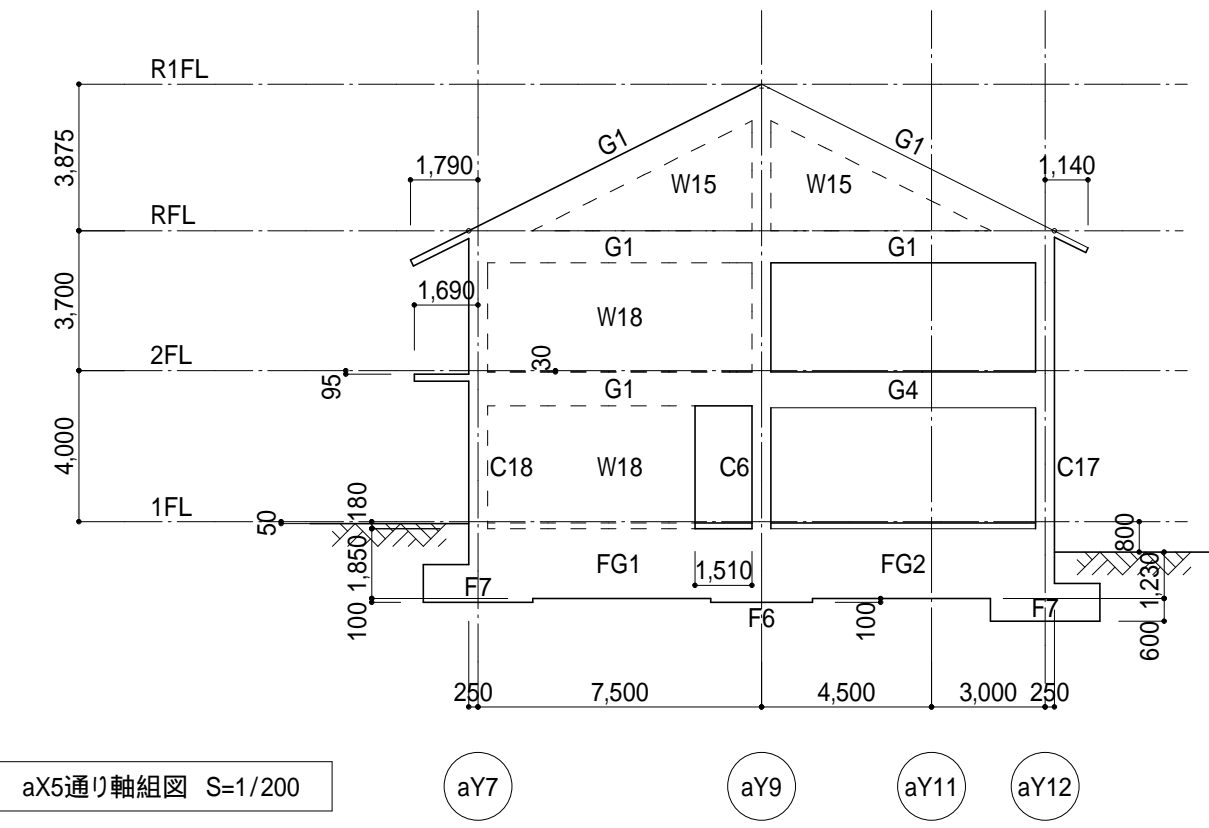




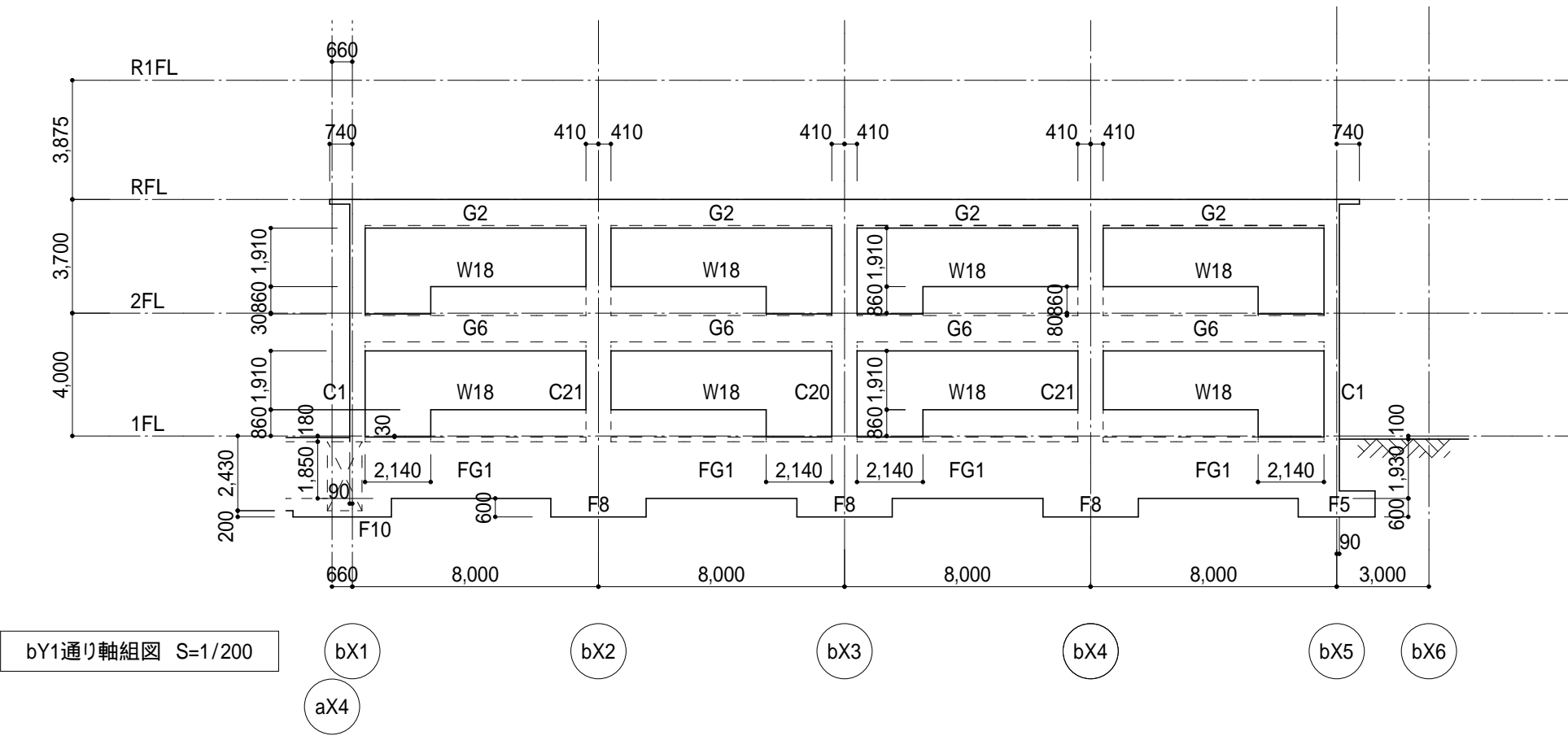


S010	横瀬小学校校舎建築工事		
	aY9通り ~ aY12通り軸組図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		

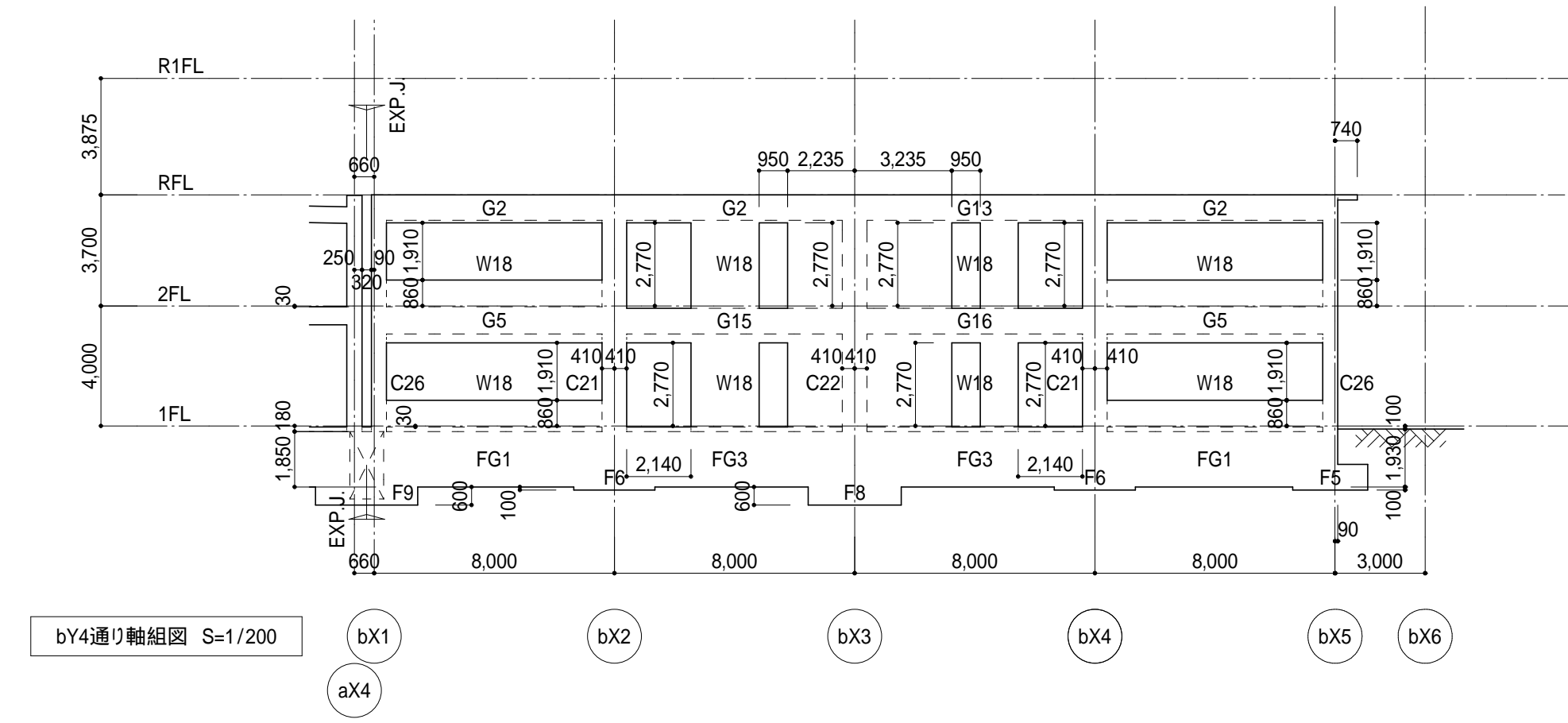




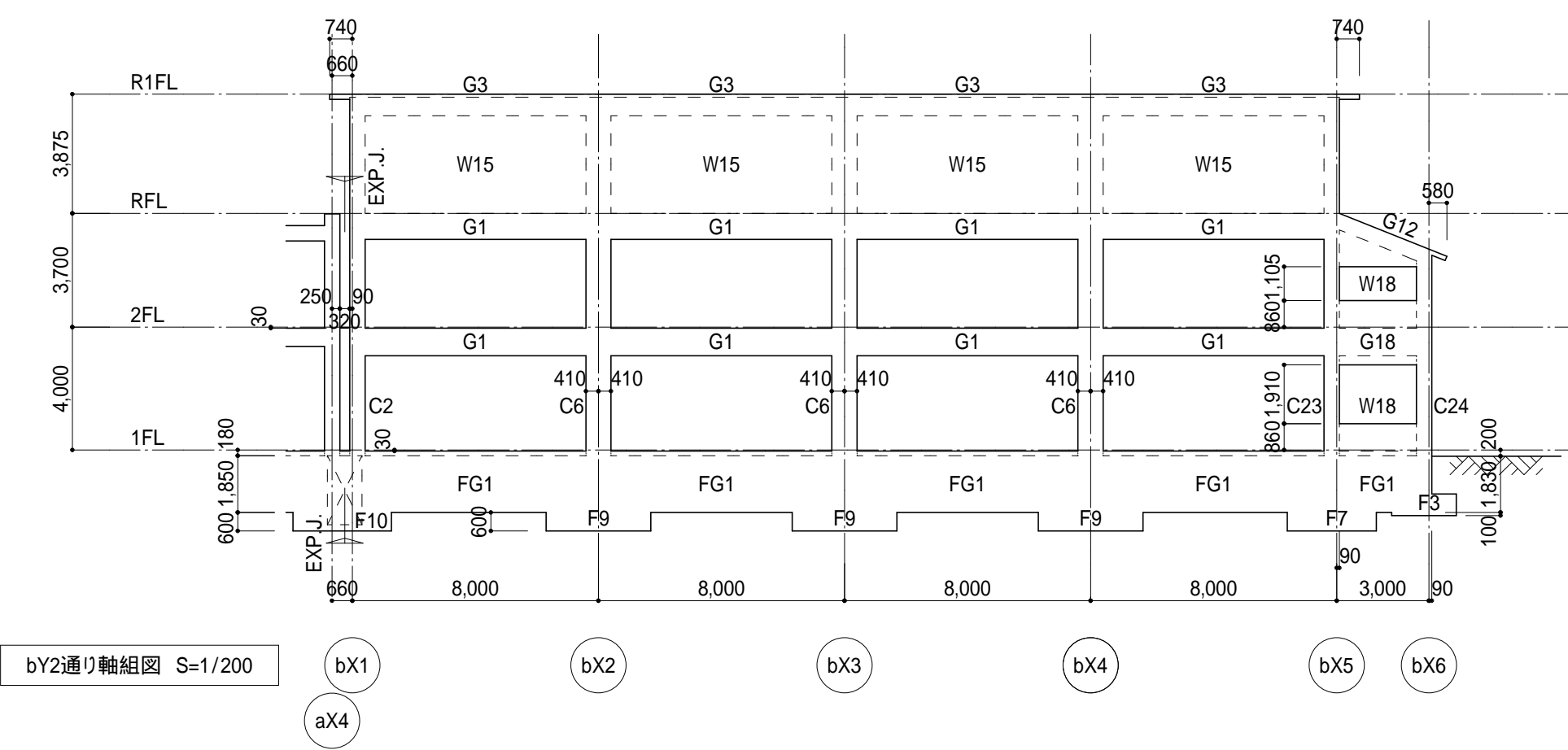
S012	横瀬小学校校舎建築工事		
	aX5通り～aX8通り軸組図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		



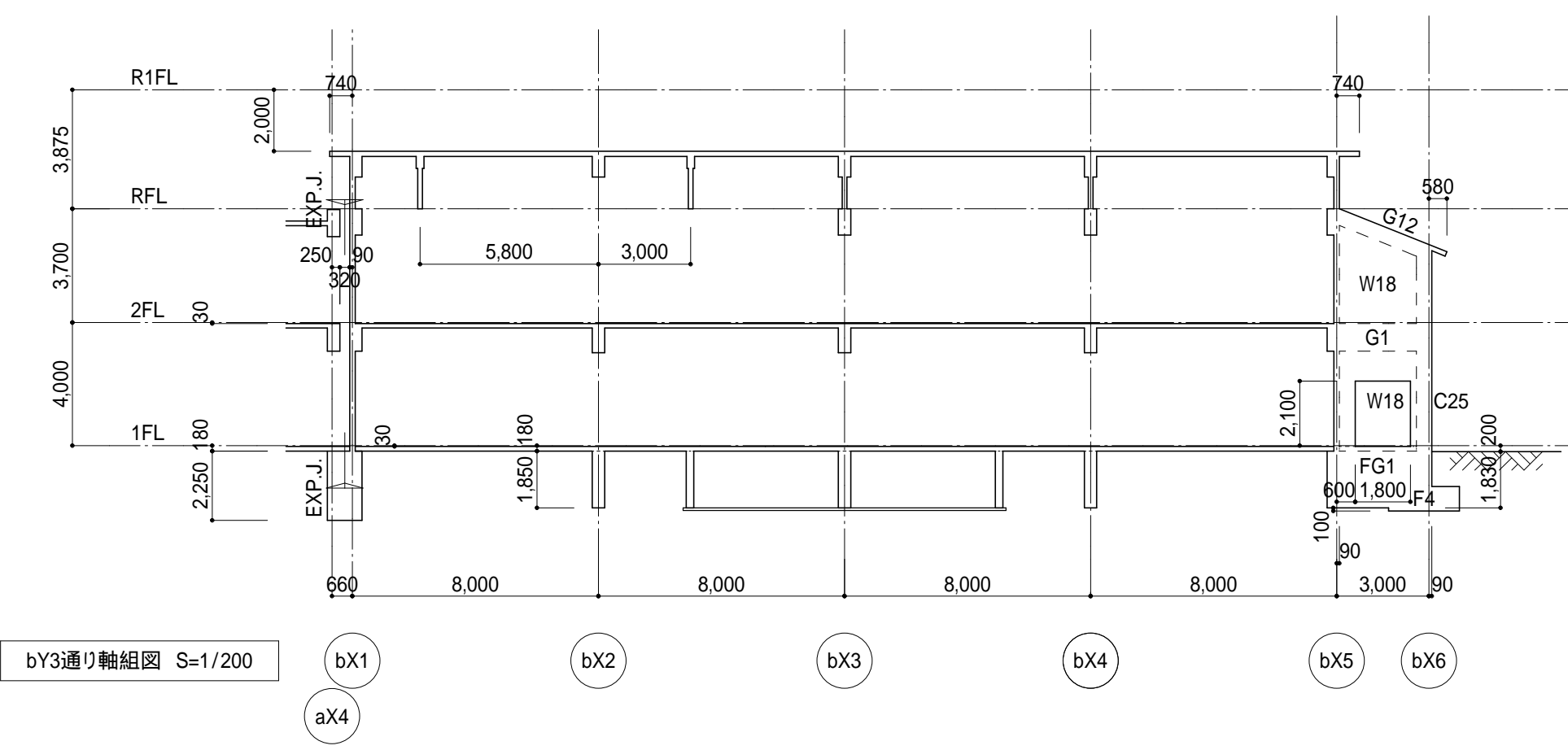
bY1通り軸組図 S=1/200



bY4通り軸組図 S=1/200

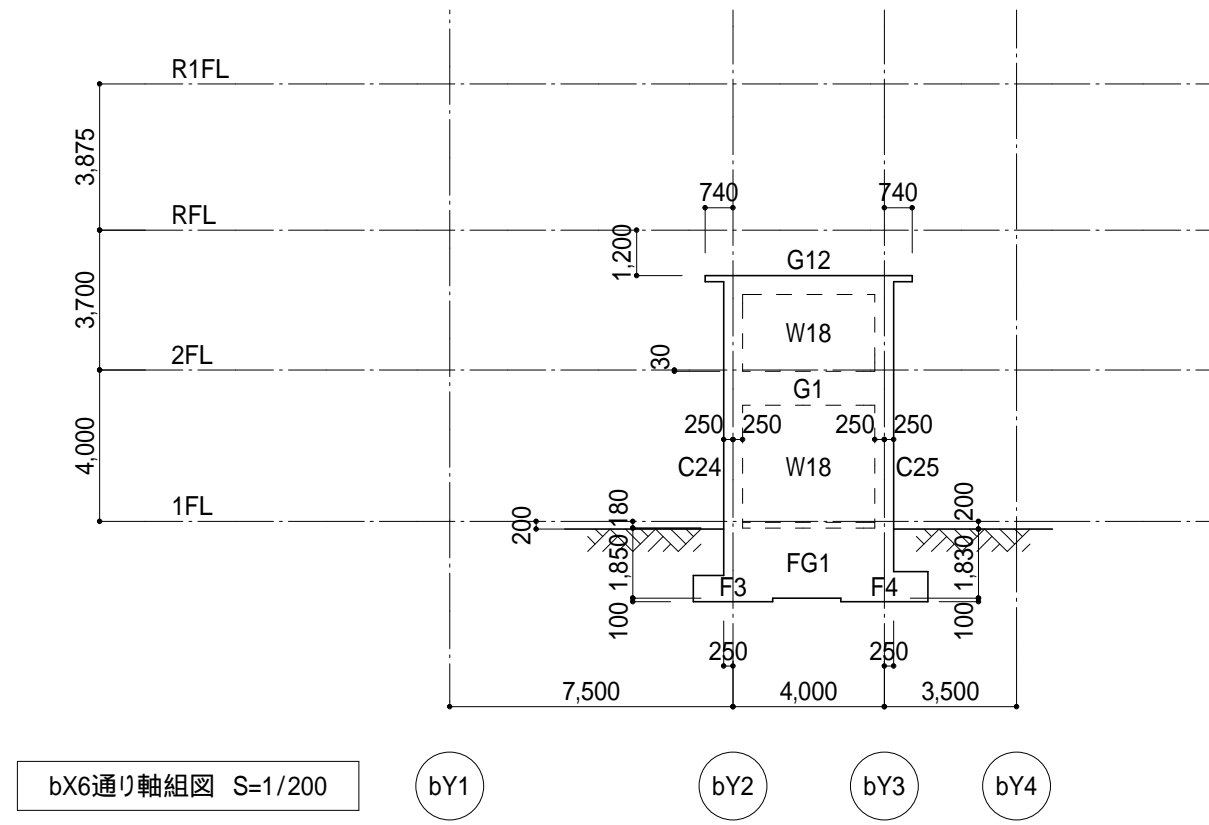
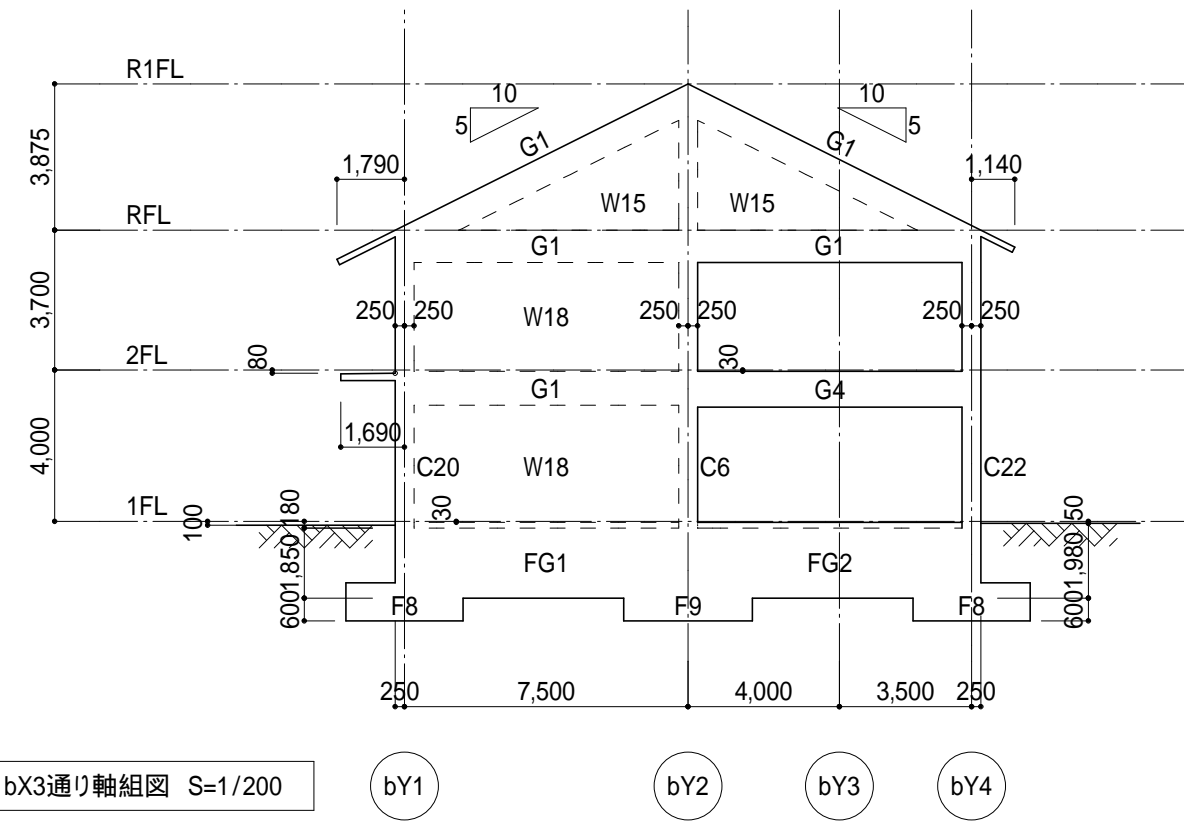
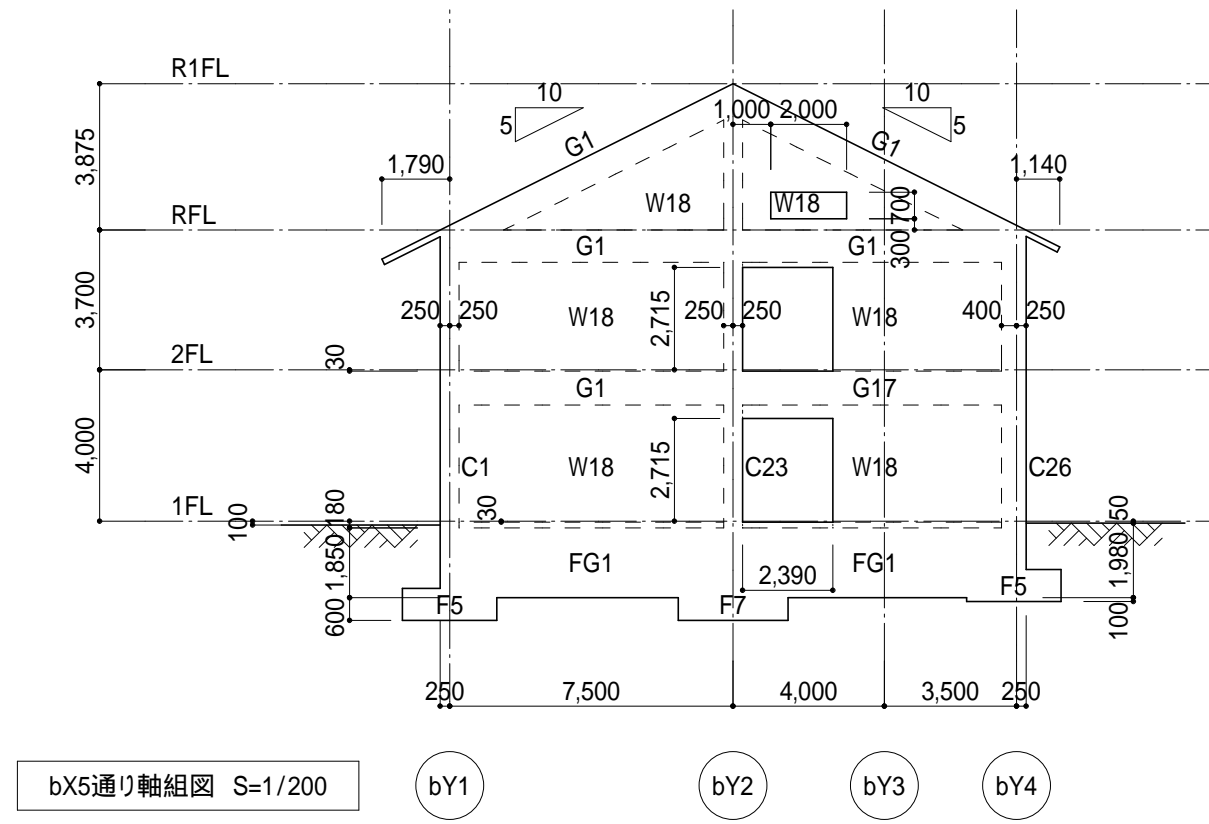
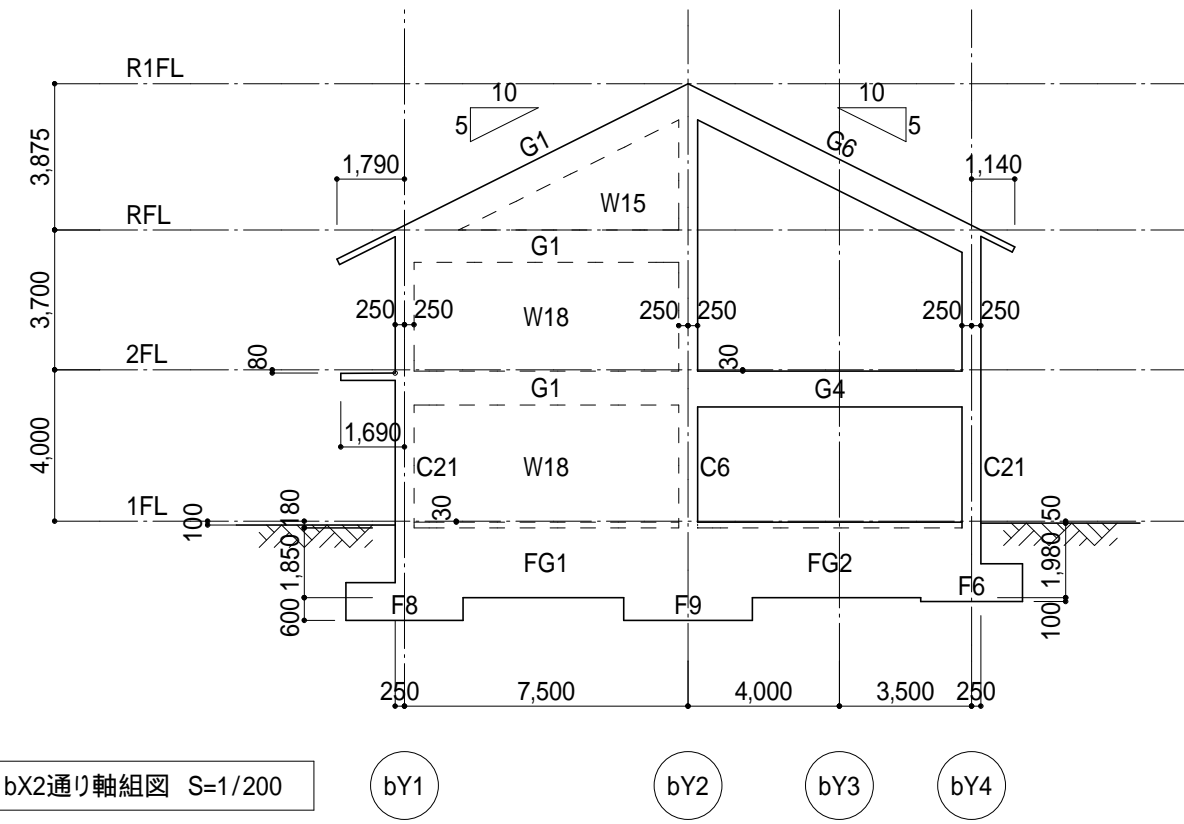
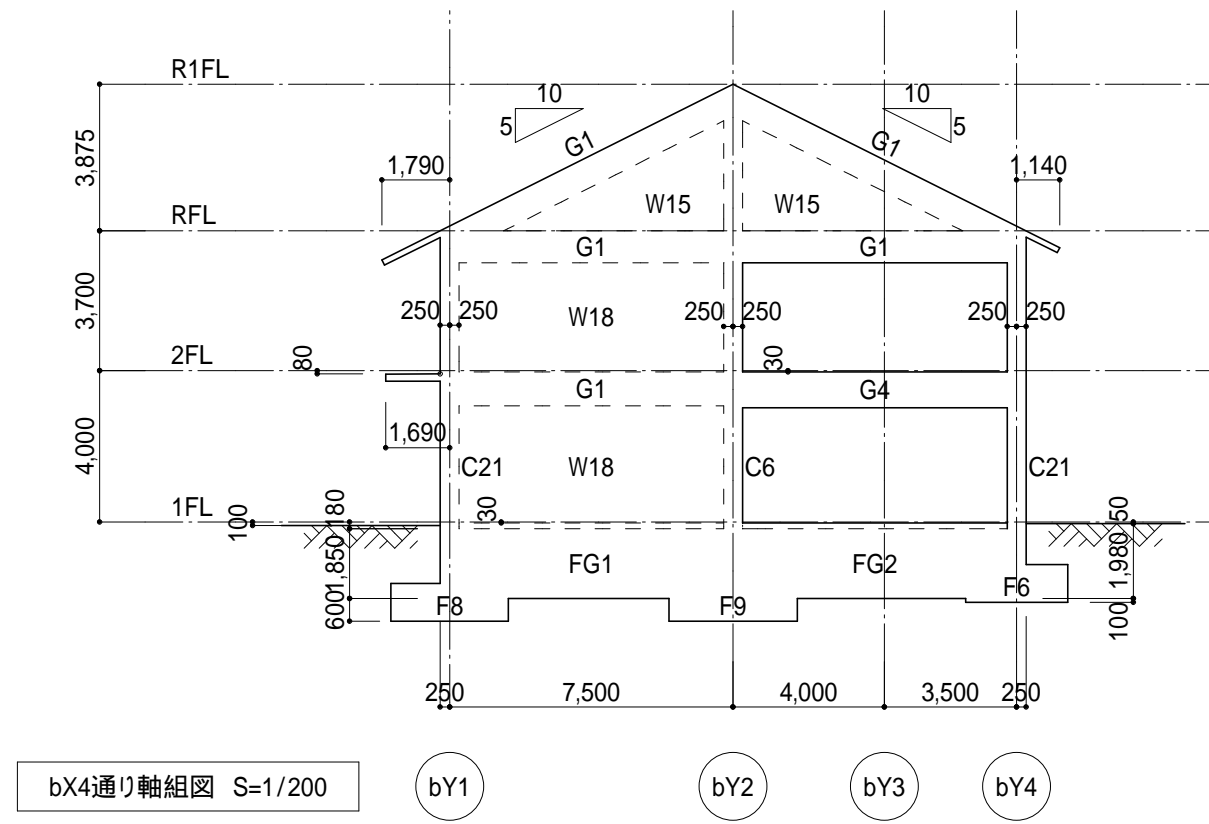
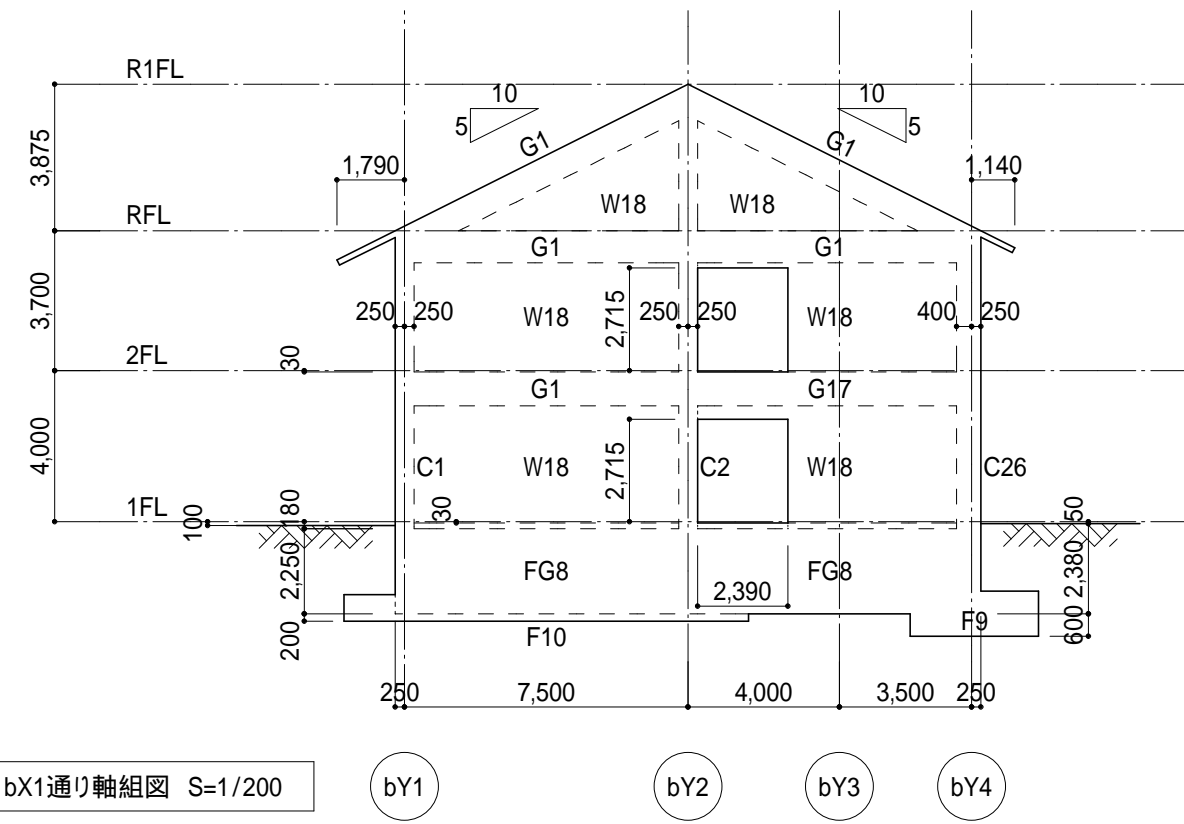


bY2通り軸組図 S=1/200

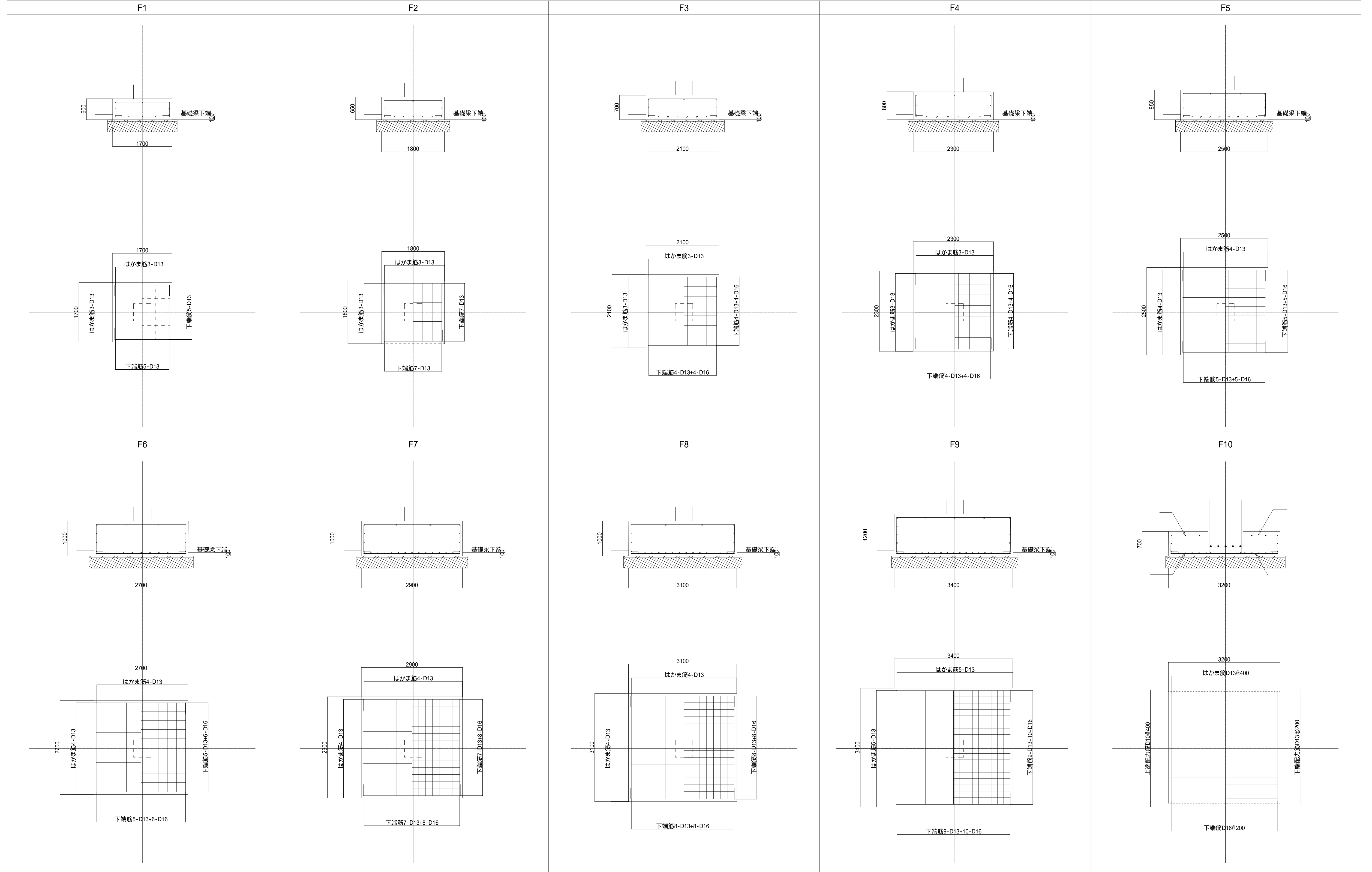


bY3通り軸組図 S=1/200

S013	横瀬小学校校舎建築工事		
	bY1通り～bY4通り軸組図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		



S014	横瀬小学校校舎建築工事		
	bX1通り～bX6通り軸組図		
	S=1/200	20/09/25	/ 林
	大宇根建築設計事務所		



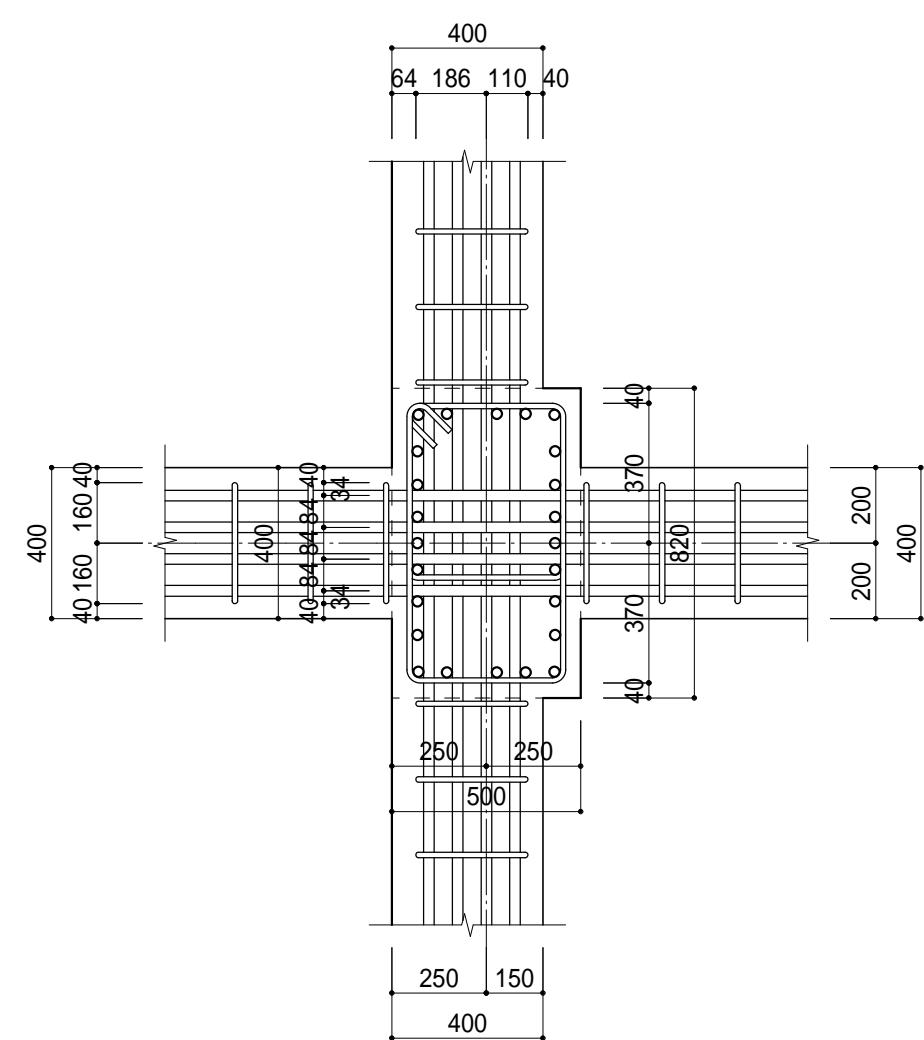
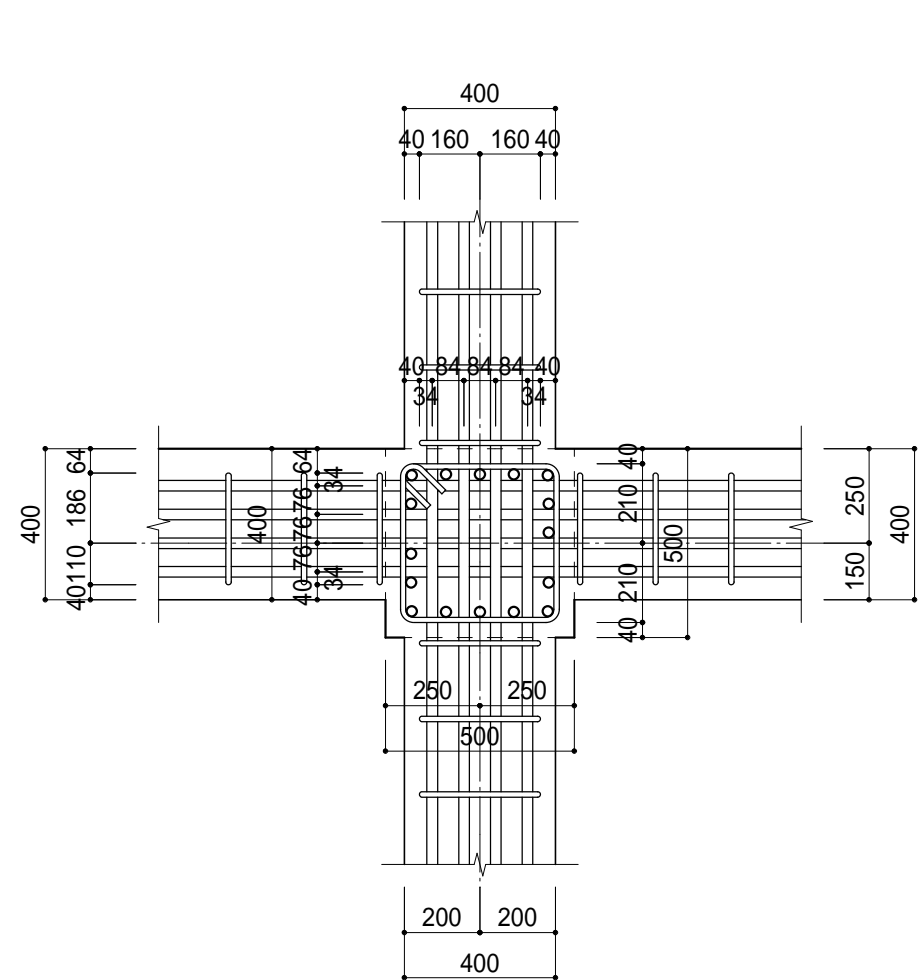
基礎大梁断面表 S=1/20

階	符号	FG1		FG2		FG3		FG4	FG5	FG6		
		全断面		両端	中央	両端	中央	全断面	aY6軸端	両端	中央	
1	断面											
		上端筋	3-D25		4-D25	3-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	5-D25	8-D25
		下端筋	3-D25		3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25
		肋筋	□-D13@250		□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250	□-D13@250
		腹筋	10-D10		10-D10		10-D10		10-D10	10-D10	16-D10	16-D10
		幅止筋	D10@1,000		D10@1,000		D10@1,000		D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000
備考												
階	符号	FG7		FG8								
		全断面		全断面								
1	断面											
		上端筋	4-D25		12-D25							
		下端筋	4-D25		12-D25							
		肋筋	□-D13@250		□-D13@250							
		腹筋	14-D10		14-D10							
		幅止筋	D10@1,000		D10@250							
備考			幅止筋の両端は標準フックとする。									

共通事項)
1) S: 捨てコンクリート厚、50mmを標準とするが、ドライビッドに絡む基礎大梁については100mmとして良い。

柱断面表 S=1/20

階	符号 断面位置	C1	C2 全断面	C3	C4	C5 全断面	C6 全断面	C7	C8
R	断面								
	主筋		4-D25			8-D25	8-D25		
	補助筋		4-D13						
	帯筋		□-D13@100			□-D13@100	□-D13@100		
備考									
2	断面								
	主筋	4-D25	4-D25		8-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25
	補助筋	4-D13	4-D13					2-D13	2-D13
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
備考									
1	断面								
	主筋	4-D25	4-D25		8-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25
	補助筋	4-D13	4-D13					2-D13	2-D13
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
備考									



柱断面表 S=1/20

階	符号 断面位置	C9	C10	C11	C12	C13	C14	C15	C16	
		R	断面							
	主筋									
	補助筋									
	帯筋									
	備考									
			全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
2	断面	断面								
	主筋		10-D25	6-D25	16-D25	16-D25	12-D25	8-D25	14-D25	
	補助筋		2-D13	2-D13						
	帯筋		□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	
	備考									
		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
1	断面	断面								
	主筋	8-D25	10-D25	6-D25	16-D25	4-D25	8-D25	24-D25	16-D25	
	補助筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	4-D13				
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	
	備考									

柱断面表 S=1/20

階	符号 断面位置	C17	C18	C19	C20	C21	C22	C23	C24	
		全断面								
R	断面									
	主筋								4-D25	
	補助筋								4-D13	
	備考								□-D13@100	
2	断面									
	主筋	8-D25	8-D25	7-D25	8-D25	8-D25	16-D25	8-D25	8-D25	
	補助筋	□-D13@100	□-D13@100	○-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	2-D13	2-D13	
	備考							□-D13@100	□-D13@100	
1	断面									
	主筋	12-D25	18-D25	7-D25	8-D25	10-D25	16-D25	6-D25	4-D25	
	補助筋							2-D13	4-D13	
	備考	□-D13@100	□-D13@100	○-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	

柱断面表 S=1/20

階	符号	C25	C26	ST1	ST2	C27		
	断面位置			柱頭	柱頭			
R	断面							
	主筋			8-D25	8-D25			
	補助筋				2-D13			
	帯筋			□-D13@100	□-D13@100			
	備考							
	断面位置			柱脚	柱脚			
	断面							
	主筋			8-D25	8-D25			
	補助筋				2-D13			
	帯筋			□-D13@100	□-D13@100			
	備考							
2	断面位置	全断面	全断面			全断面		
	断面							
	主筋	10-D25	20-D25			6-D25		
	補助筋	2-D13				2-D13		
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100			□-D13@100		
	備考							
1	断面位置	全断面	全断面			全断面		
	断面							
	主筋	4-D25	18-D25			6-D25		
	補助筋	4-D13				2-D13		
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100			□-D13@100		
	備考							

階	符号 断面位置	G1(G1K)		G2		G3			G4		G5			
		全断面		全断面		aX1端	中央	aX2端	両端	中央	両端	中央		
2	断面													
		上端筋	3-D25	3-D25	6-D25	4-D25	8-D25	4-D25	3-D25	6-D25	3-D25			
		下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	6-D25	3-D25	2-D25	3-D25	4-D25	3-D25			
		肋筋	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		
		腹筋	4-D10	4-D10		4-D10			4-D10	4-D10		4-D10		
		幅止筋	D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000			D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000		
備考	G1Kは階段状折り曲げ梁で配筋はG1に同じ													
階	符号 断面位置	G6		G7		G8		G9		G10				
		両端	中央	全断面	aY10端	中央・aY12端	両端	中央	aX2端・中央	aX3端				
2	断面													
		上端筋	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25			
		下端筋	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25	3-D25	2-D25	2-D25		
		肋筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			
		腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	10-D10	4-D10	4-D10	2-D10			
		幅止筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000		
備考	アーチ梁 ハンチ長さ柱フェース面よりL=1,750mm													
階	符号 断面位置	G11		G12		G13		G14		G15				
		全断面	aY9端	aY12端側壁領域	aY8端側壁領域	aY10端	全断面	bX2端	中央	bX3端				
2	断面													
		上端筋	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	4-D25	8-D25			
		下端筋	2-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	2-D25	3-D25	3-D25	3-D25			
		肋筋	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@100		□-D13@200				
		腹筋	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10		4-D10				
		幅止筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000				
備考														

共通事項)
1) 上端筋、下端筋に関わらず、トップ筋の余長は $1/4 \times L_v$ (L_v : 内法スパン)より25d (d: 呼び径)とする。

大梁断面表 S=1/20

階	符号	G16			G17			G18			
		断面位置	bX3端	中央	bX4端	bY2端	中央	bY4端	全断面		
2	断面										
		上端筋	8-D25	8-D25	4-D25	3-D25	6-D25	6-D25	4-D25		
		下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	4-D25		
		肋筋	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@200		
		腹筋		4-D10			4-D10		4-D10		
		幅止筋		D10@1,000			D10@1,000		D10@1,000		
備考											
階	符号	G1		G2		G3		G4		G5	
		断面位置	全断面	両端	中央	両端	中央	aY10端	aY12端側全体領域	両端	中央
R	断面										
		上端筋	3-D25	4-D25	3-D25	6-D25	3-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25
		下端筋	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25
		肋筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	
		腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	
		幅止筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	
備考											
階	符号	G6	G7	G8	G9		G10	G11	G12	G13	
		断面位置	全断面	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
R	断面										
		上端筋	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25
		下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25
		肋筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
		腹筋	2-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		幅止筋	D10@1,000		D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000				D10@1,000
備考											

特記事項
 1) 上端筋、下端筋に関わらず、トップ筋の余長は $1/4 \times L_0$ (L_0 : 内法スパン)より25d (d: 呼び径)とする。

大梁断面表 S=1/20

階	符号 断面位置	G1		G2		G3	G4		G5		
		全断面		両端	中央	全断面	両端	中央	両端(袖壁拘束域)	中央(クリアスパン)	
R1	断面										
		上端筋	3-D25		4-D25	2-D25	2-D25+1-D13	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25
		下端筋	3-D25		3-D25	4-D25	2-D25+1-D13	4-D25	6-D25	3-D25	3-D25
		肋筋	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200
		腹筋	2-D10		2-D10		2-D10	4-D10		2-D10	
		幅止筋	D10@1,000		D10@1,000		D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000	
備考					主筋D13は補助鉄筋						
階	符号 断面位置	G6			G7						
		bY2端	中央	bY4端	全断面						
R1	断面										
		上端筋	7-D25			6-D25					
		下端筋	3-D25			3-D25					
		肋筋	□-D13@200			□-D13@200					
		腹筋	2-D10			2-D10					
		幅止筋	D10@1,000			D10@1,000					
備考											

共通事項)

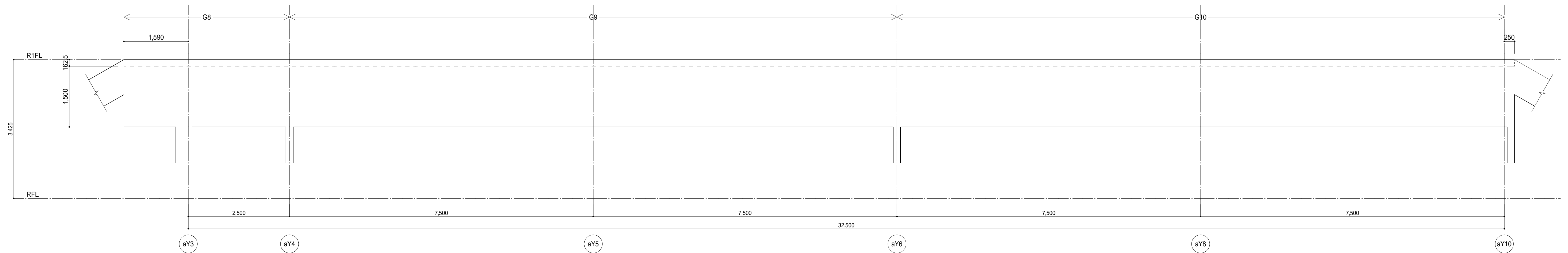
1) 上端筋、下端筋に関わらず、トップ筋の余長は $1/4 \times L_c$ (L_c : 内法スパン)より25d(d: 呼び径)とする。

大梁断面表 S=1/20

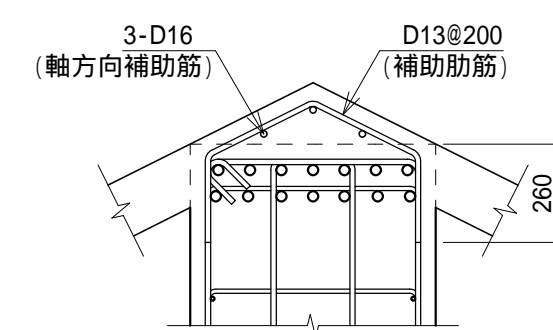
階	符号	G8			G9			G10		
		先端	中央	aY4軸端	aY4軸端	中央	aY6軸端	中央	aY10軸端	
R1	断面									
	上端筋	4-D25	10-D25	14-D25	14-D25	4-D25	14-D25	14-D25	4-D25	6-D25
	下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	12-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	肋筋		□□-D13@200			□□-D13@200			□□-D13@200	
	腹筋		6-D10			6-D10			6-D10	
	幅止筋		D10@1,000			D10@1,000			D10@1,000	
備考										

特記事項

1) 上端筋、下端筋に関わらず、トップ筋の余長は $1/4 \times L_v$ (L_v : 内法スパン) より $25d$ (d : 呼び径) とする。



aXC通り軸組図 S=1/50



小梁断面表 S=1/20

符号	B1 (B1A)		B2	B2A		B3		B3A	B4	B5	WB1
	両端(全断面)	中央	全断面	連梁端(a1端)	他端	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
断面											
上端筋	5-D22	2-D22	2-D22	4-D25	2-D25	5-D22	2-D22	2-D22	3-D22	2-D22	1-D16
下端筋	2-D22	5-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	4-D22	2-D22	2-D22	2-D22	1-D16
肋筋	-D10@200		-D10@200	-D13@200		-D10@200		-D10@200	-D10@200	-D10@200	-D13@200
腹筋	2-D10					2-D10		2-D10			2-D13
幅止筋	D10@1,000					D10@1,000		D10@1,000			
備考	()はB1Aを表す, B1AはB1の両端断面で全断面梁。										

基礎小梁断面表 S=1/20

符号	FB1	FB2		FB3			FB4	
	全断面	両端	中央	a1端	両端	a2端	a2端	a3端
断面								
上端筋	2-D22	2-D22	2-D22	4-D25	6-D25	12-D25	12-D25	6-D25
下端筋	2-D22	2-D22	3-D22	6-D25	8-D25	6-D25	6-D25	6-D25
肋筋	□-D10@250	□-D10@250		□-D13@250			□-D13@250	□-D13@250
腹筋	10-D10	10-D10		14-D10			14-D10	14-D10
幅止筋	D10@1,000	D10@1,000		D10@1,000			D10@1,000	D10@1,000
備考						ハンチ長さ2,450mm(主筋1はハンチ内トップ筋)	ハンチ長さ1,350mm(主筋1はハンチ内トップ筋)	

共通事項)
1) S:捨てコンクリート厚, 50mmを標準とするが, ドライビットに絡む基礎小梁については100mmとして良い。

片持ち梁断面表 S=1/20

符号	CG1	
断面位置	基端	先端
断面		
b x D		
上端筋	4-D25	2-D25
下端筋	2-D22	2-D22
筋	-D13@200	
幅止筋		
備考		

スラブ断面表 S=1/20

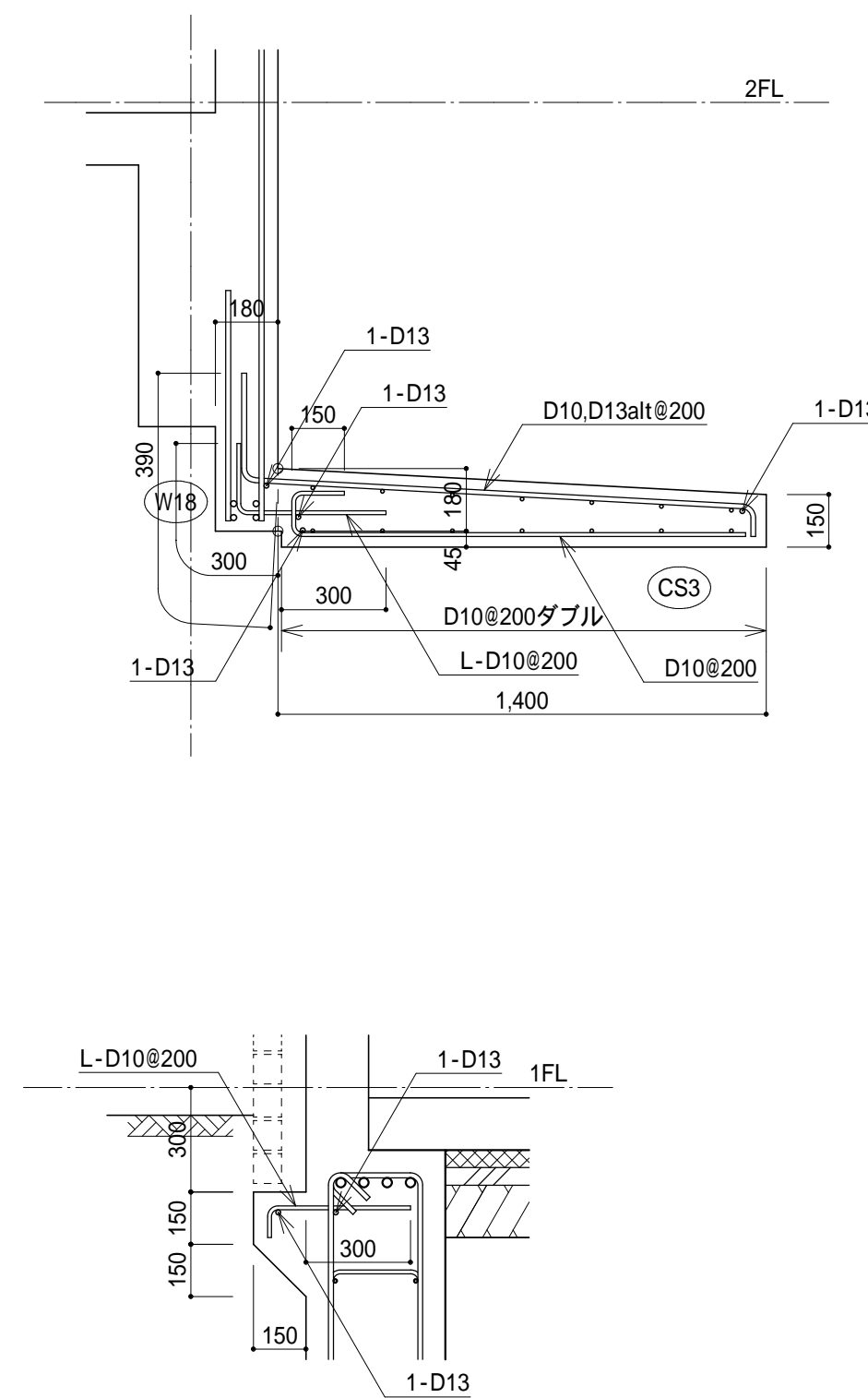
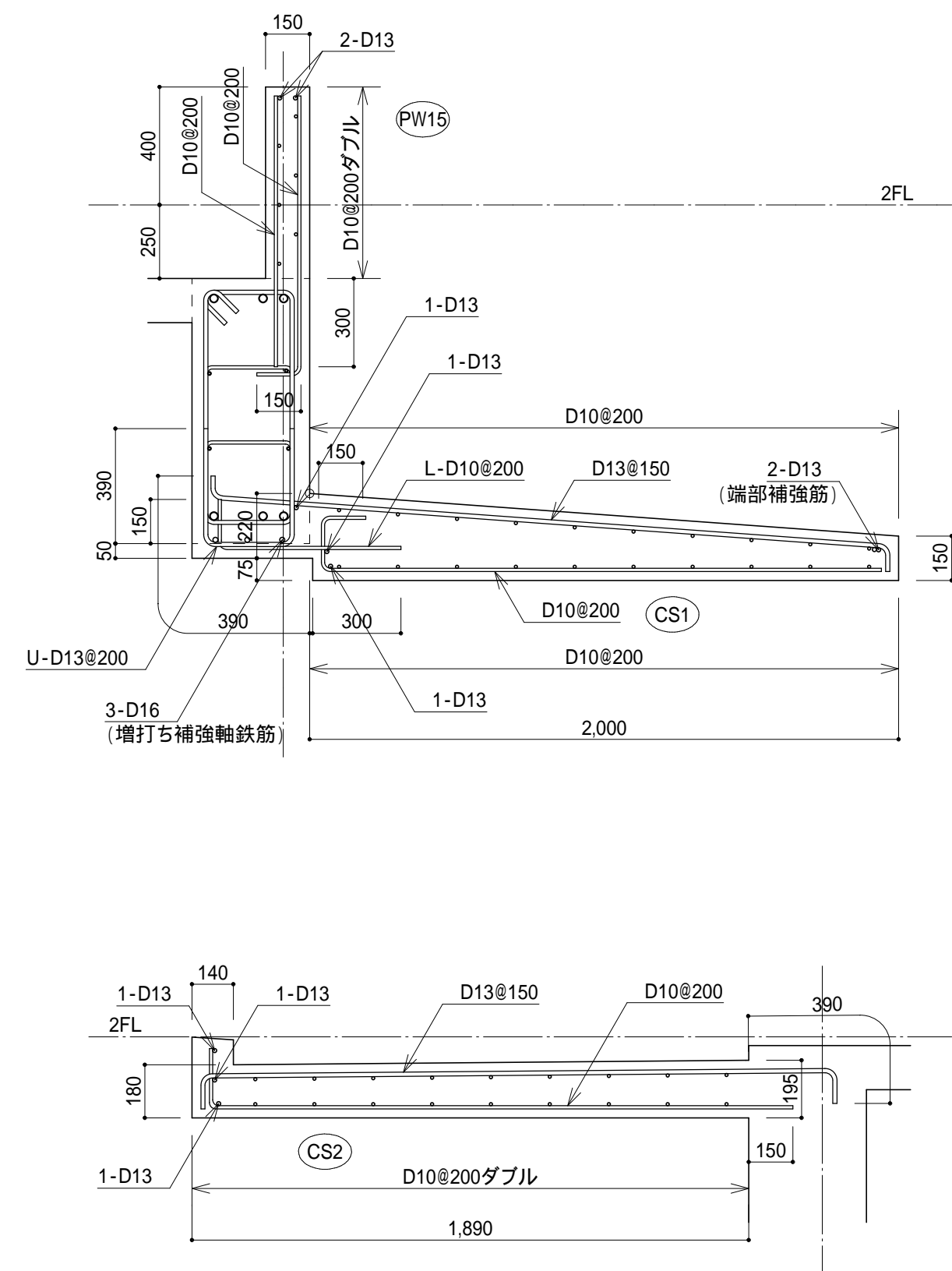
符号	S1(S1A)	S2	S3
断面			
備考	()内はS1AスラブaY6端側1mの配筋筋を示す。	屋上機械置場・屋上テラススラブ	ELV天蓋スラブ

壁断面表 S=1/20

符号	W15	W18
断面位置	全断面	全断面
断面		
開口補強	タテ筋 2-D13 ヨコ筋 2-D13 斜め筋 2-D13	4-D16 4-D16 2-D13
幅止筋		D10@1,000
備考		
符号	W18S	W25
断面位置	全断面	全断面
断面		
開口補強	タテ筋 4-D16 ヨコ筋 4-D19 斜め筋 2-D13	4-D16 4-D19 2-D13
幅止筋	D10@900	D10@1,000
備考		

片持ちスラブ断面表 S=1/20

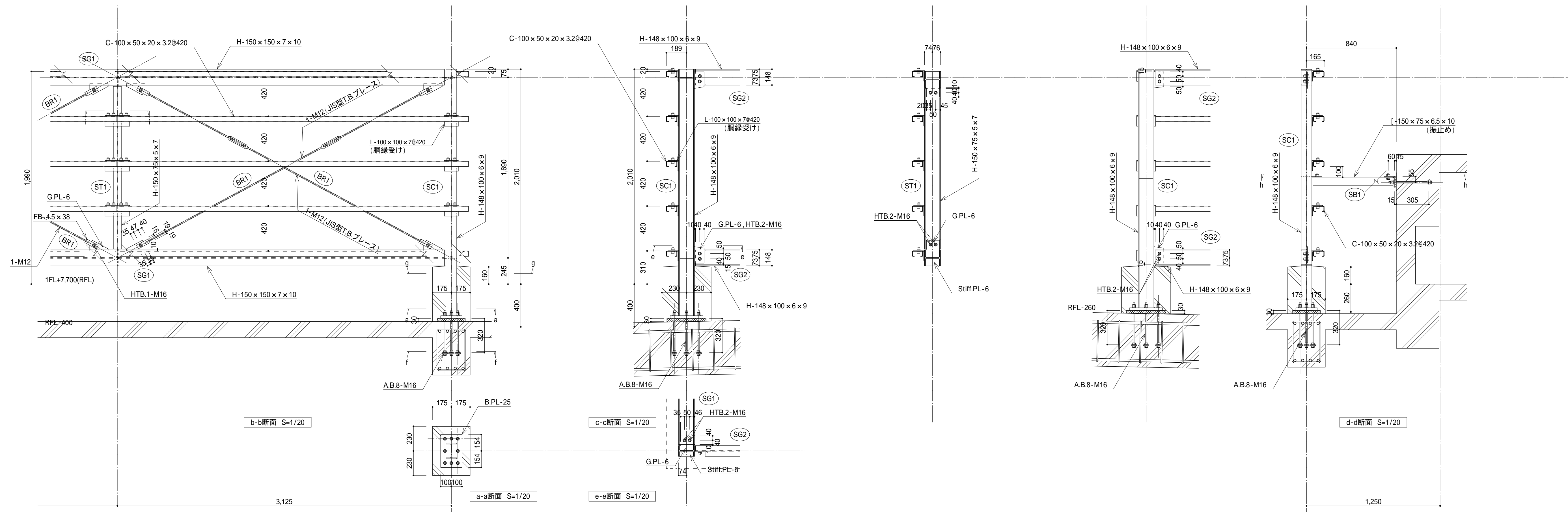
共通事項)
1)図に示される断面形状・配筋は全断面同一とする。



外壁レンガ受け額断面詳細図 S=1/20

基礎スラブ断面表 S=1/20

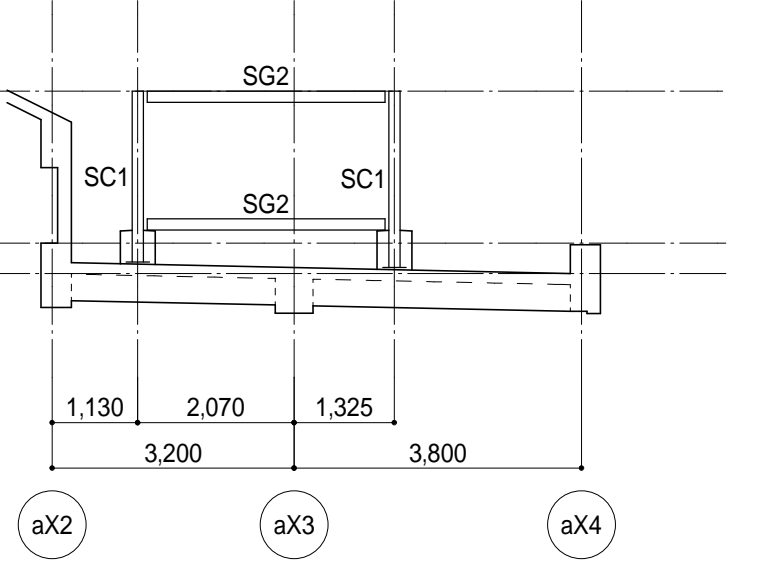
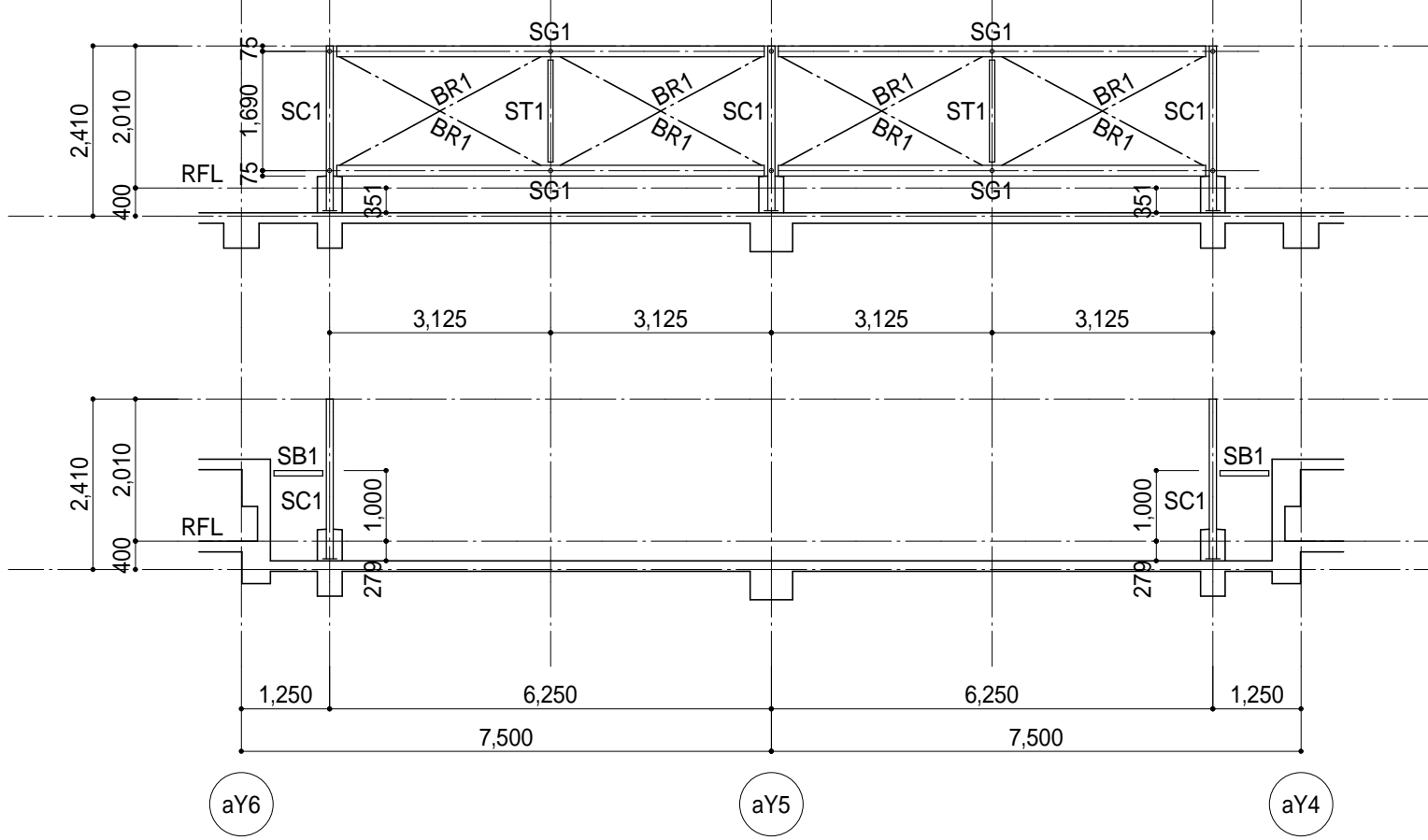
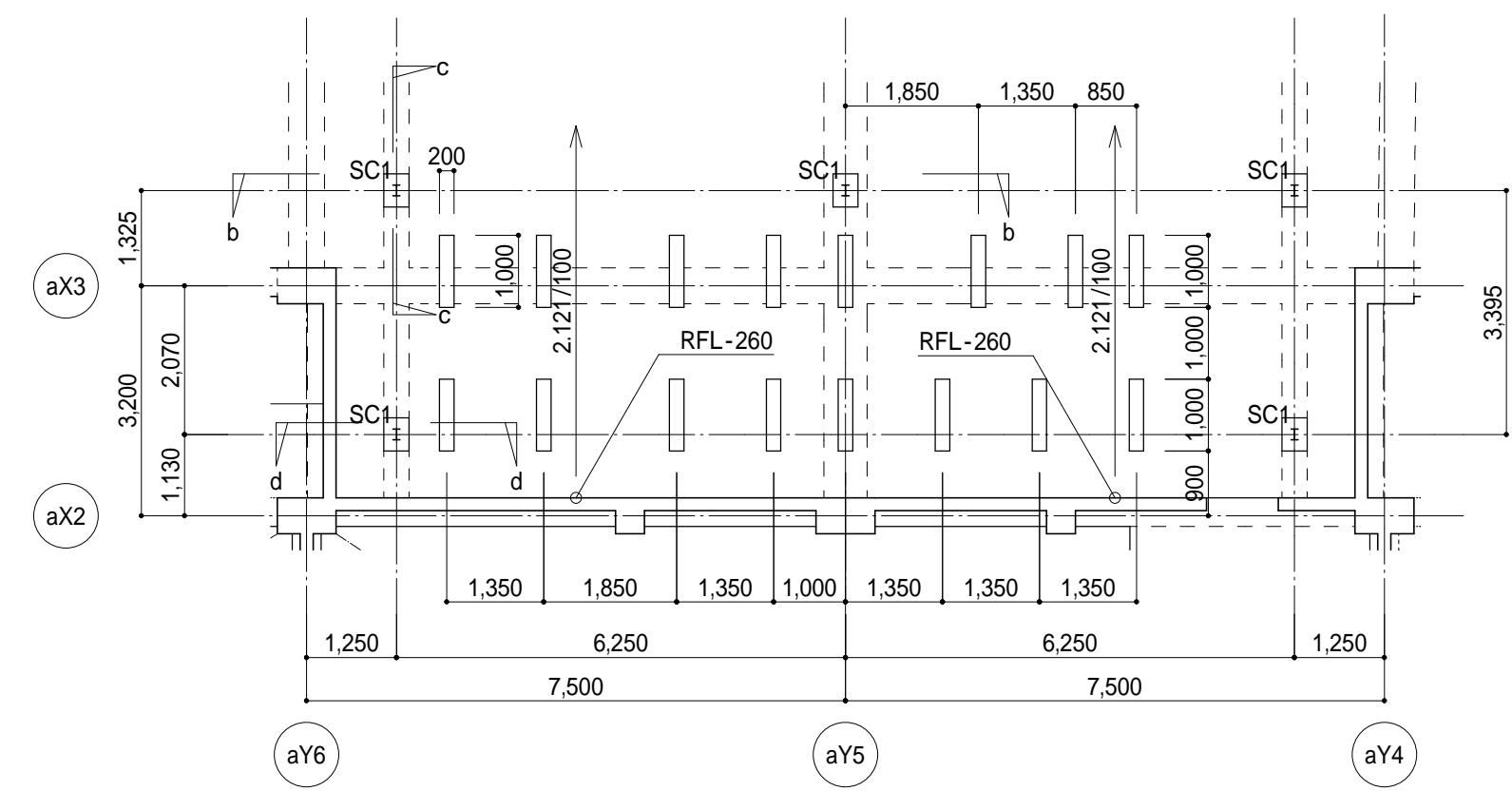
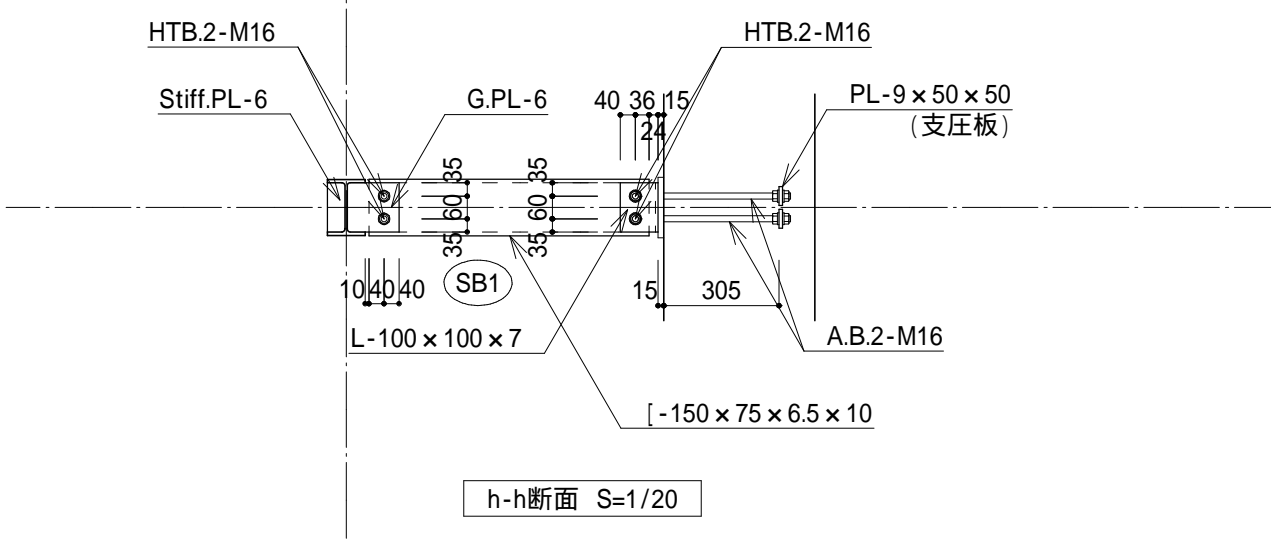
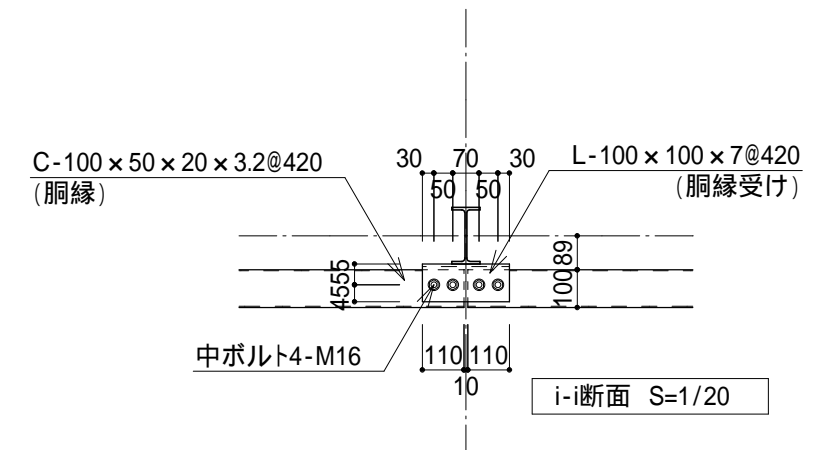
符号	FS1	FS2	FS3	FS4	FS5	符号	FS6
断面						断面	
備考	室内土間スラブ	室外土間スラブ、 $F_c=24\text{N/mm}^2$	雨水貯留槽底板耐圧版	ドライビット床 / $F_c=18\text{N/mm}^2$	雨水貯留槽底板耐圧版	備考	ELVビット底スラブ

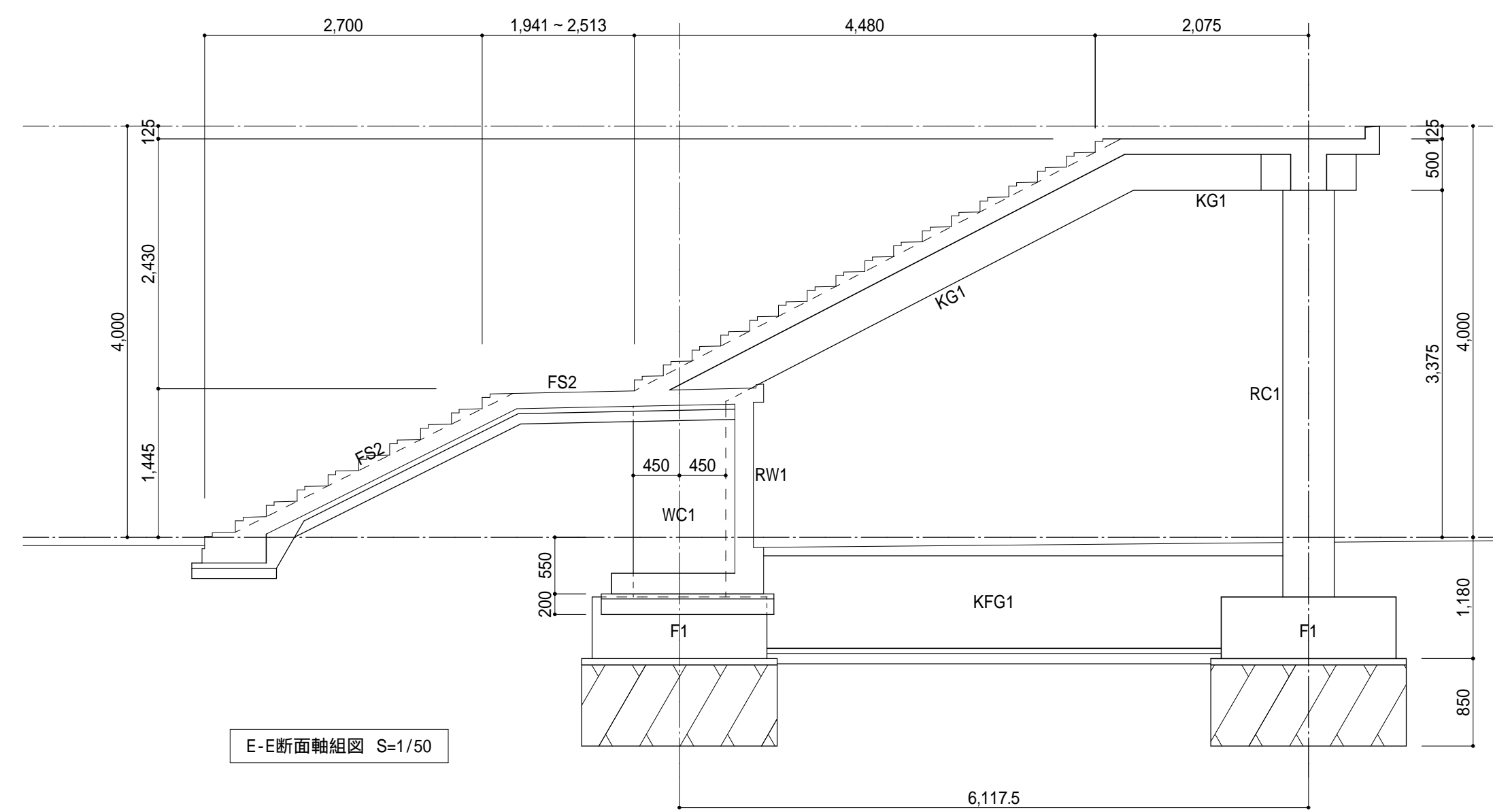
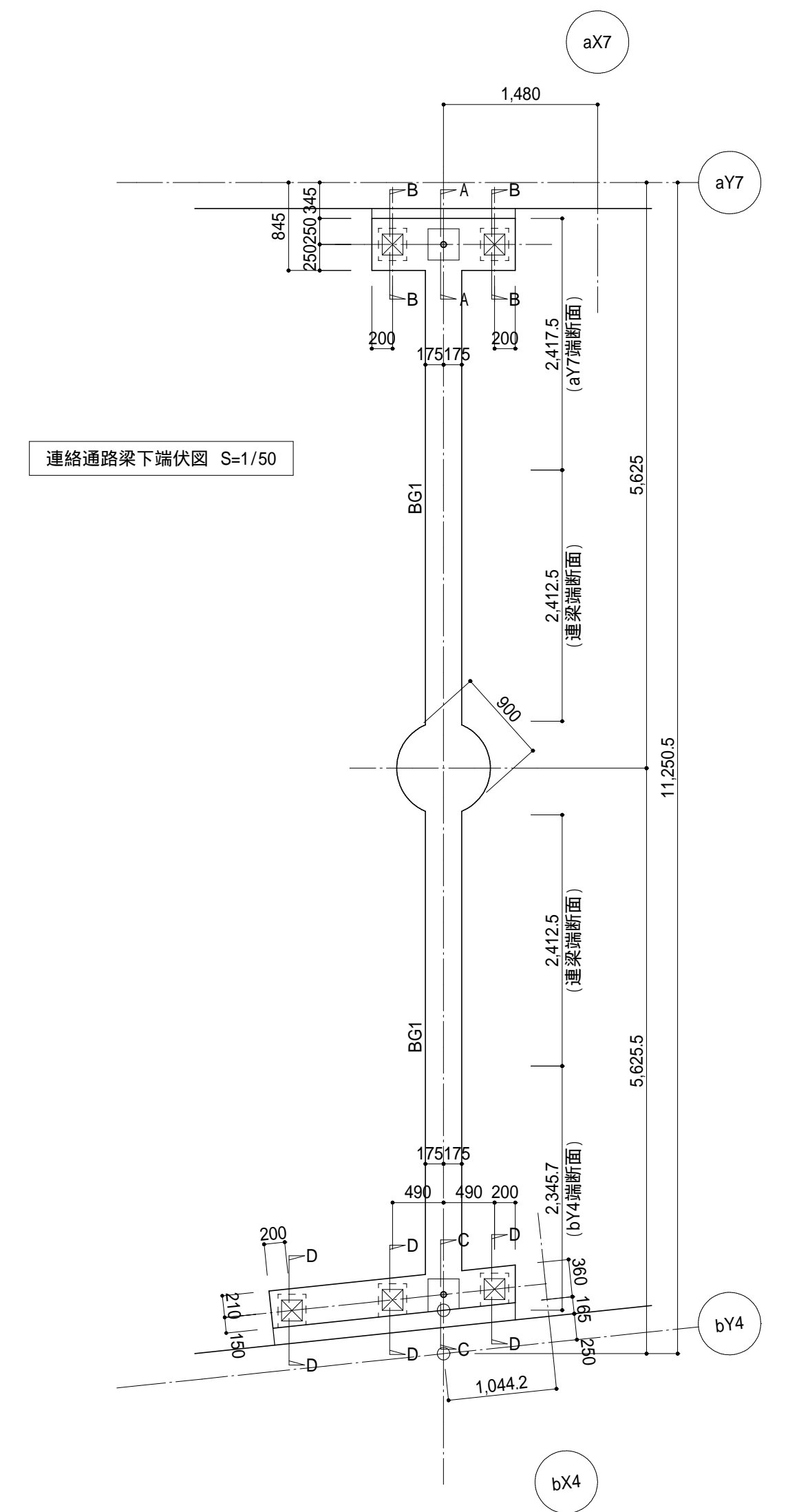
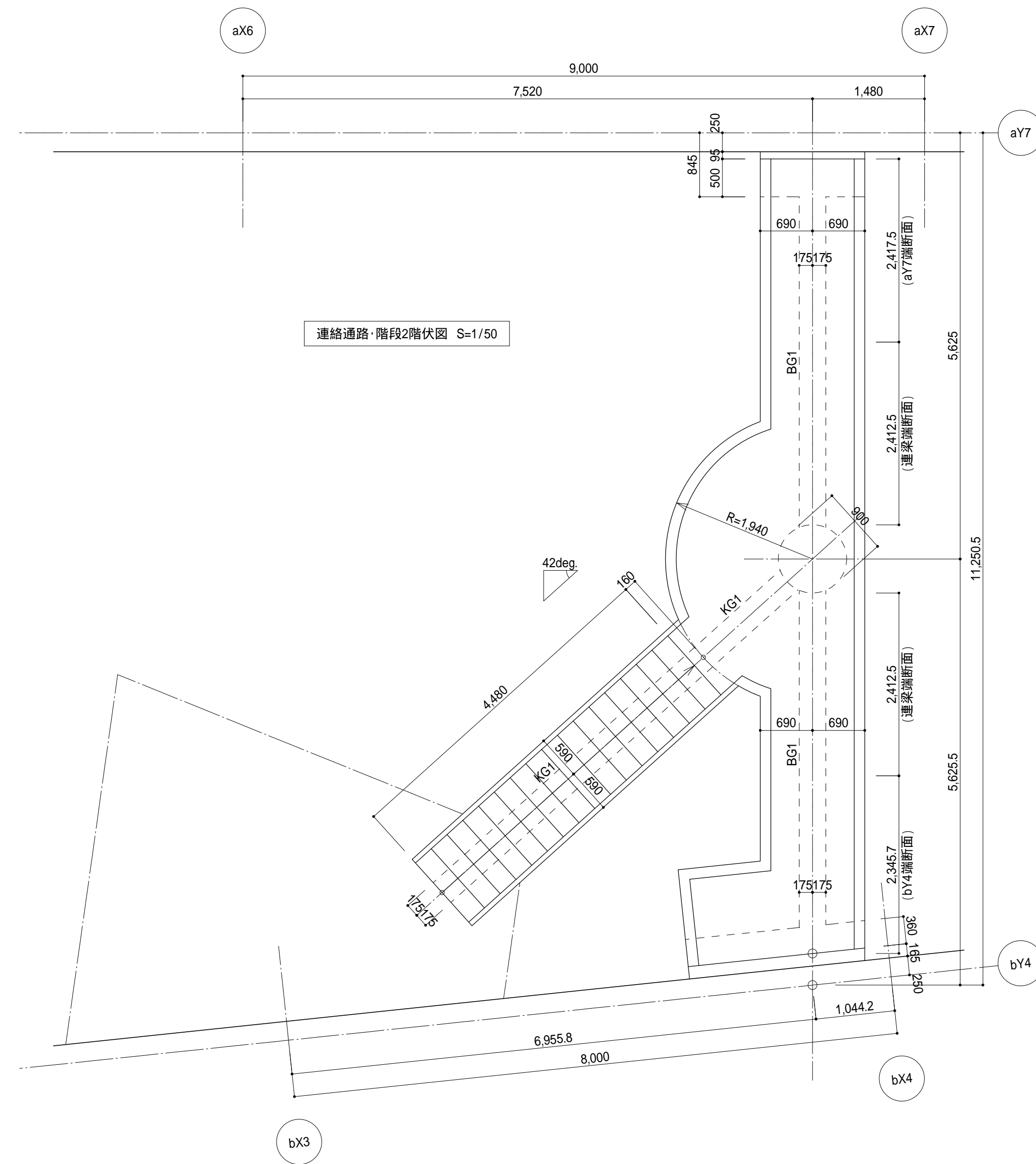
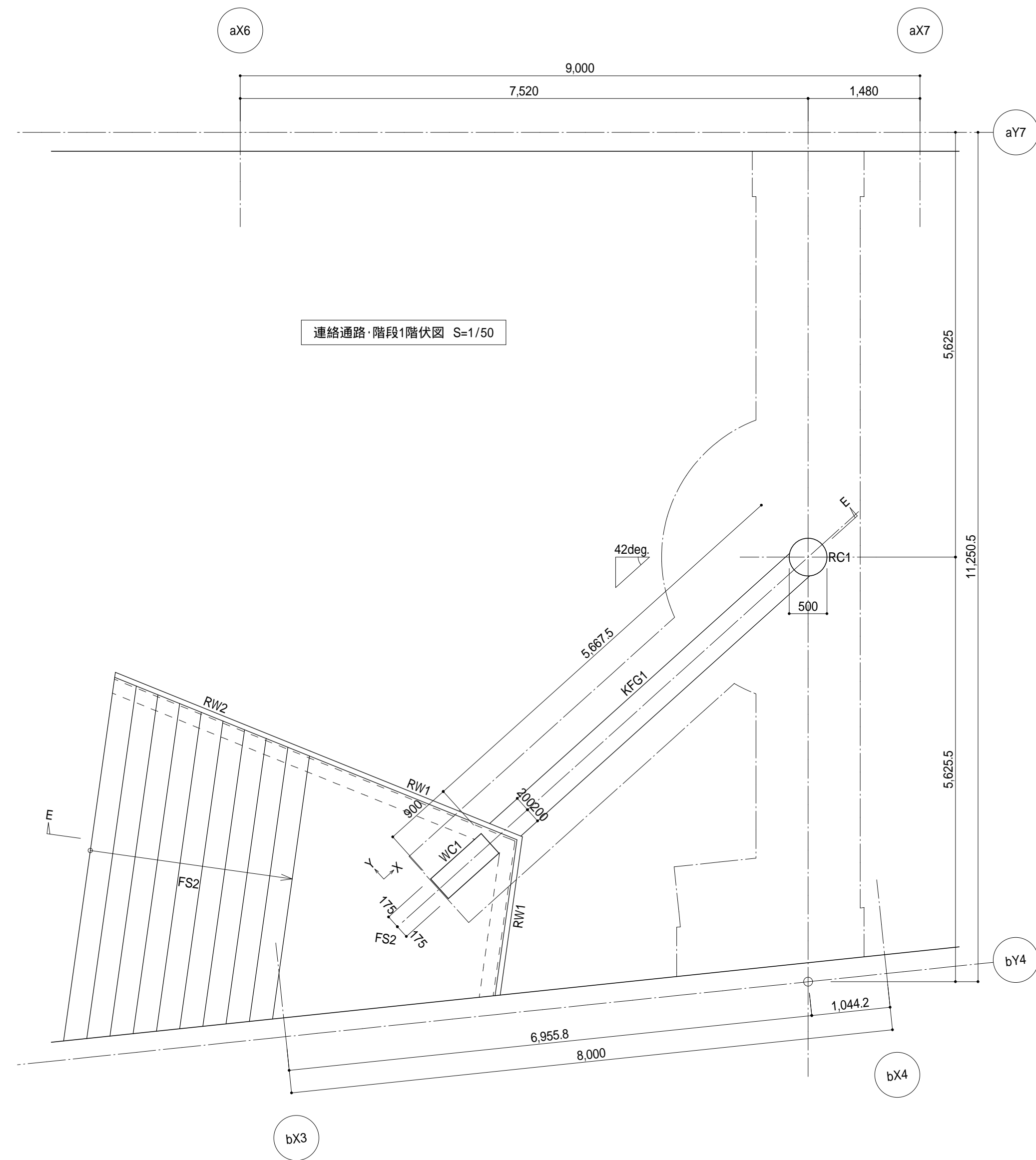


部材リスト

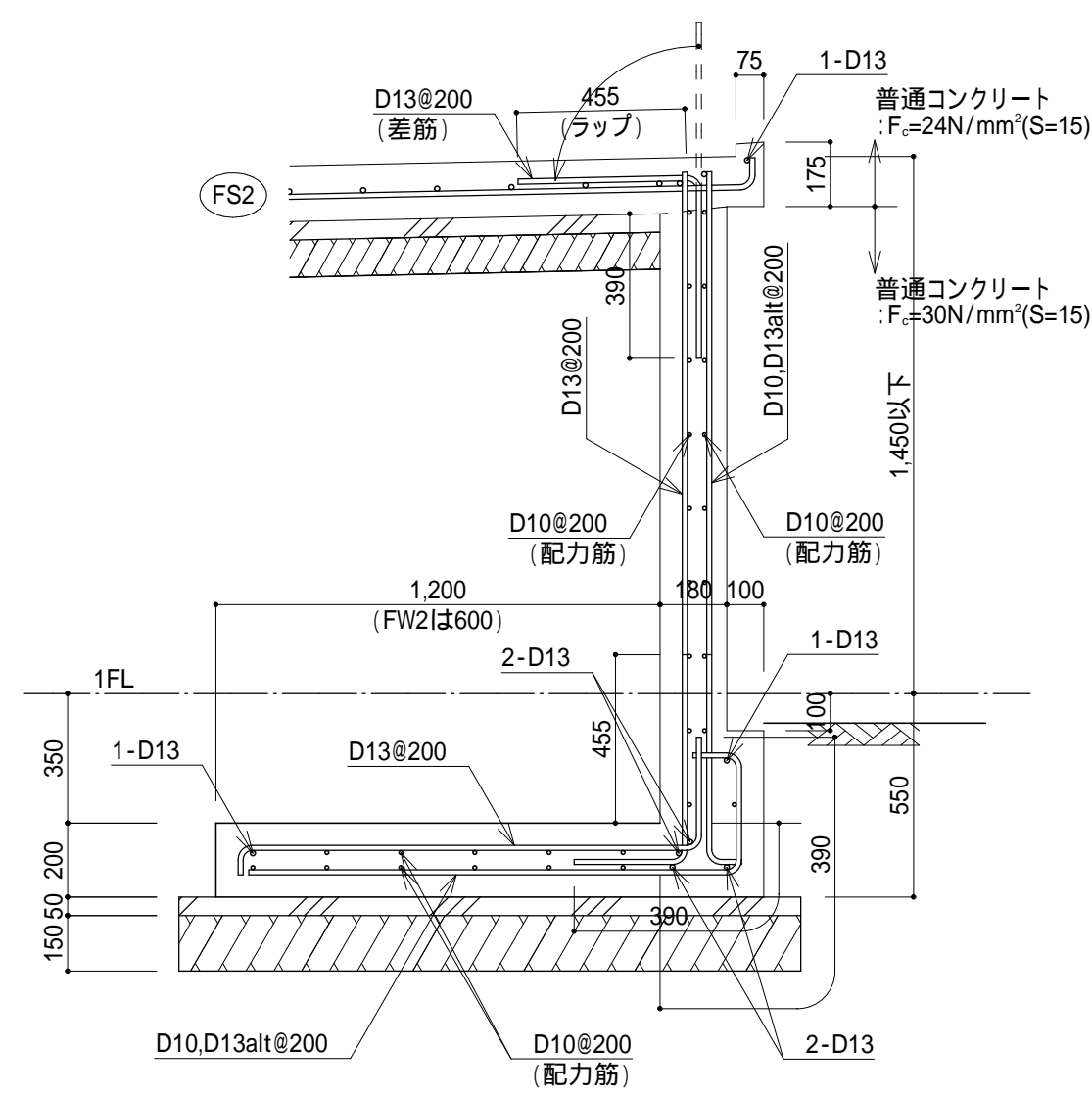
符号	形鋼サイズ	仕様
SC1	H-148 x 100 x 6 x 9	SS400
SG1	H-150 x 150 x 7 x 10	SS400
SG2	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400
SB1	[-150 x 75 x 6.5 x 10]	SS400
ST1	H-150 x 75 x 5 x 7	SS400
BR1	1-M12 (T.B.付き引張ブレース)	JIS A 5540適合品 (適合品なら既製品も可)
A.B.	M16 (アンカーボルトセット)	ABR400 (転造ネジ)
鋼線	C-100 x 50 x 20 x 3.2	SSC400

接合部ファスナー
 高力ボルト (F8T), 中ボルト (SS400相当)
 共通事項
 アンカーボルトとそのナット、支圧板を除く使用部材はいずれも溶融亜鉛メッキ処理を施すこと。

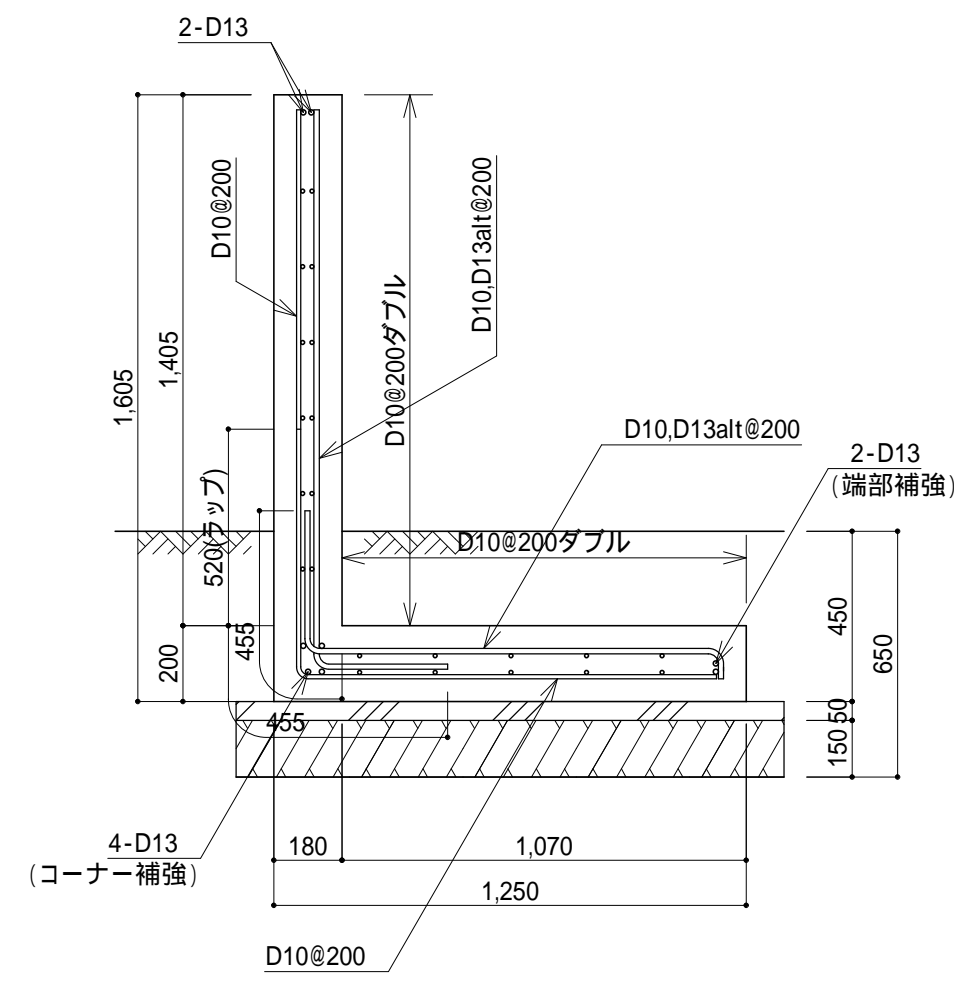




S028	横瀬小学校校舎建築工事		
	外構構造図(1)		
	S=1/50	20/09/25	/ 林
大宇根建築設計事務所			

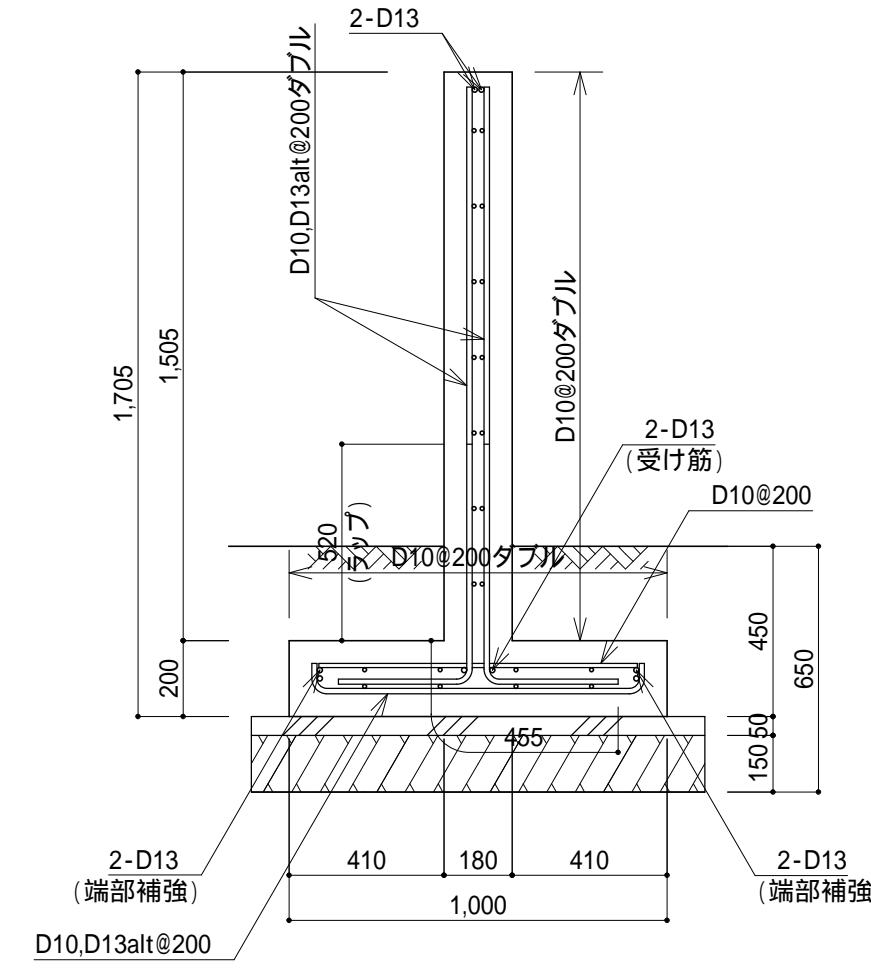


擁壁RW1-RW2断面詳細図 S=1/20



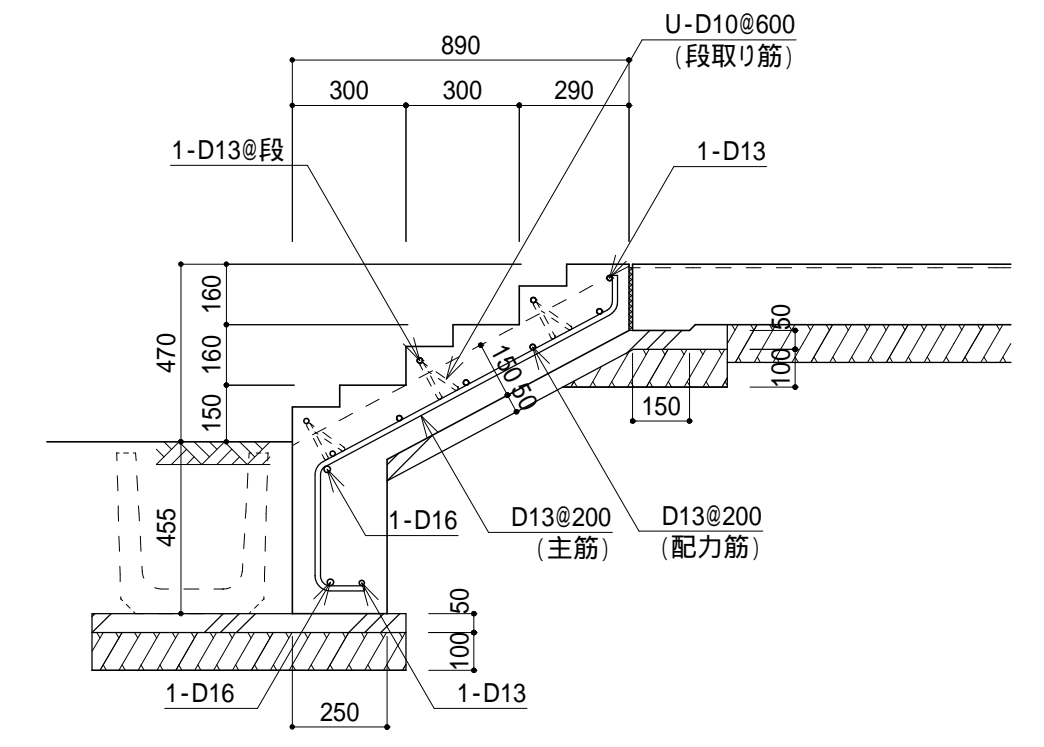
RW3(職員駐車場出入口) S=1/20

特記事項
1)設置個所については意匠図参照。



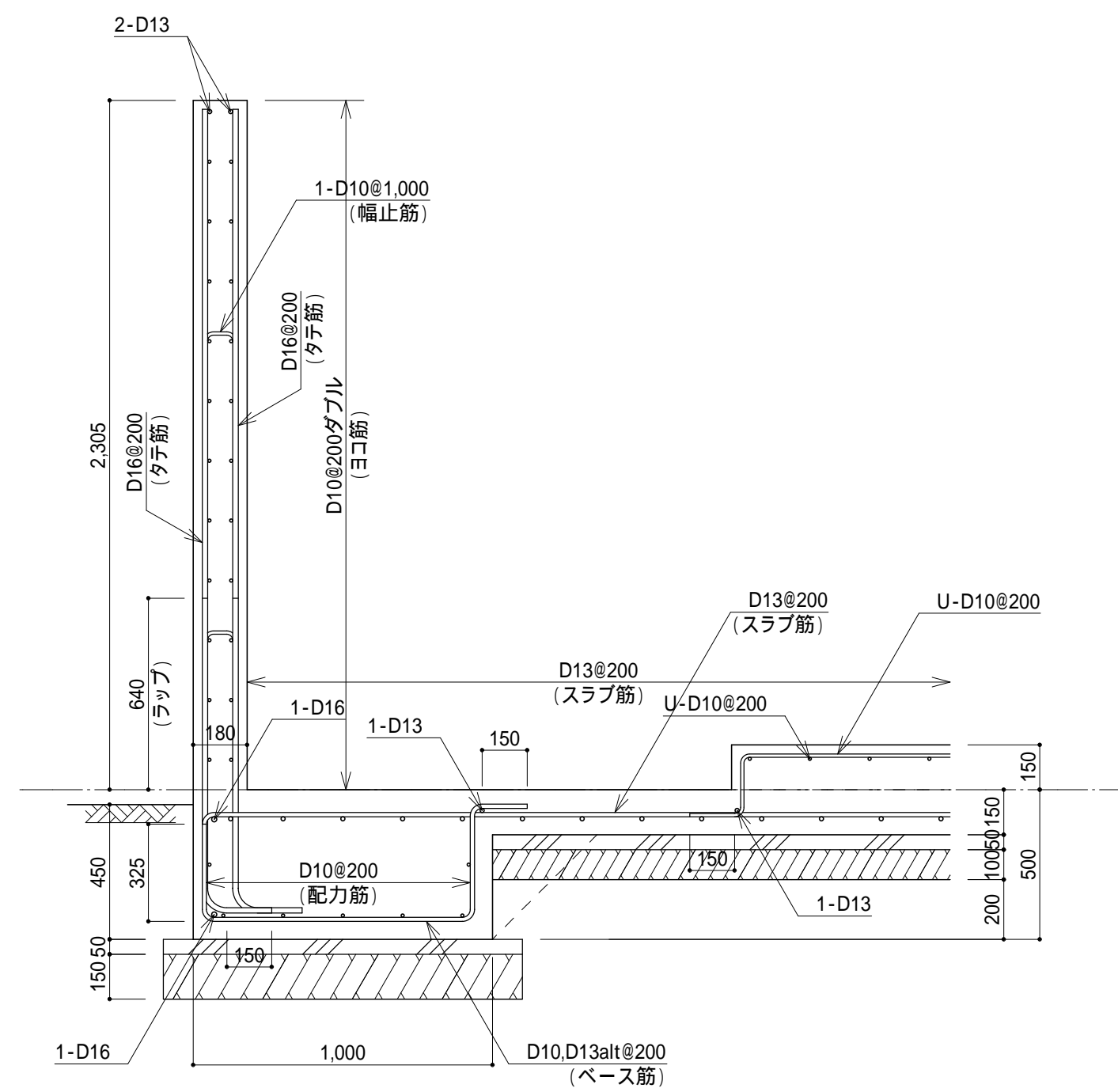
RW4(東側通用門) S=1/20

特記事項
1)設置個所については意匠図参照。



昇降口玄関前階段 S=1/20

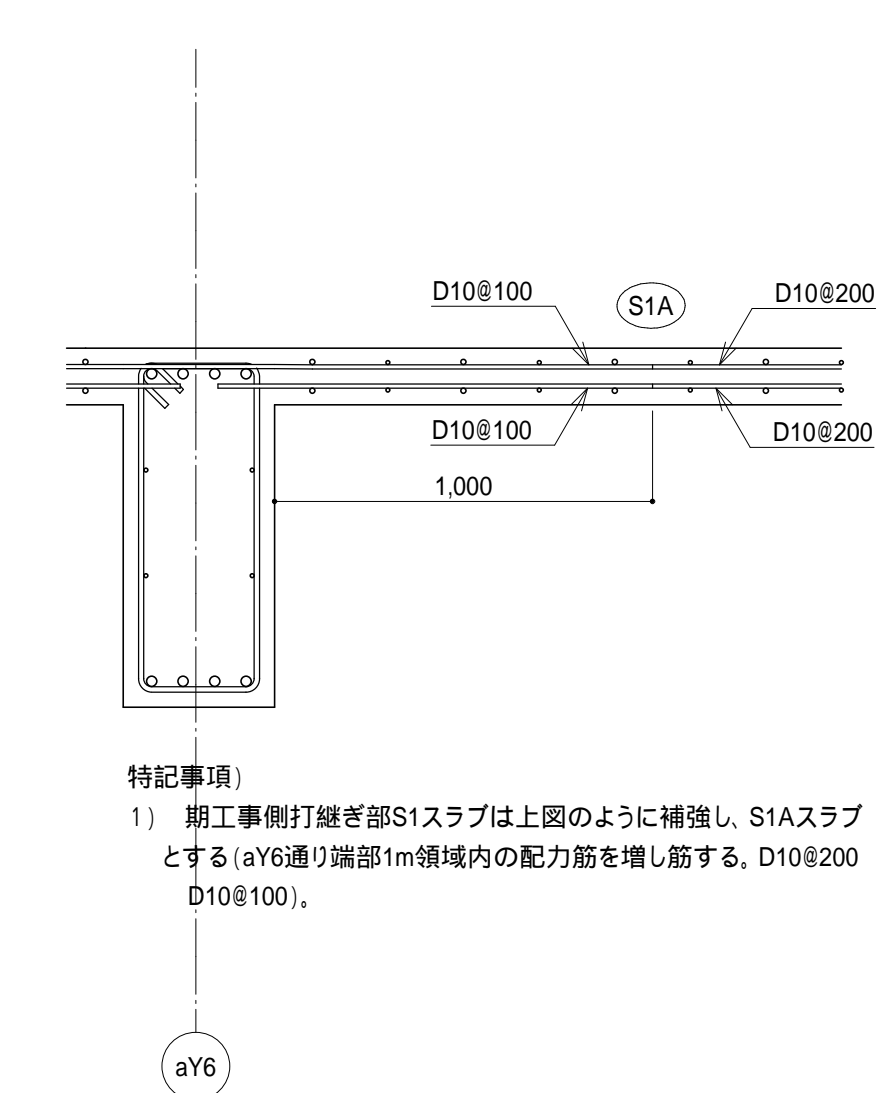
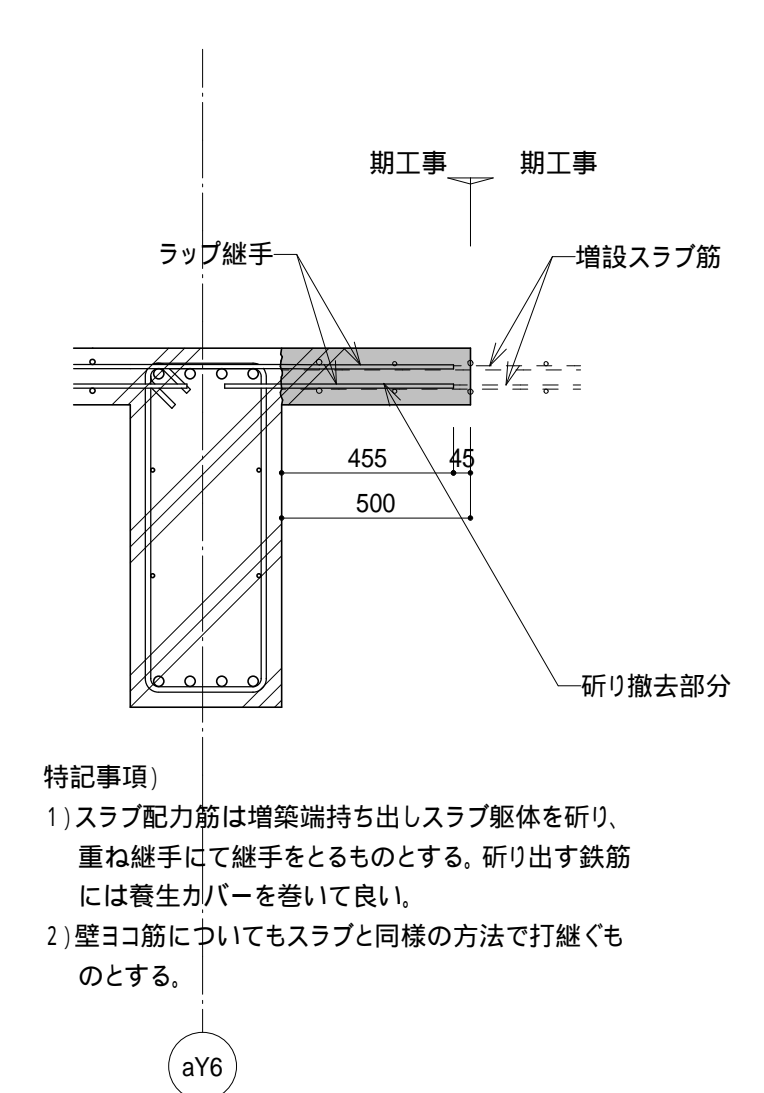
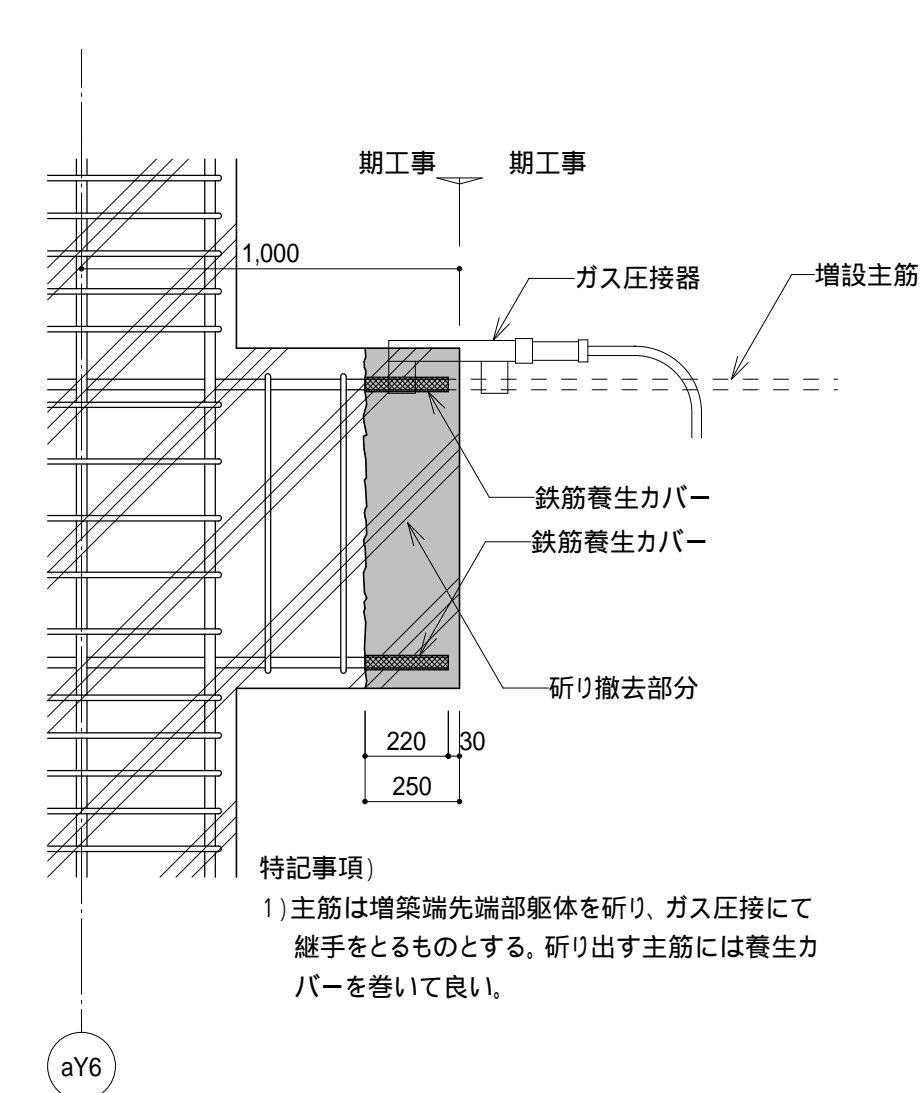
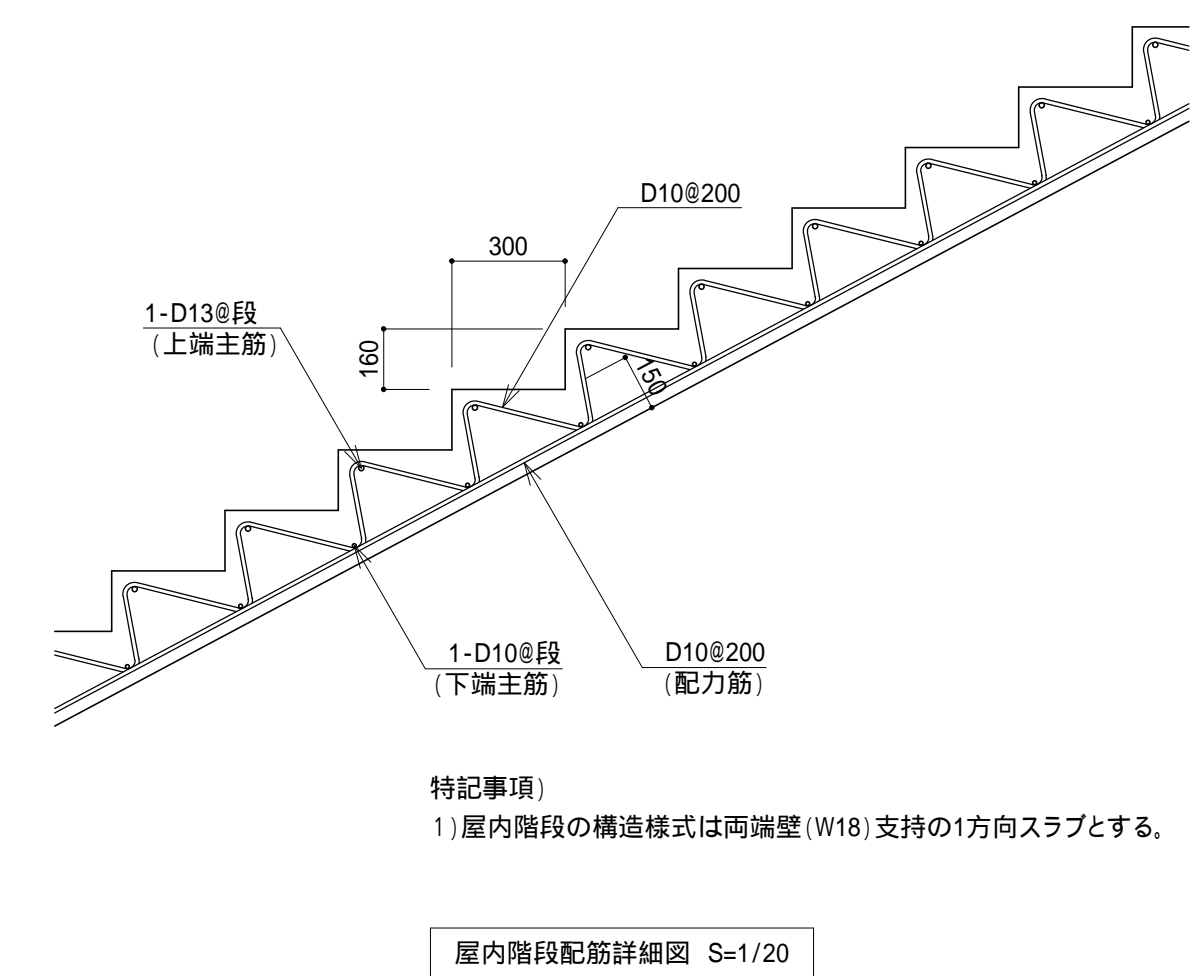
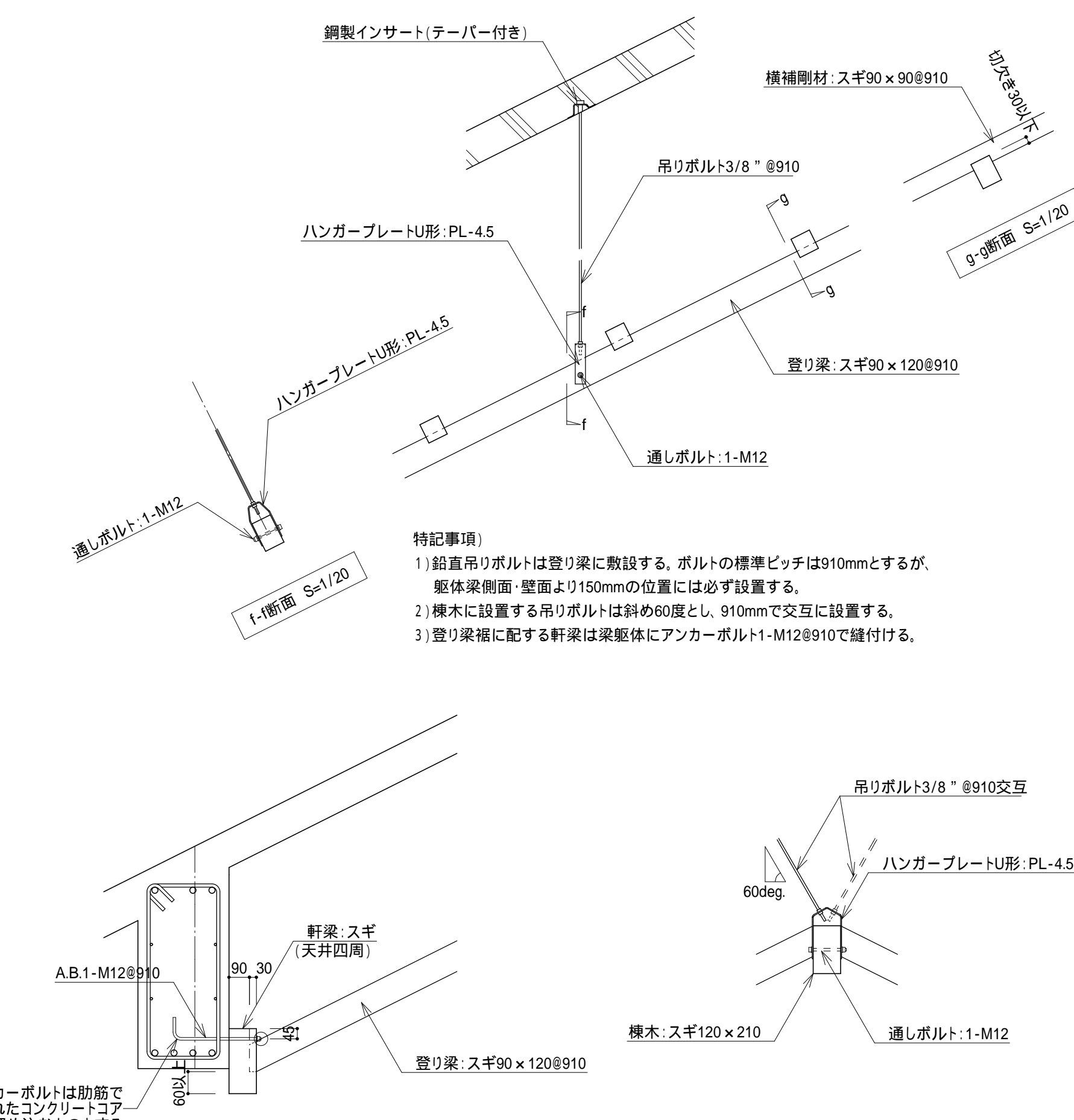
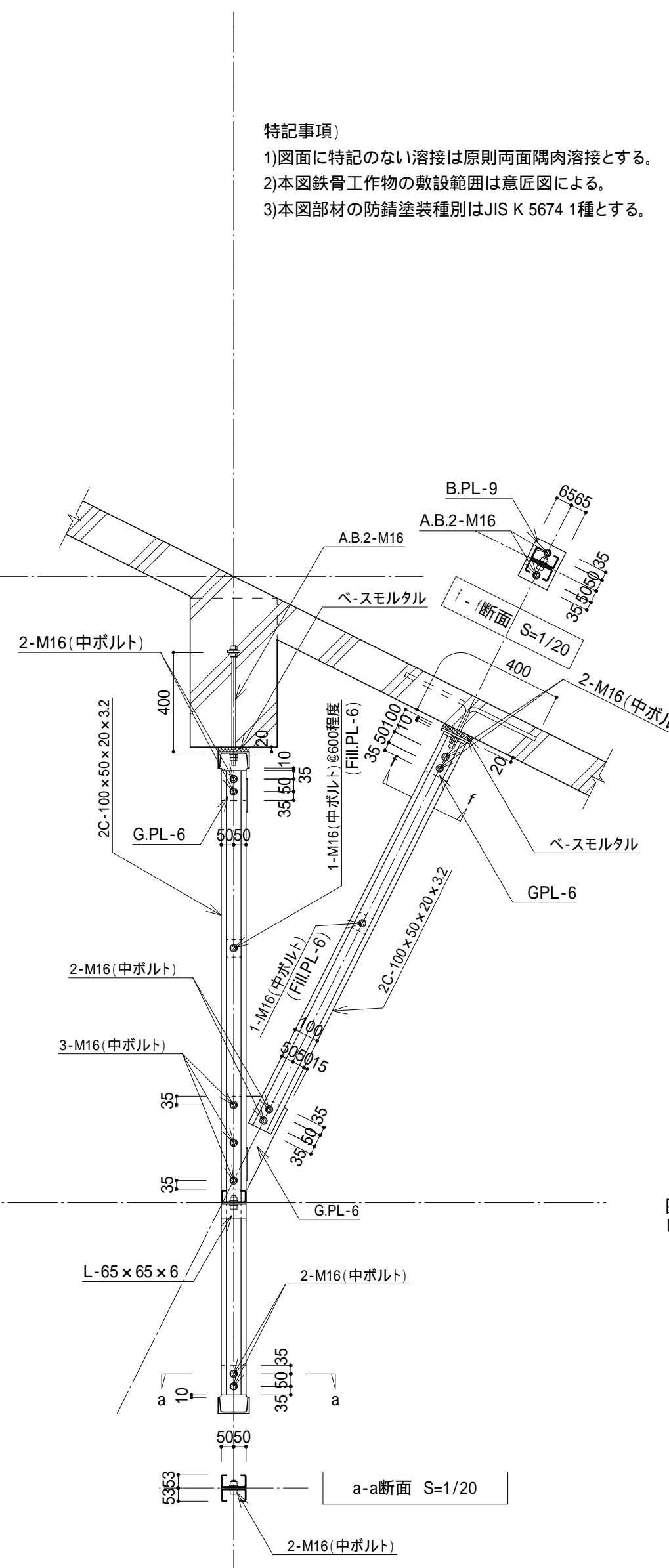
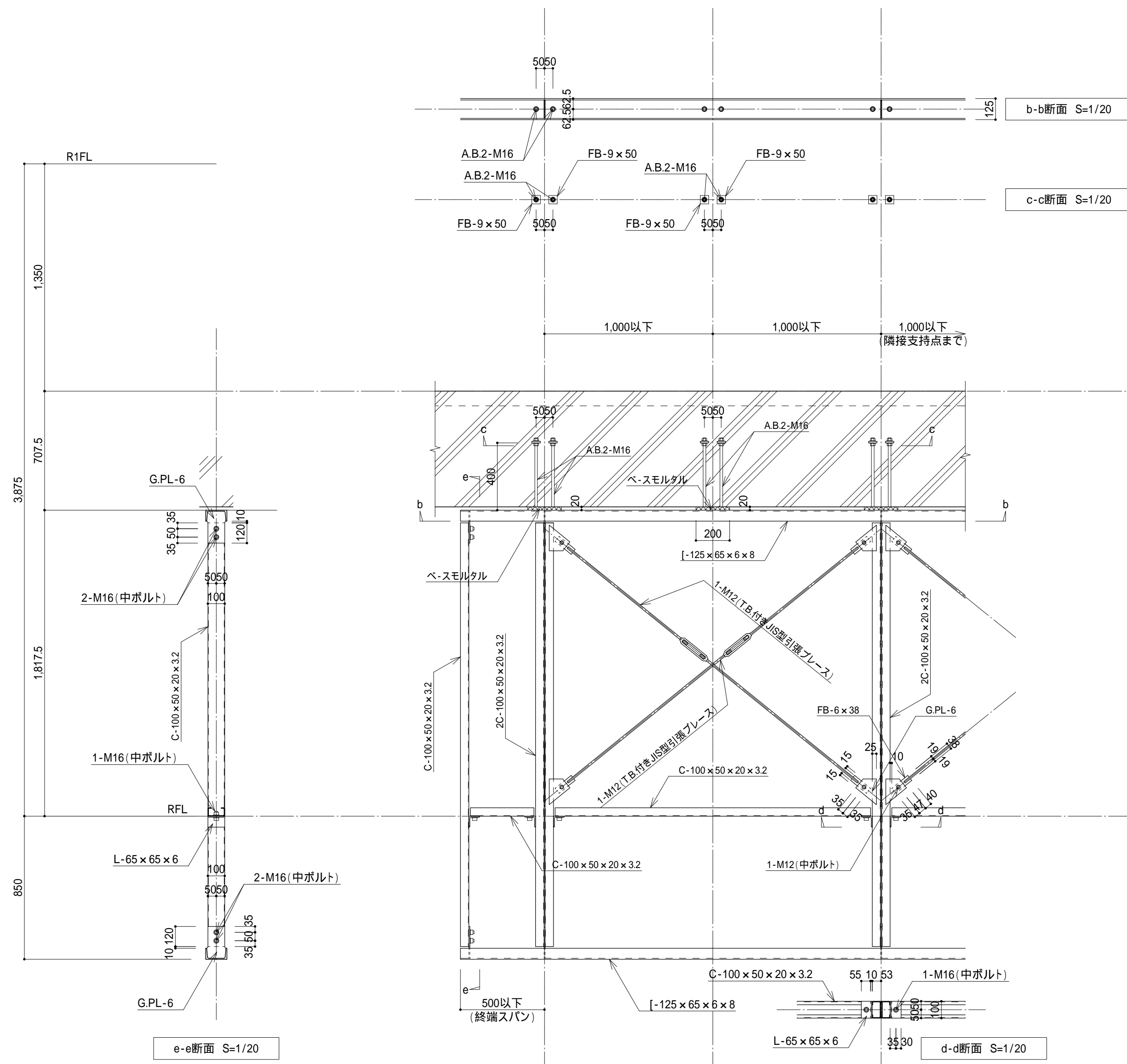
特記事項
1)設置個所については意匠図参照。



屋外機械置場目隠し壁 S=1/20

特記事項
1)設置個所については意匠図参照。

S030	横瀬小学校校舎建築工事		
	外構構造図(3)		
	S=1/20	20/09/25	/ 林
大宇根建築設計事務所			



特記事項
 1) 図面に特記のない溶接は原則両面隅肉溶接とする。
 2) 本図鉄骨工作物の敷設範囲は意匠図による。
 3) 本図部材の防錆塗装種別はJIS K 5674 1種とする。

特記事項
 1) 鉛直吊りボルトは登り梁に敷設する。ボルトの標準ピッチは910mmとするが、躯体梁側面・壁面より150mmの位置には必ず設置する。
 2) 棟木に設置する吊りボルトは斜め60度とし、910mmで交互に設置する。
 3) 登り梁端に配する軒梁は梁躯体にアンカーボルト1-M12@910で縫付け。

特記事項
 1) 屋内階段の構造様式は両端壁 (W18) 支持の1方向スラブとする。

特記事項
 1) 主筋は増築端先端部躯体を切り、ガス圧にて継手をとるものとする。切り出す主筋には養生カバーを巻いて良い。

特記事項
 1) スラブ配筋は増築端持ち出しスラブ躯体を切り、重ね継手にて継手をとるものとする。切り出す鉄筋には養生カバーを巻いて良い。
 2) 壁コ筋についてもスラブと同様の方法で打継ぐものとする。

特記事項
 1) 期工事側打継ぎ部S1スラブは上図のように補強し、S1Aスラブとする (aY6通り端部1m領域内の配筋を増し筋する、D10@200 D10@100)。